



発表（プレゼン・スピーチ	◎	◎	◎	◎	50
授業への貢献度	◎	◎	◎	◎	50
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/03/31 23:12:04					



出席	◎	○	○	◎	
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：オフィスアワーを利用すること。					
その他：					
更新日付：2017/03/31 14:51:08					



と発表、討論。					
授業以外での学習にあたって：輪読担当の場合は当然として、毎回テキストに関する事前予習を行う必要がある。					
テキスト：角山栄『茶の世界史』（中公新書）					
参考書：					
授業資料：					
成績評価：					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート	◎	◎	◎	◎	
発表（プレゼン・スピーチ）	◎	◎	◎	◎	
授業への貢献度	◎	◎	◎	◎	
作品					
出席	◎	◎	○	◎	
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他： オフィスアワー：随時。メールで要予約。 fujii@econ.kyushu-u.ac.jp					
更新日付：2017/03/14 16:53:15					



その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/03/31 17:09:04					





					の学生は質問の準備
授業以外での学習にあたって：報告の準備やケース・スタディの報告などは講義外の時間で事前に準備する必要がある					
テキスト：鈴木基史・羽岡秀晃『実務から学ぶ コーポレートファイナンス』中央経済社、2011年					
参考書：					
授業資料：					
成績評価：					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：講義は、必ず出席すること					
学習相談：講義終了後					
その他：					
更新日付：2017/03/24 13:58:56					



る文献の輪読					
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 1) ゼミは週1回の本ゼミ、不定期開催（おおむね月に1回）のグループごとにリサーチに必要な文献を輪読するサブゼミで進められる。アウトプットは、ゼミ合宿時のパワーポイント、卒業時に作成するゼミ論文となる（いずれもグループワークによる共同作成）。 2) 毎年夏に中国の研修旅行を任意参加で挙げてきた。平成21年度は大連・瀋陽・上海、平成22年度は山西省・内蒙古、平成23年度は湖北省、河南省、北京、平成24年度は山西省・江蘇省（南京、蘇州）、上海を巡った。しかし日中関係の悪化から、平成25年度は海南省のみとなり、日数も大幅に縮減せざるを得ない状況となった。研修旅行は企業調査など得難い学習機会であるとともに、ゼミ生同士が絆を強める良い機会となっているので、来年度も極力実施したいと考えてはいるが、情勢次第で平成29年度は休止せざるを得ない可能性もあることを一応明記しておく。 3) ゼミ合宿は国内で実施。平成24年度は3泊4日で行った。リサーチ成果の報告を行う真面目な合宿であったが、パターゴルフをやったり、アフターゼミも色々と思い出深いものがあります。 4) 実積・北澤・鷺崎・水野ゼミと共同研究発表会を平成21年度より実施しており、平成26年度も12月に実施予定。また神戸大学の加藤弘之・梶谷懐ゼミとディベート方式のインゼミ討論会も平成24年度より実施している。 5) ゼミの詳しい活動などについては、 <a href="http://www.en.kyushu-u.ac.jp/horii/top.html">http://www.en.kyushu-u.ac.jp/horii/top.html</a> を参照。					
<b>テキスト：</b> オリエンテーションにて別途指定する。 なお、前期は、以下のテキストを本ゼミの輪読用に使用するので、出来ればオリエンテーション時（今年は4月10日）に入手していることが望ましい。 1) 南亮進・牧野文夫編 [2016] 『中国経済入門[第4版] 高度成長の終焉と安定成長への途』日本評論社 2) 丸川 知雄 [2013] 『現代中国経済』有斐閣					
<b>参考書：</b> 別途紹介する					
<b>授業資料：</b>					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）	◎	◎	◎	◎	
授業への貢献度	◎	◎	◎	◎	
作品					
出席				○	
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b>					
<b>学習相談：</b> メールで事前予約をしてくれればスケジュールを調整し、随時受け付けます。					
<b>その他：</b>					
<b>更新日付：</b> 2017/03/25 16:01:17					



小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他： 文理双方の能力を必要とする。数学，経済，計算機すべてに意欲的に取り組める好奇心旺盛な学生が望ましい。					
更新日付：2017/03/14 15:02:27					



小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他： 文理双方の能力を必要とする。数学，経済，計算機すべてに意欲的に取り組める好奇心旺盛な学生が望ましい。					
更新日付：2017/03/14 15:02:07					



平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：経済工学演習①		講義題目：			
授業科目区分：		講義コード：17170017			
開講学期等：通年	担当教員名：藤田 敏之	単位数：4.0		対象 学年等：学部3，4年	
履修条件： 研究が好きな人。積極的に学習し，かつ協調的な人。		キーワード： 環境規制，外部性，費用便益分析，環境評価，廃棄物，ゲーム理論，均衡		履修に必要な知識・能力： 2年次までで学ぶ数学と経済学の基本科目の内容をある程度理解していること。	
<b>授業の概要：</b> 教員の専門である環境経済学およびゲーム理論の入門から中級までの内容を学ぶ。ゼミは2年間で完結するので2年連続での受講が望ましい。3年ゼミでは教科書を読み，環境経済学とゲーム理論の基本的内容をしっかり身につける。4年ゼミでは3年次の学習を踏まえて環境のゲーム理論的分析に関する論文や研究書を読み，専門的な分野にふみこんで学習する。ゼミ論文を課すことはしないが，年度末には全員にレポートを課す。 Junior students learn basic matters on environmental economics and game theory reading standard testbooks. Senior students learn how to apply game theory for the analyses of environmental issues reading academic papers.					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：環境経済学とゲーム理論の基礎から中級を学び，環境問題のゲーム理論的分析を理解する。 B：専門的技能：環境経済学，ゲーム理論について自分が理解した内容を他人に伝えることができ，他人の報告に対して適切なコメントをすることができる。 D：態度・志向性：環境問題，環境政策，意思決定の科学全般に関心をもち，日ごろから教科書以外の文献も調査する。					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
ガイダンス					
基本的な内容についての講義		○			
基本的な内容についての講義		○			
基本的な内容についての講義		○			
基本的な内容についての講義		○			
学生による報告					
学生による報告					
学生による報告					
学生による報告					
学生による報告					
学生による報告					
学生による報告					
学生による報告					
学生による報告					
学生による報告					
総括					
授業以外での学習にあたって：報告者が責任をもった報告を行うことと，受講者の積極的な参加を希望する。					
テキスト：栗山・馬奈木『環境経済学をつかむ』有斐閣，渡辺『ゼミナール ゲーム理論入門』日本経済新聞社。					
参考書：特になし。					
<b>授業資料：</b>					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識・理解	B： 専門的技能	C： 汎用的技能	D： 態度・志向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート	◎	◎			
発表（プレゼン・スピーチ）	○	◎	◎		

授業への貢献度	○	○	◎		
作品					
出席			◎		
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：Eメールにて随時受け付ける。					
その他：					
更新日付：2017/03/13 15:43:41					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：経済工学演習①		講義題目：医療経済学			
授業科目区分：		講義コード：17170019			
開講学期等：通年	担当教員名：三浦 功	単位数：4.0	対象 学年等：学部3，4年		
履修条件： ミクロ経済学（4単位）を履修済みであることが望ましい。 公共経済学を履修することが望ましい。		キーワード： 少子・高齢化問題、医療・介護費用、高品質の医療・介護サービス、医療イノベーション		履修に必要な知識・能力： ミクロ経済学、公共経済学、経営学	
<b>授業の概要：</b> 本演習では、高齢化の進展などにより、今後、増大しつつある医療・介護費を抑制しつつ、高品質の医療・介護サービスを持続的かつ公平に供給するための方法について、医療経済学の知見に依拠しながら検討する。 In this exercise, we examine about the way to sustainable and equitable supply of high-quality health care services from the viewpoint of Health Economics while the medical and nursing care costs will be increasing due to aging of the population in the future.					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：医療経済学の用語や分析手法を理解する。 B：専門的スキル：医療経済に関する理論、制度、政策を理解する。 C：汎用的スキル：医療経済に関する諸問題を効率性、公平性、品質向上の観点から分析できる。 D：態度・志向性：医療経済学の知見を現実の医療問題の解決に応用する志向性を発揮できる。					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
ガイダンスおよび日本の医療・介護の現状（1）		○			
日本の医療・介護の現状（2）		○			
日本の医療・介護の現状（3）		○			
医療と情報（1）			演習		
医療と情報（2）			演習		
医療と情報（3）			演習		
医療と情報（4）			演習		
医療と情報（5）			演習		
供給者誘発需要仮説（1）			演習		
供給者誘発需要仮説（2）			演習		
高齢者医療（1）			演習		
高齢者医療（2）			演習		
高齢者医療（3）			演習		
高齢者医療（4）			演習		
高齢者医療（5）			演習		
ガイダンス		○			
イノベーション（1）			演習		
イノベーション（2）			演習		
イノベーションのジレンマ（1）			演習		
イノベーションのジレンマ（2）			演習		
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 平素から日本の医療問題に関して、新聞などを通じて情報収集に心掛けてほしい。					
<b>テキスト：</b> （前期） 使用せず （後期） クリステンセン他『医療イノベーションの本質』碩学舎					
<b>参考書：</b> （前期） 河口洋行『医療経済学（第3版）』日本評論社 池上直己『医療・介護問題を読み解く』日経文庫 （後期） クリステンセン『クリステンセン 経営論』ダイヤモンド社					
<b>授業資料：</b> 授業時に適宜配布					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート	○	○	○	○	10%

発表（プレゼン・スピーチ	◎	◎	◎	◎	70%
授業への貢献度	○	○	○	○	10%
作品					
出席	○	○	○	○	10%
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：随時、メールで連絡すること					
その他：					
更新日付：2017/03/29 12:25:45					



授業への貢献度	○	○	○	○	
作品					
出席	○	○	○	○	
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/03/29 11:23:49					



授業への貢献度	◎				
作品					
出席	◎				
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：必要に応じて課題を課す。出席は必須。最終評価は発表、課題提出などで総合的に判断する。					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/04/10 03:22:54					





その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：必要に応じて課題を課す。出席は必須。最終評価は発表，課題提出などで総合的に判断する。					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/04/10 03:21:21					



	知識 ・理 解	専門 的技 能	汎用 的技 能	態度 ・志 向性	
学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：オフィスアワー：随時。事前にメールで連絡して下さい。shimizu@econ.kyushu-u.ac.jp					
その他：					
更新日付：2017/04/04 17:47:20					



小テスト					
レポート	◎				
発表（プレゼン・スピーチ）	◎				
授業への貢献度	○				
作品					
出席	◎				
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：授業終了後に受け付ける。					
その他：					
更新日付：2017/03/31 14:44:39					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：経済・経営学演習①		講義題目：情報化とグローバル化の経済学	
授業科目区分：		講義コード：17170031	
開講学期等：通年	担当教員名：篠崎 彰彦	単位数：4.0	対象 学年等：学部3，4年
履修条件： 演習参加申込行い受講を認められた学生だけが登録可能	キーワード： 情報化、グローバル化、企業経済、日本経済、国際経済	履修に必要な知識・能力： 経済学入門で学んだ基礎的なミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学の知識	
<b>授業の概要</b> ： ・この演習では、「情報化」と「グローバル化」が企業、産業、経済にどのような影響を与えているか、現実の動きにも目配りしながら理解を深めていきます。 ・まず、情報の収集方法と整理の仕方、実態の把握と経済学的な理解の方法をブレイン・ストーミング型のディスカッション（ディベート型ではありません）で身につけていきます。その上で、レポート・論文の作成方法、統計的事実の捕捉と基礎的なデータ処理の方法などを学んでいきます。 ・ディスカッションは、原則として年次別に進めますが、各学期に合同ゼミを行い、前後の年次の交流も深めます。 This class focuses on the global impact of information technology to the firm-level, industry-level, and macro-level economy. Intensive brain-storming discussions are strongly encouraged among participants.			
<b>到達目標</b> ： 経済学の応用力：未知の問題に直面した際、大学で経済学を学んだ者にふさわしい思考と判断ができるようになる 情報の獲得法：実態把握に必要な情報・資料収集、先行調査の整理法、基本的統計処理方法を身につける 聞く力と説明する力：ブレイン・ストーミング型ディスカッション法を習得する 態度・志向性：事前準備も含めて、ゼミ生相互で話し合い、主体的に取り組むチーム力を育む			
<b>授業計画</b> ：			
進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
ガイダンス（1回）	○	その他	ガイダンスの説明を受けて2回目以降の学習に備える
文献検索・情報収集講習（1回）		図書講習会	図書館での講習を踏まえて課題に取り組む
共通テーマの資料渉猟・調査・ディスカッション（3～5回）		演習・ディスカッション	資料の渉猟と整理を行う
輪読学習とディスカッション（6～8回）		演習・ディスカッション	事前の読み込みと関連する資料や情報の渉猟、整理を行う
統計処理と計量経済学の実習（3回程度）	○	講義と実習	演習問題を復習し統計手法を使えるようにする
応用学習とディスカッション（6回程度）		演習・ディスカッション	事前の読み込みと関連する資料や情報の渉猟、整理を行う
課題設定学習とディスカッション（6回程度）		演習・ディスカッション	アクティブラーナーとして研究テーマ設定に向けた資料の渉猟と整理を行う
研究テーマ設定とディスカッション（1回）		発表会	研究テーマの発表に向けた資料の整理を行う
<b>授業以外での学習にあたって</b> ：・3年次では、共通のトピックスについて、各自がレジュメを作成して、ゼミ生全員で多様な観点からディスカッションしていきます。また、最新の問題についても積極的に取り上げ、現実の動き			

から本質へと理解を深めますので、日ごろから現実の社会や経済に興味と関心を持って情報に接してください。  
 ・各自のパソコンでエクセルを使った初歩から学ぶデータ処理方法の実習を適宜行う予定ですので、基礎的なパソコンの操作と処理ができるようにしておいてください。

**テキスト：**・情報経済、企業経済、国際経済、統計学関連のテキストから必要な箇所を適宜指定します。

**参考書：**・3年次には、情報や文献資料の収集方法、基本的な統計処理法などを身につけ、情報経済、企業経済についての基本概念と情報化やグローバル化の現状について、ゼミ生全員が学識を共有できる演習を重視し、いくつかの入門書、論文、報告書の輪読を行う予定です。

・4年次では、ゼミ論集の完成を目標に、各自で具体的なテーマを設定し、それぞれが渉猟した専門分野の論文や書籍、データ等の資料をもとに報告と討論で演習を進めます。

・総務省『情報通信白書』やUNCTAD, Information Economy 他多数あり

**授業資料：**・新たにゼミ生となる学生（新3年生）は、4月の授業開始までに添付の「春休み資料」をよく読んでおいてください。

**成績評価：**

評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）	◎	◎	◎	○	
授業への貢献度	◎	◎	◎	○	
作品					
出席	○	○	○	◎	
その他（自由記述1） 事前準備	◎	◎		◎	
その他（自由記述2） 共同作業			◎	◎	
その他（自由記述3）					

**成績評価基準に関わる補足事項：**①事前準備の取組み姿勢、②報告者としての発表姿勢、③ディスカッションへの参加姿勢など平素の貢献度合いを全面的に考慮します（無断欠席や他のゼミ生の意欲を削ぐような姿勢が続く場合、改善がみられないと単位は認められないことがあります）。

**学習相談：**火曜日の午後の時間帯は適宜ゼミ生の学習相談を行います。

**その他：**・ゼミの運営は、年次ごとの個性と自主性を尊重します。

・前後の年次のゼミ生との交流、フィールドワーク、ゼミ合宿、自主ゼミ（サブゼミ）、懇談会（学期の節目の宴会）など、ゼミ生による主体的で積極的な活動を奨励しています。

**更新日付：**2017/03/30 15:39:37





	解	能	能	向性	
学期末試験					
小テスト					
レポート	◎		◎	○	
発表（プレゼン・スピーチ）	◎		◎	◎	
授業への貢献度	◎		◎	◎	
作品					
出席	◎		◎	◎	
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/03/26 16:39:38					



	解	能	能	向性	
学期末試験					
小テスト					
レポート	◎		◎	○	
発表（プレゼン・スピーチ）	◎		◎	◎	
授業への貢献度	◎		◎	◎	
作品					
出席	◎		◎	◎	
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/03/26 16:41:23					



評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/03/30 18:41:14					



授業への貢献度	◎				
作品					
出席	◎				
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：随時受け付けるがアポイントメントをとることが望ましい。					
その他：					
更新日付：2017/04/07 14:20:21					



平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：経済・経営学演習①		講義題目：企業価値評価			
授業科目区分：		講義コード：17170041			
開講学期等：通年	担当教員名：潮崎 智美	単位数：4.0	対象 学年等：学部3, 4年		
履修条件： 会計学Ⅰ、会計学Ⅱを履修していることが望ましい。		キーワード： 会計学、財務会計、企業分析		履修に必要な知識・能力：	
<b>授業の概要：</b> 本演習では、株主や債権者等の企業外部の利害関係者に対して報告をする「財務会計」を、新聞記事や雑誌記事などを多用して学習すると同時に、インターネットなどを通じて収集した会計情報を分析する「企業分析」の手法を学ぶ。 The main objective of this seminar is to advance your understanding and skills of financial analysis using accounting literature and cases of Japanese companies.					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解： B：専門的スキル： C：汎用的スキル： D：態度・志向性：					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
オリエンテーション					
序章 価値志向が未来を変える					
第2章 企業価値評価のフレームワーク					
第3章 財務諸表から読む企業活動					
第4章 戦略的ファンダメンタル分析					
第5章 経営戦略分析					
第6章 会計戦略分析					
第8章 企業価値とバリュエーション					
第9章 会計・財務数値と市場評価					
第10章 資本コストとリスク評価					
第12章 EVA バリュエーション					
第13章 企業価値最大化のためのM&A戦略					
第14章 無形資産の価値評価と戦略的活用					
夏休みの課題に向けて					
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 第7章 「[ケース・スタディー] 建設機械業界のファンダメンタル分析」 第11章 「[ケース・スタディー] ユナイテッド・アローズの企業価値評価」 以上の2章は、前期には取り扱わず、夏休みの課題とする。 第15章～第17章は、ゼミ終了後、各自読んでおくこと。					
<b>テキスト：</b> 伊藤邦雄(2014)『新・企業価値評価』日本経済新聞出版社。					
<b>参考書：</b> 講義中に適宜指示する。					
<b>授業資料：</b>					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専 門 的 技 能	C： 汎 用 的 技 能	D： 態 度 ・ 志 向 性	備考(欠格条件・割合)
学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表(プレゼン・スピーチ)					
授業への貢献度					

作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b>					
<b>学習相談：</b> メールでアポイントをとったうえで、研究室に来室のこと。 shiosaki@econ.kyushu-u.ac.jp 経済学部棟503					
<b>その他：</b>					
<b>更新日付：</b> 2017/03/29 20:09:03					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：経済工学演習①		講義題目：Bayes統計学入門	
授業科目区分：		講義コード：17170043	
開講学期等：通年	担当教員名：大西 俊郎	単位数：4.0	対象 学年等：学部3，4年
履修条件： 「微分積分学・同演習AB」，「線形代数・同演習AB」の単位を修得済みであること。 また，2年生ならば「数理統計学」を履修登録していること。 3年生ならば「数理統計学」の単位を修得済みであること。	キーワード： ベイズ統計学，統計ソフトウェア R	履修に必要な知識・能力：	
<b>授業の概要</b> ： 近年注目を集めているベイズ統計学を学ぶ。 統計学は科学の文法と言われることがあり，自然科学・人文科学・社会科学の幅広い学問分野で実証分析・データに基づいた意思決定に用いられている。 ベイズ統計学の特長は，事前情報とデータを統合することによって合理的な推測を可能にする点にある。 未知パラメータの個数が多い場合にパフォーマンスがよいことが知られており，今後ますます重要性が高まると思われる。 2年次後期の「数理統計学」で学んだ内容は，ベイズ統計学と対比して頻度主義の統計学と呼ばれる。 演習は3・4年合同で，2コマ連続（90分×2）で行う。 We learn Bayesian statistics that has been paid much attention in recent years. Statistics is sometimes called "scientific grammar". It is widely used in a wide variety of fields such as natural science, cultural sciences and social science in order to give experimental proofs and/or make decisions. One of the features of Bayesian statistics lies in that we can make rational inference by integrating prior information and data. Bayesian methods are known to perform well in such a case where the statistical model contains a lot of unknown parameters to be estimated, and they will be increasingly more and more important. The content of the subject "Mathematical statistics" is called frequentist' statistics in contrast with Bayesian statistics. The 3rd year students and the 4th year students learn in the same class.			
<b>到達目標</b> ： A：知識・理解：ベイズ統計学の考え方を理解し，データ解析およびシミュレーションを行う B：専門的的技能：統計検定2級（またはアクチュアリー試験の数学科目）に合格する			
<b>授業計画</b> ：			
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他
【ステップ1】 統計ソフトウェアR（アール）を使いながら，2年次後期に学んだ数理統計学を復習する。Rの利用を通してプログラミングを学ぶことができ，かつ，グラフィック機能を使うことにより数理統計学を視覚的に理解できる。また，必要に応じて少し高度な教科書を輪読し，理解を深化させる。		○	
【ステップ2】 ベイズ統計学の入門書を精読する。2項分布と正規分布を例題としてベイズ統計学の基本的考え方を理解する。事前情報をパラメータが従う確率分布として表現し，事前情報とデータを統合する方法を習得する。また，シミュレーションにおける必須のツールであるマルコフ連鎖モンテカルロ（MCMC）法を学び，Rでプログラミングする。		○	
【ステップ3】(optional) 大学院レベルの教科書を精読する。 確率収束および分布収束の概念を学び，大数の弱法則・中心極限定理を正確な意味で理解する。		○	





作品					
出席				○	
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：随時。事前にメールで連絡することが望ましい。 （メールアドレス：furukawa@econ.kyushu-u.ac.jp）					
その他：					
更新日付：2017/04/03 09:51:23					



□					
<b>参考書：</b> 中室牧子(2016)『学力の経済学』 (Discover 21) 小峯敦(2005)『福祉の経済思想家たち』 (ナカニシヤ出版) ハイブルローナー (著) [2001]『入門経済思想史—世俗の思想家たち』 (ちくま学芸文庫)					
<b>授業資料：</b> 随時、演習の時間やホームページにて提供を行う。					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考 (欠格条件・割合)
学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表 (プレゼン・スピーチ)					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他 (自由記述1)					
その他 (自由記述2)					
その他 (自由記述3)					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b> 授業は基本的に報告・討論のゼミ形式で行う。 成績は、出席、報告内容、課題などをもとにして総合的に評価する。					
<b>学習相談：</b> 火曜日の12時-13時。(研究室は経済学部棟5Fの508号室。) メールで連絡をした学生に対し、適宜、学習相談に応じる。					
<b>その他：</b>					
<b>更新日付：</b> 2017/03/13 17:36:42					





□					
<b>参考書：</b> 中室牧子(2016)『学力の経済学』 (Discover 21) 小峯敦(2005)『福祉の経済思想家たち』 (ナカニシヤ出版) ハイブルーナー (著) [2001]『入門経済思想史—世俗の思想家たち』 (ちくま学芸文庫)					
<b>授業資料：</b> 随時、演習の時間やホームページにて提供を行う。					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考 (欠格条件・割合)
学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表 (プレゼン・スピーチ)					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他 (自由記述1)					
その他 (自由記述2)					
その他 (自由記述3)					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b> 授業は基本的に報告・討論のゼミ形式で行う。 成績は、出席、報告内容、課題などをもとにして総合的に評価する。					
<b>学習相談：</b> 火曜日の12時-13時。(研究室は経済学部棟5Fの508号室。) メールで連絡をした学生に対し、適宜、学習相談に応じる。					
<b>その他：</b>					
<b>更新日付：</b> 2017/03/13 17:38:37					



レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/04/09 17:26:01					



<b>授業資料：</b> 授業中に適宜配布していく。					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専 門 的 技 能	C： 汎 用 的 技 能	D： 態 度 ・ 志 向 性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート	◎	◎	○	○	15%
発表（プレゼン・スピーチ）	○	○	◎	○	15%
授業への貢献度	○	○	○	○	15%
作品					
出席				◎	15%
その他（自由記述1） インゼミへの貢献度	◎	◎	◎	◎	40%
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b>					
<b>学習相談：</b> 授業終了後に対応する。それ以外については、事前にメールでアポイントメントをとったうえで研究室に来室すること。					
<b>その他：</b> 第1回授業は4月13日（木）に開講する。					
<b>更新日付：</b> 2017/03/23 12:32:41					



<b>授業資料：</b> 授業中に適宜配布していく。					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート	◎	◎	○	○	15%
発表（プレゼン・スピーチ）	○	○	◎	○	15%
授業への貢献度	○	○	○	○	15%
作品					
出席				◎	15%
その他（自由記述1） インゼミへの貢献度	◎	◎	◎	◎	40%
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b>					
<b>学習相談：</b> 授業終了後に対応する。それ以外については、事前にメールでアポイントメントをとったうえで研究室に来室すること。					
<b>その他：</b> 第1回授業は4月13日（木）に開講する。					
<b>更新日付：</b> 2017/03/22 16:36:28					





その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/04/02 00:51:29					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：経済・経営学演習①		講義題目：企業会計			
授業科目区分：		講義コード：17170059			
開講学期等：通年	担当教員名：大石 桂一	単位数：4.0		対象 学年等：学部3, 4年	
履修条件： 会計学Ⅰ・Ⅱを履修していること。		キーワード： 会計、財務諸表、企業分析		履修に必要な知識・能力： 簿記・会計の基礎知識が必要である。	
<b>授業の概要：</b> 本演習では、会計を有用な道具として使いこなせるようになることを目標としている。そのためにはまず、会計制度とその背後にある理論を理解することが必要である。プレーを楽しむためには、ある程度はルールを学ばなければならないからである（つまり「ルールの学習」と「実際のプレー」とのバランスが重要なのである）。そのうえで、実際に会計情報を使って様々な分析を行う。また、ゼミは基本的に3・4年生合同、2コマ連続で行う予定である。なお、必要に応じてサブゼミを行うこともある。 The purpose of this course is to acquire the ability to use the accounting information provided through the financial statements. In order to achieve this purpose, it is first essential to understand the accounting rules and theory as the basis for preparing financial statements. If you want to enjoy playing the game, you have to know the rules to some extent. After studying the accounting rules and theory, students will learn how to analyze the accounting information by using the actual financial statement data.					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：財務会計の制度および理論を理解する。 B：専門的技能：企業を分析できるようになる。 C：汎用的技能：会計情報を使いこなせるようになる。 D：態度・志向性：財務会計に関わる現象について考察し、現代的問題に関心を深める。					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
基本的なテキストの輪読（4～5月）		○			
分析技法の習得（6～7月）		○			
企業分析の実践（10～11月）		○			
ゼミ論文の執筆（12～1月）		○			
<b>授業以外での学習にあたって：</b>					
テキスト：受講生の関心等を勘案し、相談のうえ決定する。					
参考書：適宜指示する。					
<b>授業資料：</b>					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専 門 的 技 能	C： 汎 用 的 技 能	D： 態 度 ・ 志 向 性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					

レポート	◎	◎	◎	◎	
発表（プレゼン・スピーチ）	◎	◎	○	○	
授業への貢献度	◎	○	○	◎	
作品					
出席				◎	
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：随時相談に応じる。メールにてアポイントを取ること。					
その他：					
更新日付：2017/03/30 12:51:33					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：経済・経営学演習①		講義題目：開発経済 Development Economics			
授業科目区分：		講義コード：17170061			
開講学期等：通年	担当教員名：水野 敦子	単位数：4.0	対象 学年等：学部3, 4年		
履修条件： 自由選択科目「開発経済」を受講すること	キーワード： 開発経済、開発政策、格差・貧困、産業化、農村開発、労働力移動、開発援助	履修に必要な知識・能力：			
<b>授業の概要：</b> 3年生は、まず開発経済論の基本的な理論や知識の習得を目指し、テキストをじっくりと読みます。そのうえで、参加者の関心に応じて、開発途上国が直面している開発課題について研究課題を設定し、グループで研究を行います。4年生は、開発経済に関する学術論文を輪読するとともに、個別研究について順に発表し議論を深めます。研究成果は、3年生はグループ研究レポートに、4年生はゼミ論文にまとめます。3, 4年生合同を基本としますが、適宜別に行うこともあります。 This class aims to deepen the seminarians' knowledge and to develop their mental faculty, through reading of textbook and conducting research on the Economic development by seminarians themselves. Intensive brain-storming discussions are strongly encouraged among participants. it is also expected to improve their faculty of presentation they address the audience.					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：開発経済の知識、理解を深めると B：専門的技能：途上国の経済開発に関する基礎的理論を総括的に学ぶ C：汎用的技能：グループ学習や議論、報告を通じて具体的課題の考察力、ディベート力、発信力の向上を目指す D：態度・志向性：開発途上国の具体的開発課題について、自ら研究課題を設定し考察を深める					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
テキスト輪読			演習		
ゼミ合宿			合宿		
グループ研究			演習		
インゼミ					
インターゼミ					
グループ論文、ゼミ論文の作成					
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 授業以外でのゼミ活動においても、学生の皆さんの主体的な企画を歓迎します。					
<b>テキスト：</b> ウィリアム・イースタリー（著）『傲慢な援助』小浜裕久・織井啓介・富田陽子（訳）、東洋経済新報社、2009年 その他、授業内で提示					
<b>参考書：</b> 適宜指定					
<b>授業資料：</b> 適宜配布、指定					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識・理解	B： 専門的技能	C： 汎用的技能	D： 態度・志向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					

小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）	◎	◎	◎	◎	20
授業への貢献度	○	○	○	◎	20
作品					
出席				◎	20
その他（自由記述1） グループ研究（3年生）	◎	◎	◎	◎	40
その他（自由記述2） ゼミ論文（卒年次生）	◎	◎	◎	◎	40
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：事前にアポイントメントをとって研究室に来てください。					
その他：					
更新日付：2017/03/29 14:05:16					



学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）	◎				
授業への貢献度	○				
作品					
出席	○				
その他（自由記述1）ゼミ論(4年生)	◎				
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：3年生 平素の成績 100%。 4年生 平素の成績30%、ゼミ論文70%。					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/03/30 18:23:43					





学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）	◎				
授業への貢献度	○				
作品					
出席	○				
その他（自由記述1）ゼミ論(4年生)	◎				
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：3年生 平素の成績 100%。 4年生 平素の成績30%、ゼミ論文70%。					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/03/30 18:27:33					



学習相談：
その他：
更新日付：



作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：ゼミでの報告、討論への参加、課題提出、出席状況を総合的に評価する。					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/03/14 11:29:44					



出席				◎	
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：成績は，出席，報告および討論への参加をもとに総合的に評価する。					
学習相談：メールでアポイントをとること。					
その他：					
更新日付：2017/04/03 16:25:05					





授業資料：適宜、配布する。					
成績評価：					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）	◎	◎	◎	◎	
授業への貢献度	○	○	○	○	
作品					
出席	○	○	○	○	
その他（自由記述1） ゼミ論文	◎	◎	◎	◎	4年生のみ
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：【3年生】平常点（100%） 【4年生】平常点（50%）、ゼミ論文（50%）					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/04/07 17:09:38					



<b>授業以外での学習にあたって：</b>					
テキスト：[1] 佐藤泰裕（2014）．『都市・地域経済学の招待状』，有斐閣． [2] 黒田達朗，田淵隆俊，中村良平（2008）．『都市と地域の経済学（新版）』，有斐閣． [3] 佐藤康裕，田淵隆俊，山本和博（2011）．『空間経済学』，有斐閣． [4] Baldwin, Richard et al. (2003). Economic Geography and Public Policy, Princeton University Press.					
参考書：[5] 神取道宏（2014）．『ミクロ経済学の力』，日本評論社． [6] 浅野哲，中村二郎（2009）．『計量経済学』，有斐閣．					
<b>授業資料：</b>					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）	◎				
授業への貢献度		◎			
作品					
出席			◎		
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b> 5回以上授業を欠席した場合は「不可」とする。					
<b>学習相談：</b>					
<b>その他：</b>					
<b>更新日付：</b> 2017/04/10 01:04:27					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：経済・経営学演習①		講義題目：日本の近代化と市場経済	
授業科目区分：		講義コード：17170077	
開講学期等：通年	担当教員名：鷲崎 俊太郎	単位数：4.0	対象 学年等：学部3, 4年
履修条件： ・「経済史I」を履修しておくことが望ましい。 ・演習の参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。	キーワード： 日本経済史・都市経済・長期経済分析	履修に必要な知識・能力：	
<b>授業の概要：</b> ・徳川期～近代の日本経済について、現代の諸問題と照合しながら分析できる能力を身につける。グローバル化により、日本の位置づけは大きく変化している。その実態について、日本の歴史を振り返りながら、どんな経済システムの構築が望ましいのか、長期時系列的な視野を持って学習する。 ・通常のゼミは、①：テキストの輪読、②：1～2か月に1度は校外に出かけてフィールドワーク（以下、FW）、③：①～②の成果をもとに各回のテーマに沿ったプレゼンテーション（以下、PR）を行う。 The purpose of this seminar is to analyze Japanese economic system chronically from 1600 to 2000. Students have a chance to read some books about economic history of Japan, to do field-works once a month or two months, and to make a presentation of them.			
<b>到達目標：</b> A：知識・理解： B：専門的技術： C：汎用的技術： D：態度・志向性：			
<b>授業計画：</b>			
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他
・オリエンテーション ・担当教員とゼミ生の顔合わせ、自己紹介 ・スケジュールの連絡（入ゼミから卒論制作まで） ・役職決め ・2016年度下半期会計報告（会計係） ・次回の輪読に向けて、どの章を担当するかを決定する。 ・2016年度インゼミ研究課題の連絡 ・9期生班分け			
輪読			
輪読			
輪読			
輪読			
プレゼンテーション			
輪読			
輪読			
輪読			
プレゼンテーション			
卒論中間報告			
卒論中間報告			
卒論中間報告			
フィールドワーク（鹿児島合宿）			
卒論中間報告			
<b>授業以外での学習にあたって：</b> ・輪読，グループワーク，卒業論文の準備			
<b>テキスト：</b> ・沢井実・谷本雅之『日本経済史 近世から現代まで』有斐閣，2016年			
<b>参考書：</b>			
<b>授業資料：</b>			
<b>成績評価：</b>			

評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b>					
<b>学習相談：</b> 随時，研究室（箱崎・経済601号室）にてオフィスアワーを開催する。 事前に，メールでアポイントメントを取ってほしい。 （メールアドレス：shuntaro@econ.kyushu-u.ac.jp）					
<b>その他：</b>					
<b>更新日付：</b> 2017/04/04 14:13:57					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：経済・経営学演習①		講義題目：原価計算・管理会計の基礎を学ぶ			
授業科目区分：		講義コード：17170079			
開講学期等：通年	担当教員名：大下 丈平	単位数：4.0	対象 学年等：学部3，4年		
履修条件： 簿記を習得した学生が望ましい。	キーワード： 企業組織、原価計算、管理会計、 マネジメント・コントロール	履修に必要な知識・能力： 特になし。			
<b>授業の概要：</b> 本ゼミでは、企業組織コントロールのフレームワークを基軸として管理会計のフレームワークを位置付けたのち、そこに成果計算を位置づけることから始めます。そうした構造を考慮しながら、その後、予定した著作を丁寧に輪読していきます。 We start our seminar by exploring the framework of management accounting based on the framework of management control in the corporate organization, and thereafter position the result calculation in the framework of management accounting. Considering that positioning, we will proceed to the next books together.					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：経営・会計のテキストを読み込み、要約し、論点を見つけ、皆と議論できる。 B：専門的技能：経営・会計の専門的な用語を駆使できるようになる。 C：汎用的技能： D：態度・志向性：授業に欠席せず、毎回出席し、積極的に議論に参加する。					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
オリエンテーション					
『経済の時代の終焉』					
同上					
同上					
同上					
同上					
同上					
管理会計・財務会計の基礎的テキスト					
同上					
同上					
同上					
同上					
同上					
まとめ 総復習					
<b>授業以外での学習にあたって：</b> ゼミ生2～3人で1チームを作り、一緒にレジメを作成し、報告する方式を採用したいと思います。					
<b>テキスト：</b> 今年度は、まず井出英策著『経済の時代の終焉』（岩波書店、2015年）から始めたいと思います。私がまとめて生協に注文しておきますので、各自、開校日（4月14日）までに文系生協において購入しておいてください。 次いで管理会計・財務会計に関する入門テキストを取り上げる予定です。その後はまた、ゼミ生と相談して決めたいと思います。					
<b>参考書：</b> 随時に指示します。					
<b>授業資料：</b> 随時、配布します。					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専 門 的 技 能	C： 汎 用 的 技 能	D： 態 度 ・ 志 向 性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					

小テスト					
レポート	◎	◎	◎	◎	
発表（プレゼン・スピーチ）	◎	◎	◎	◎	
授業への貢献度	◎	◎	◎	◎	
作品					
出席				◎	
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：出席を重視します。					
学習相談：随時に行います。事前にメールでアポイントを取ってください。					
その他： 毎回レポーターチームを決め、レポーターチームが作成してきたレジメを検討しながら、章を追ってじっくりと輪読していきます。計算演習も併せて行いたいと思います。					
更新日付：2017/03/31 13:25:34					





<b>授業以外での学習にあたって：</b> グループによる報告と討論形式で進める。報告ではレジュメを用意して担当箇所を 発表し、討論者及び全員で討論を行う。					
<b>テキスト：</b> 奥野正寛 (2008) 『ミクロ経済学』東京大学出版会。 Rosen and Gayer, Public Finance (9th) , McGraw Hill.					
<b>参考書：</b> 授業中に、適宜指示。					
<b>授業資料：</b>					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）	◎				
授業への貢献度	○				
作品					
出席	◎				
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b>					
<b>学習相談：</b>					
<b>その他：</b> ・演習参加の申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。 ・3年生は、3, 4年続けて履修することを前提として履修すること。 ・財政を履修することが望ましい。					
<b>更新日付：</b> 2017/03/31 14:46:24					

## 平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：経済工学演習①		講義題目：現代経済学の基礎と応用 Foundation of Modern Economics and Its Application	
授業科目区分：		講義コード：17170083	
開講学期等：通年	担当教員名：磯谷 明德	単位数：4.0	対象 学年等：学部3, 4年
履修条件： 履修条件は特にない。経工は演習が必修4単位のみであるが、3・4年連続でのゼミへの所属を望む。	キーワード： エコノミック・リテラシー、市場理論、ゲーム理論、生産性 (TFP) 停滞、生産性格差、デフレーション、貨幣数量説	履修に必要な知識・能力：	
<b>授業の概要</b> ： 本演習は、前期と後期の2部編成とする。前期では、現代経済学の基礎を再確認するのを目的として、2010年度からはミクロ経済学、マクロ経済学、ゲーム理論の3本立てとして、順番にテキスト輪読を行ってきた。今年度前期には、ミクロ経済学の基礎と応用を学習する。後期は、2016年度後期から始めたゼミテーマである「日本経済の「失われた20年」とは何であったか>」についての学習を継続する。 This seminar is consisted of two parts. In the first semester, this year aims at mastering fundamental notions and their applications of microeconomics in order to reconfirm the foundation of modern economics. In the second semester, we deal with the issue of "What Japanese economy's two lost decades was" which is the continuing theme from last year.			
<b>到達目標</b> ： 現代経済学の基礎と応用の再確認：評判の高い、標準的なテキストを輪読して、ミクロ経済学の基礎と応用を学習する。 現代的にトピックスに関わる諸文献の読解：日本経済の「失われた20年」の真因を探る術を主体的に考察する。			
<b>授業計画</b> ：			
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他
【前学期】			演習
ガイダンスと日程決定			
消費者行動の理論①			以下、演習
消費者行動の理論②			
企業行動の理論①			
企業行動の理論②			
市場均衡①			
市場均衡②			
市場の失敗			
独占			
同時手番のゲームとナッシュ均衡①			
同時手番のゲームとナッシュ均衡②			
時間を通じたゲーム			
保険とモラル・ハザード			
逆淘汰とシグナリング			
【後期】			
日程決定			
生産性停滞の原因①			
生産性停滞の原因②			
企業間の生産性格差拡大①			
企業間の生産性格差拡大②			
再生の原動力①			
<b>授業以外での学習にあたって</b> ：			
<b>テキスト</b> ：【前学期】 神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社、2014年。 【後学期】 深尾京司『「失われた20年」と日本経済』日本経済新聞社、2012年。 吉川 洋『デフレーション』日本経済新聞社、2013年。			
<b>参考書</b> ：随時、指定する。			
<b>授業資料</b> ：必要に応じて配布する。			
<b>成績評価</b> ：			

評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専 門 的 技 能	C： 汎 用 的 技 能	D： 態 度 ・志 向 性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）	◎	◎			
授業への貢献度	○	○			
作品					
出席	◎	◎			
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他： ●今年度のゼミ開始日（前期第1回目）は、4月21日（金）とします。 教室は、昨年度と同様に、研究院長会議室（経済学部棟2階）を使用します。					
更新日付：2017/04/02 22:31:19					



小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：随時。メールでアポイントをとること。kuchida@econ.kyushu-u.ac.jp					
その他：					
更新日付：2017/04/05 14:50:06					



- ・小黒一正・島澤諭 (2011) 『Matlabによるマクロ経済モデル入門』, 日本評論社.
- ・ジョーンズ, C. I (2011) 『マクロ経済学Ⅰ 長期成長編』, 東洋経済新報社
- ・ジョーンズ, C. I (2011) 『マクロ経済学Ⅱ 短期変動編』, 東洋経済新報社

**授業資料:** 発表者は事前に発表資料を準備してください。その他の補足資料については教員のほうで準備します。

**成績評価:**

評価方法・観点	A: 知識 ・理 解	B: 専門 的技 能	C: 汎用 的技 能	D: 態度 ・志 向性	備考 (欠格条件・割合)
学期末試験					
小テスト					
レポート	◎	◎	○		20%
発表 (プレゼン・スピーチ)	○	◎	◎		40%
授業への貢献度			◎	◎	20%
作品					
出席		○	○	◎	20%
その他 (自由記述1)					
その他 (自由記述2)					
その他 (自由記述3)					

**成績評価基準に関わる補足事項:**

**学習相談:** オフィスアワーは毎週水曜日の10:00~12:30とします。それ以外の時間帯においても余裕があれば対応いたします (事前にメールにてご連絡いただければ対応しやすいです)。

**その他:** ゼミでは楽しく、そして大いに勉強して、充実した大学生活にしましょう。

**更新日付:** 2017/04/02 10:31:12





- ・小黒一正・島澤諭 (2011) 『Matlabによるマクロ経済モデル入門』, 日本評論社.
- ・ジョーンズ, C. I (2011) 『マクロ経済学Ⅰ 長期成長編』, 東洋経済新報社
- ・ジョーンズ, C. I (2011) 『マクロ経済学Ⅱ 短期変動編』, 東洋経済新報社

**授業資料:** 発表者は事前に発表資料を準備してください。その他の補足資料については教員のほうで準備します。

**成績評価:**

評価方法・観点	A: 知識 ・理 解	B: 専門 的技 能	C: 汎用 的技 能	D: 態度 ・志 向性	備考 (欠格条件・割合)
学期末試験					
小テスト					
レポート	◎	◎	○		20%
発表 (プレゼン・スピーチ)	○	◎	◎		40%
授業への貢献度			◎	◎	20%
作品					
出席		○	○	◎	20%
その他 (自由記述1)					
その他 (自由記述2)					
その他 (自由記述3)					

**成績評価基準に関わる補足事項:**

**学習相談:** オフィスアワーは毎週水曜日の10:00~12:30とします。それ以外の時間帯においても余裕があれば対応いたします (事前にメールにてご連絡いただければ対応しやすいです)。

**その他:** ゼミでは楽しく、そして大いに勉強して、充実した大学生活にしましょう。

**更新日付:** 2017/04/02 10:35:52



学習相談：
その他：
更新日付：



その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/04/01 18:25:22					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：マクロ経済学[経済工学科]		講義題目：マクロ経済学 (経済工学科)				
授業科目区分：		講義コード：17171001				
開講学期等：前期	担当教員名：村尾 徹士	単位数：4.0		対象 学年等：学部2年		
履修条件： 「履修に必要な知識・能力」を参照のこと。		キーワード： 国民経済計算；インフレーション；失業；景気循環；経済成長		履修に必要な知識・能力： 大学1年次レベルのミクロ経済学，マクロ経済学，微分・積分，および線型代数の内容を前提として授業を進める。		
<b>授業の概要：</b> この講義では中級レベルのマクロ経済学を学習する。マクロ経済学とは、景気循環や経済成長といった国や地域全体にかかわる経済現象を分析する経済学の一分野である。マクロ経済学の特徴は、財市場・労働市場・資本市場・貨幣市場といった個別市場（の均衡）を別個に分析するのではなく、各々の市場（の均衡）を同時に考察することにある。各市場（の均衡）を同時に考察することによって、例えば、ある市場に生じた変化が、その他の市場に波及することを通じて経済全体にどのようなインパクトを持つかを分析することが可能となる。 This course will introduce you to main topics in modern intermediate Macroeconomics, intended for the second-year undergraduate students. As a subfield of Economics, Macroeconomics covers economic phenomena of whole country, such as business cycles and economic growth. Comparing with other fields in Economics, a distinct feature of Macroeconomics is analyzing various kinds of markets (such as good, labor, capital, and money markets) simultaneously, which enables you to analyze an aggregate impact of a shock in a particular market which is propagated from market to market.						
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：重要なマクロ経済指標の意味を理解すること。マクロ経済政策の影響をモデルに基づいて考察できるようにすること。 B：専門的技術： C：汎用的技術： D：態度・志向性：						
<b>授業計画：</b>						
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習		
ガイダンス/マクロ経済学の考え方		○				
家計の消費・貯蓄行動		○				
企業の設備投資行動		○				
資産市場		○				
貨幣と銀行行動		○				
閉鎖経済での長期の経済分析		○				
開放経済での長期の経済分析		○				
中間試験（および解答解説）		○				
経済成長の理論：ソロースワンモデル		○				
労働市場		○				
閉鎖経済での短期の経済分析		○				
開放経済での短期の経済分析		○				
財政政策		○				
金融政策		○				
全体の復習		○				
<b>授業以外での学習にあたって：</b>						
テキスト：[1] 二神孝一，堀敬一（2017）．『マクロ経済学（第2版）』，有斐閣。						
参考書：[2] 齊藤誠，岩本康志，太田聰一，柴田章久（2016）．『マクロ経済学（新版）』，有斐閣。						
授業資料：パワーポイントの講義資料を授業開始前にmoodleにアップロードする。						
<b>成績評価：</b>						
評価方法・観点		A： 知識 ・理	B： 専門 的技	C： 汎用 的技	D： 態度 ・志	備考（欠格条件・割合）

	解	能	能	向性	
学期末試験	◎				
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1） 中間試験	◎				
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b> 中間試験35%，学期末試験65%で評価。					
<b>学習相談：</b> 授業前後の休み時間が望ましい。またはメールでアポイントメントを取る。					
<b>その他：</b> 重要箇所の説明には板書を併用するので授業にはノートを持参すること。					
<b>更新日付：</b> 2017/04/09 13:01:55					



平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：マクロ経済学[経済・経営学科]		講義題目：マクロ経済学	
授業科目区分：		講義コード：17171002	
開講学期等：前期	担当教員名：高瀬 光夫	単位数：4.0	対象 学年等：学部2年
履修条件： 特にありませんが、入門レベルの経済学の知識を持っているか、または、同時並行的に学習していると、理解の助けになります。	キーワード： 経済成長、GDP、消費と投資、IS-LM 分析、一般物価水準、利子率、景気、財政・金融政策、失業、マネーストック、国際収支	履修に必要な知識・能力： 特にありません。経済学についての知識がなくても理解できるように初歩的な水準からスタートします。英文教科書を使いますが、教科書を読めなくとも理解できるように、わかりやすい授業を行います。	
<b>授業の概要：</b> 経済学は大きくマクロ経済学とミクロ経済学に分けられます。ミクロ経済学が、経済の中の個々の市場を主に分析するのに対して、マクロ経済学は経済全体にかかわる問題を分析対象にします。具体的には景気、失業、インフレーション、デフレーション、経済成長などの問題です。地域社会や日本そして国際社会のかかえる問題を理解し、問題解決のための可能な選択肢とそのメリットとデメリットを考え、人々が賢明な選択をするためにマクロ経済学的な視点は今益々重要性を持っています。 マクロ経済学は、経済を4つの市場から成り立ち、それらの市場が相互依存しながら、均衡に向かうものと捉えます。4つの市場とは、財市場、労働市場、貨幣市場とその他の資産市場です。そこで本講では、まず、労働市場の分析からはじめ、それから財市場と（貨幣市場を含む）資産市場との相互依存関係を分析し、マクロ経済の全体像を理解します。授業は、講義を中心に行い、適宜、講義内容の理解の確認のために練習問題に取り組みます。			
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：主流派マクロ経済理論をよく理解している。 主なマクロ経済現象をマクロ経済モデルを説明できる。 B：専門的技能：マクロ経済統計を利用して、IS-LM/AD-AS分析に基づいた現状の説明ができる。 経済理論モデルを使って現実の経済問題を理解できる。 経済理論モデルを使って将来予想のシナリオを描くことができる。 C：汎用的技能：現実の経済状況とマクロ経済政策の影響についての政策的評価ができる。 今後のあるべき政策の選択肢を説明できる。 D：態度・志向性：地域社会や日本そして国際社会のかかえる問題を理解し、問題解決のための可能な選択肢とそのメリットとデメリットを考え、人々が賢明な選択をするためのマクロ経済学的な視点を持つことができる。			
<b>授業計画：</b>			
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他
以下は暫定的な授業計画ですが、時間制約などから変更の可能性あります。		○	
1 マクロ経済学の概要（第1章）			moodle で配信された資料に目を通す。
2 マクロ経済問題（第1章）		○	moodle で配信された資料に目を通す
3 国民経済計算：国民経済の構造と測定（第2章）		○	moodle で配信された練習問題を解いてみる
3 主な経済指標の練習問題（第2章）		○	moodle で配信された資料を読み、練習問題に取り組む
5 生産性、産出高、及び雇用（第3章）		○	moodle で配信された資料を読み、練習問題に取り組む。
6 労働市場の均衡（第3章）		○	moodle で配信された資料を読み、練習問題に取り組む。
7 雇用とオーカンの法則（第3章）			moodle で配信された資料を読み、練習問題に取り組む。
8 労働市場の練習問題（第3章）		○	moodle で配信された資料を読み、練習問題に取り組む。
9 消費と貯蓄（第4章）		○	moodle で配信された資料を読み、練習問題に取り組む。
10. 投資需要（第4章）		○	moodle で配信された資料を読み、練習問題に取り組む。
11. 財市場の均衡（第4章）		○	moodle で配信された資料を読み、練習問題に取り組む。

12 財市場についての練習問題を解く (第4章)	○		moodle で配信された資料を読み、練習問題に取り組む。		
13 長期経済成長 (第6章)	○		moodle で配信された資料を読み、練習問題に取り組む。		
14 経済成長のソローモデル (第6章)	○		moodle で配信された資料を読み、練習問題に取り組む。		
15 経済成長の練習問題 (第6章)	○		moodle で配信された資料を読み、練習問題に取り組む。		
16 貨幣の定義と貨幣需要 (第7章)	○		moodle で配信された資料を読み、練習問題に取り組む。		
17 貨幣市場の均衡 (第8章)	○		moodle で配信された資料を読み、練習問題に取り組む。		
18 貨幣市場の練習問題に取り組む	○		moodle で配信された資料を読み、練習問題に取り組む。		
19 景気循環 (第8章)	○		moodle で配信された資料を読み、練習問題に取り組む。		
20 景気循環の練習問題 (第8章)	○		moodle で配信された資料を読み、練習問題に取り組む。		
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 授業で配布された資料と練習問題を、授業計画に記載された各授業内容に関連する部分について、解答を試みるのが予習になります。できれば教科書や参考書を使って練習問題を自力で解いてみてください。事後学習としては、受講後に各授業内容に関連する練習問題を解いて授業の内容理解を確認してください。					
<b>テキスト：</b> Abel, Andrew B., Ben S. Bernanke and Dean Croushore, Macroeconomics, 9th ed. Global edition, Pearson, 2017. 【ISBN: 978-1-292-15492-3】 (ただし、教科書を読めなくても、講義を受講することでその内容を理解できるように授業を進めていく予定です。)					
<b>参考書：</b> エーベル/バーナンキ、「マクロ経済学」上、シーエーピー出版、2006年、ISBN: 4916092724 エーベル/バーナンキ、「マクロ経済学」下、シーエーピー出版、2007年、ISBN: 9784916092731 井堀利宏「入門マクロ経済学」第2版、新世社、2003年、ISBN: 488384062-x 中谷巖、「入門マクロ経済学」第5版、日本評論社、2007年、ISBN: 978-4-535-55513-6 時政・三輪・高瀬「マクロ経済学」勁草書房、2003年、ISBN:4-					
<b>授業資料：</b> 九州大学 eラーニングシステム (moodle) URL: <a href="https://moodle.artsci.kyushu-u.ac.jp/">https://moodle.artsci.kyushu-u.ac.jp/</a>					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考 (欠格条件・割合)
学期末試験	◎	◎			
小テスト					
レポート	◎	◎	○		
発表 (プレゼン・スピーチ)					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他 (自由記述1) その他 (自由記述1)					
その他 (自由記述2) その他 (自由記述2)					
その他 (自由記述3) その他 (自由記述3)					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b> 成績評価は定期試験の成績 (80%) と授業で課された課題提出 (20%) の加重平均で評価します。 評価基準としては、マクロ経済学の基本が理解されていることを基準にします。					
<b>学習相談：</b> 授業に関する問い合わせや相談は、次のメールアドレスを使用してください。 mtakase@fukuoka-u.ac.jp					
<b>その他：</b>					
<b>更新日付：</b> 2017/03/29 13:05:24					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：経営労務		講義題目：21世紀における人間らしい働き方の追求			
授業科目区分：		講義コード：17171003			
開講学期等：前期	担当教員名：遠藤 雄二	単位数：2.0	対象 学年等：学部3，4年		
履修条件： 経営学Ⅰ、経営学Ⅱの履修		キーワード： 働き方改革、人間らしい働き方、 職場における男女平等、リーダー シップの発揮		履修に必要な知識・能力： 日経新聞を読む。毎日のニュースに 触れる。	
<b>授業の概要：</b> 1 職場における働き方の問題を解明し、人間らしい働き方を追求する。 2 職場における女性労働の問題点を明らかにし、男女平等の道を探る。 3 21世紀のワーク・シフトについて考え、人生100年時代の働き方と生き方の戦略を練る。 The course introduces the standard knowledge on decent work in 21century.					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解： B：専門的技術： C：汎用的技術： D：態度・志向性：					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
4月10日：ガイダンス；この講義で何をゲットするのか		○			
4月17日：働き方改革とは何か		○			
4月24日：日本人のこれまでの働き方の大問題		○			
5月8日：人間らしい働き方の追求		○			
5月15日：働き方改革のまとめ、小テスト①30分、25点		○			
5月22日：日本の女性労働の大問題		○			
5月29日：男女雇用機会均等法、男女共同参画基本法、女性活躍推進法から学ぶ		○			
6月5日：女性に対するあらゆる形態の差別撤廃条約の地平		○			
6月12日：職場における女性労働のまとめ、小テスト②30分、25点		○			
6月19日：ワーク・シフト、世界の働き方が変わる		○			
6月29日：ゼネラリストから連続的スペシャリストへのシフト＝知的資本を強化する		○			
7月3日：個人の競争から強くて幅広いネットワークへのシフト		○			
7月10日：リーダーシップを発揮し、生産性を向上させる		○			
7月13日：人生100年時代の働き方と生き方の戦略を練る、講義のまとめ		○			
7月24日：教場テスト、60分50点					
<b>授業以外での学習にあたって：</b>					
<b>テキスト：</b> テキストは使用しない。かわりに、講義テーマに関する資料を随時、配布する。					
<b>参考書：</b> 授業テーマに関してさらに深く学習したい人に、随時、いくつかの本を紹介する。					
<b>授業資料：</b>					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専 門 的 技 術	C： 汎 用 的 技 術	D： 態 度 ・ 志 向 性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	◎				
小テスト	◎				

レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度	○				
作品					
出席	○				
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b> 1 5月15日の小テスト25点+6月12日の小テスト25点+7月24日の教場テスト50点=100点で採点。 2 予告せずに数回、出席を取ることがある。この場合出席者には5~10点を加点する。 3 随時、テーマに関するクイズに明快に回答した人には10点以上を加点する。					
<b>学習相談：</b>					
<b>その他：</b>					
<b>更新日付：</b> 2017/04/09 16:58:27					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：上級計量経済学		講義題目：上級計量経済学			
授業科目区分：		講義コード：17171004			
開講学期等：前期	担当教員名：山崎 大輔	単位数：2.0	対象 学年等：学部3，4年		
履修条件： 「計量経済学Ⅰ」および「計量経済学Ⅱ」を履修済みであること。	キーワード： 計量経済学、行列代数、漸近論、最尤法、モーメント法	履修に必要な知識・能力： 確率、統計、行列代数の基礎を理解していること。			
<b>授業の概要：</b> 本授業では、学部上級レベルの、行列表記を用いた計量経済学のトピック（重回帰、漸近論、最尤法、モーメント法など）を扱う。なお、本授業は、計量経済学の理論に関する内容がメインとなる。 This course covers advanced undergraduate-level econometrics using matrix notations.					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：学部上級レベルの計量経済学の知識を修得する。 B：専門的技能：学部上級レベルの計量経済学における、さまざまな推定法・検定方法を理解する。 C：汎用的技能：計量経済分析における推定結果・検定結果を適切に解釈することができる。 D：態度・志向性：計量経済分析に興味・関心を持つようになる。					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
確率、統計、行列代数の復習(1)		○			
確率、統計、行列代数の復習(2)		○			
重回帰		○			
漸近理論		○			
最小2乗推定量の漸近的性質		○			
一般化最小2乗法		○			
最尤法(1)		○			
最尤法(2)		○			
操作変数法		○			
モーメント法(1)		○			
モーメント法(2)		○			
大標本検定		○			
時系列分析(1)		○			
時系列分析(2)		○			
時系列分析(3)		○			
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 計量経済学を理解する上では、積み重ねの学習が重要です。 授業後には、必ず復習をするようにしてください。 なお、レポートを1回出題します。					
<b>テキスト：</b> 難波明生（2015）『計量経済学講義』 日本評論社 （授業では、テキストの第8章までの内容を扱う。 時系列分析については、授業時に資料を配布する。）					
<b>参考書：</b> 浅野哲・中村二郎（2009）『計量経済学』 第2版、有斐閣 Greene, W. H. (2011) "Econometric Analysis" 7th edition, Pearson Hayashi, F. (2000) "Econometrics" Princeton University Press					
<b>授業資料：</b> 適宜、授業時に配布する。					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	◎	○	○	○	
小テスト					
レポート	◎	○	○	○	
発表（プレゼン・スピーチ）					

授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：レポート（20%）、期末試験（80%）					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/04/07 17:02:35					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：計量経済学 I [経済・経営学科]		講義題目：計量経済学I			
授業科目区分：		講義コード：17171005			
開講学期等：前期	担当教員名：加河 茂美	単位数：2.0	対象 学年等：学部2年		
履修条件：	キーワード：	履修に必要な知識・能力：			
<b>授業の概要：</b> 山本拓著『計量経済学』等を利用し、計量経済学の入門コースを提供することを目的とする。講義では、なるべく例題を使って、計量経済学の内容について解説する。 This course provides introductory econometrics using the textbook entitled Econometrics (by Taku Yamamoto).					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：統計学の基礎を理解する B：専門的スキル：回帰分析を習得する C：汎用的スキル：社会経済事象を統計的に分析できるようにする D：態度・志向性：社会経済事象を統計的に理解する					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
イントロダクション：確率及び確率変数の概念		○			
離散確率変数		○			
連続確率変数		○			
重要な確率分布：正規分布と標準正規分布		○			
重要な確率分布： $\chi^2$ 分布		○			
2つ以上の確率変数の分布 1		○			
2つ以上の確率変数の分布 2		○			
重要な確率分布：t分布		○			
最小2乗法による推定		○			
決定係数と相関係数		○			
最小2乗法による推定値を疑う		○			
真のパラメータの区間推定		○			
パラメータの検定		○			
分散不均一性		○			
多重回帰分析への展開		○			
<b>授業以外での学習にあたって：</b>					
テキスト：山本拓著『計量経済学』新世社					
参考書：					
授業資料：					
成績評価：					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	○	○	○	○	
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					

その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：出席(30%)、学期末試験(70%)					
学習相談：					
その他： 毎回、講義の後半に小テストをしますので、電卓を必ず持参すること。					
更新日付：2017/03/30 18:38:11					





その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/03/29 11:19:04					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：統計解析		講義題目：多変量解析	
授業科目区分：		講義コード：17171007	
開講学期等：前期	担当教員名：大西 俊郎	単位数：2.0	対象 学年等：学部3，4年
履修条件： 線形代数・同演習AB，微分積分学・同演習ABおよび数理統計学の単位を修得していること	キーワード： 主成分分析，判別分析，回帰分析，分散分析，適合度検定	履修に必要な知識・能力： 線形代数学，微分積分学および数理統計学の知識が必要である。 特に線形代数学については行列式の定義および性質，対称行列の対角化に関する定理を理解していること。	
<b>授業の概要：</b> この授業では多変量解析の理論を学ぶ。 多変量解析とは，複数の変数からなるデータを統計的に扱う手法のことである。 これまでに多くの手法が提案され，実際のデータに適用されている。 この授業では代表的な手法である以下の項目を学習する。 ・主成分分析 ・判別分析 ・回帰分析 ・分散分析（時間に余裕がある場合） ・適合度検定（時間に余裕がある場合） Theory of multivariate analysis is learned in this lecture. Multivariate analysis is the method to deal statistically with data consisting of more than one variable. Many methods have been proposed and applied to actual data. We learn the following typical methods in this lecture. * Principal component analysis * Discriminant analysis * Regression analysis * Analysis of variance (optional) * Goodness of fit test (optional)			
<b>到達目標：</b> 主成分分析：対称行列の対角化の応用として主成分分析を理解する 判別分析：多変量正規分布の密度を導出し，それに基づき判別分析を理解する 回帰分析：数理統計学で学んだStudentの定理を拡張し，回帰分析を理解する。最小2乗法を射影による最良近似として幾何学的に理解する。 分散分析：回帰分析の特殊ケースとして分散分析を理解する 適合度検定：多項分布に中心極限定理を適用した結果として適合度検定を理解する。			
<b>授業計画：</b>			
進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
主成分分析	○		
中間試験その1（試験範囲は主成分分析）	○	試験時間は30分間。試験後に授業を行う。	
判別分析	○		
中間試験その2（試験範囲は判別分析）	○	試験時間は30分間。試験後に授業を行う。	
単回帰分析および重回帰分析	○		
平均値の差の検定	○		
分散分析	○		
適合度検定	○		
期末試験（試験範囲は単回帰分析および重回帰分析）		試験時間は30分間。	

<b>授業以外での学習にあたって：</b> 毎回の授業の後に復習を十分に行うこと。 授業ごとに練習問題を出題し，その中から試験問題を作成する。					
<b>テキスト：</b> ・大学1，2年次に使用した線形代数学および微分積分学の教科書 ・吉田伸生「確率の基礎から統計へ」遊星社 2012年					
<b>参考書：</b>					
<b>授業資料：</b>					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験			◎		
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席	○	○	○	○	中間試験その1，その2と期末試験を すべて受験すること．1つでも未受験 の場合は不可とする．
その他（自由記述1） 中間試験その1	◎				
その他（自由記述2） 中間試験その2		◎			
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b>					
<b>学習相談：</b> 授業後など随時受けつける．					
<b>その他：</b>					
<b>更新日付：</b> 2017/04/10 09:36:26					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：経営政策		講義題目：現代企業の資金調達と企業評価			
授業科目区分：		講義コード：17171008			
開講学期等：前期	担当教員名：大坪 稔	単位数：2.0	対象 学年等：学部3，4年		
履修条件： 経営学Ⅰ、経営学Ⅱを履修していることが望ましい	キーワード： 株式会社のしくみ、資金調達、企業・財務評価、コーポレート・ガバナンス	履修に必要な知識・能力： エクセルを使えることが望ましい			
<b>授業の概要：</b> 本講義では、日本の大企業における会社のしくみについて学習し、そのうえで上場企業における資金調達の方法について学習する。とくに、上場企業に特徴的な資金調達方法である「上場」と「公募増資」に関する資金調達について学習する。そのうえで、株主をはじめとする投資家の視点から企業をどのように「評価」すべきか、という企業の評価について学習する。 Students will learn the structure of Japanese firms and how a firms raises funds. Especially, this course focuses on equity finance and the stock market. In addition, they will learn how to evaluate a firm in the light of investors.					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：・様々な資金調達の方法やその違い、企業価値の計算、財務分析が十分にできるようになること ・資金調達の様々な方法と違いについて理解すること ・企業価値の概念と計算方法を理解すること B：専門的技術：・企業の経営状態を示す様々な財務指標の算出、およびその分析ができるようになること C：汎用的技術：・エクセルなどを用いて企業の財務分析ができるようになること D：態度・志向性：・企業経営について、自ら情報を収集し、十分な分析が可能となること					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
株式会社の特徴		○		事前配布資料による予習	
株主の権利と役割		○		事前配布資料による予習	
上場の意義		○		事前配布資料による予習	
資金調達の種類		○		事前配布資料による予習	
株式発行		○		事前配布資料による予習	
社債発行		○		事前配布資料による予習	
資金調達と資本コスト		○		事前配布資料による予習	
日本企業の資金調達の変遷		○		事前配布資料による予習	
企業価値(1)		○		事前配布資料による予習	
企業価値(2)		○		事前配布資料による予習	
財務分析(1)		○		事前配布資料による予習	
財務分析(2)		○		事前配布資料による予習	
財務分析(3)		○		事前配布資料による予習	
コーポレート・ガバナンス		○		事前配布資料による予習	
教場試験		○		これまで配布した資料の復習	
<b>授業以外での学習にあたって：</b> デジタル教材配信システム(Moodle)より配布資料を入手し、講義内容について事前の一読しておくこと 講義終了後、講義で紹介した参考文献を読むことが望ましい					
<b>テキスト：</b>					
<b>参考書：</b> 砂川信幸・笠原真人(2015)『はじめての企業価値評価』日経文庫(日本経済新聞社)。					
<b>授業資料：</b> デジタル教材配信システム(Moodle)より、事前に配布資料をダウンロードしておくこと					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識・理解	B： 専門的技術	C： 汎用的技術	D： 態度・志向性	備考(欠格条件・割合)
学期末試験					

小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：講義に関する質問は随時受け付けますが、事前にメール（otsubo@econ.kyushu-u.ac.jp）にて連絡することが望ましい					
その他：					
更新日付：2017/03/24 14:03:25					



その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/03/31 17:08:15					





作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b> 選択必修科目なので出席を重視する。					
<b>学習相談：</b> メールでアポをとること。 問い合わせ先：maruta@econ.kyushu-u.ac.jp					
<b>その他：</b> 自分で使いやすい電卓を準備すること。 原則として、スマホの電卓機能の使用は認めない。					
<b>更新日付：</b> 2017/03/31 23:18:48					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：古文書演習 I		講義題目：古文書から読み解く日本経済			
授業科目区分：		講義コード：17171011			
開講学期等：前期	担当教員名：鷲崎 俊太郎	単位数：2.0	対象 学年等：学部3, 4年		
履修条件： 初回の講義に出席すること。 「経済史I」の単位を取得していることが望ましい。		キーワード： 日本経済史，一次史料，古文書，徳川時代，明治時代，渋沢栄一，立会略則		履修に必要な知識・能力：	
<b>授業の概要：</b> ひらがなから始まり，渋沢栄一『立会略則』を読解できる教養を修得する。 The purpose of this class is to read old documents written in the Tokugawa and Meiji Period (1603-1912) and understand the economic and management system at that time. Students must have the knowledge of Japanese history, especially pre-modern Japanese history, and buy a dictionary about simplified Japanese characters.					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解： B：専門的技能： C：汎用的技能： D：態度・志向性：					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
オリエンテーション，履修希望者多数の場合は選抜試験					
報告者の割り当て，古文書の読み方，辞典の使い方に対するガイダンス					
報告担当者による読み下し，意味の検討，内容・背景の解釈					
『立会略則』の輪読					
<b>授業以外での学習にあたって：</b> ・古文書の予習を行う。					
<b>テキスト：</b> 渋沢栄一『立会略則』（原書は，国立国会図書館デジタルコレクションでPDF版をダウンロードできる。）					
<b>参考書：</b> 古文書を解読するにあたって，各自で以下の辞典類を準備しておくこと。 ・児玉幸多編『くずし字解読辞典』普及版，東京堂出版，1993年 ・児玉幸多編『くずし字用例辞典』普及版，東京堂出版，1981年					
<b>授業資料：</b> 授業用サイトURL <a href="http://www.washizaki.org/diplomatics/index.html">http://www.washizaki.org/diplomatics/index.html</a>					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					

小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b>					
<p><b>学習相談：</b> 随時，研究室（箱崎・経済601号室）にてオフィスアワーを開催する。      事前に，メールでアポイントメントを取ってほしい。      （メールアドレス：shuntaro@econ.kyushu-u.ac.jp）</p>					
<p><b>その他：</b> 学年・学科・系・ゼミを問わず，徳川～明治期のリテラシー，あるいは当時の経済状況を原書で読むことに興味ある人の受講を歓迎する。ただし，大学院生が修論を執筆するために履修する演習でもあるので，予習する気もなく，単位欲しさに履修する「物見遊山」的な学部生は，お断り願いたい。また，基本科目「経済史I」程度の知識は，十分身につけてほしい。</p> <p>充実した授業づくりのために，履修人数を制限する場合もある。そのため，初回のオリエンテーションに参加した者を優先して，受講のチャンスをお認める。</p> <p>古文書演習の“I”や”</p>					
<b>更新日付：</b> 2017/04/04 14:12:22					

## 平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：技術経営		講義題目：	
授業科目区分：		講義コード：17171012	
開講学期等：前期	担当教員名：目代 武史	単位数：2.0	対象 学年等：学部3，4年
履修条件： 特になし	キーワード： イノベーション、競争力、ロードマップ、標準、製品アーキテクチャ、製品開発、企業戦略、ビジネスモデル	履修に必要な知識・能力：	
<p><b>授業の概要：</b>  イノベーションは、企業ならびに国家の国際競争力を左右する重要な要因である。例えば、世界国際フォーラム（WEF）が毎年発表する国際競争力ランキングによると、2016-2017年の日本の順位は、138か国中8位であった。このうちイノベーション要因の日本の順位は4位で、前年の5位から一つ順位を上げた。しかし、2006-2007年調査では日本のイノベーション要因の順位は1位であり、その後日本の順位は長期低落傾向にある。</p> <p>個別の産業領域をみると、かつて日本経済をけん引した電機電子産業は、国際競争力を大きく低下させている。シャープは台湾の鴻海精密工業に買収され、東芝は原子力発電事業の失敗から解体の危機にある。</p> <p>一方、日本の自動車産業は、現在においても高い国際競争力を誇っている。しかし、車両の電動化、自動運転、ライドシェア、コネクティビティといった新たな技術やサービスの登場は、従来とは異なった競争構造や産業構造の変革をもたらす可能性がある。</p> <p>こうしたイノベーションは、いかに企業競争力や産業構造や社会に影響を与えていくのだろうか？なぜある企業はイノベーションに成功し、別の企業は失敗するのか？そもそもイノベーションとは何か？イノベーションは、いかに形成され、事業化されていくのか？そのために企業はどのような戦略やマネジメントをとるべきなのか？</p> <p>本講義は、こうした疑問に答えるべく、イノベーションの概念、イノベーションの発生プロセス、イノベーションのマネジメント・プロセスについて、学び考察していく。</p> <p>Innovation is one of the most critical drivers of the competitiveness of firms and nations. The World Economic Forum, for instance, reported that Japan ranked 8th out of 138 countries and regions assessed in the Global Competitiveness Report 2016-2017. In light of the Innovation and Sophistication Factors Subindex, Japan raised the rank to 4th place from 5th of the previous year. However, the innovation subindex of Japan has been declining since the 2006-2007 report---ranked 1st place.</p> <p>Looking at individual industries, one would find that the electronics industry, which used be one of the leading industries of Japan, has lost its international competitiveness. Sharp Corp. was acquired by the Taiwanese Giant, Hon Hai Precision Industry Co., while Toshiba Corp. is on the brink of bankruptcy due to the failure in its nuclear power generation business.</p> <p>The Japanese automotive industry has still retained its international competitiveness. However, the Japanese OEMs would face a new landscape of the industry with the rise of a series of innovations, including the powertrain electrification, the automated driving, the shared mobility, and the connectivity.</p> <p>Then, how will the innovations influence the competitiveness of individual firms, change the structure of the industry and impact the way of our life? Why can specific firms succeed in generating and capturing innovations, and why others not? What are innovations in the first place? How will the innovations be generated and commercialized? What can organizations do to make it happen?</p> <p>This lecture provides fundamental concepts and theories of innovations, describe the process of the innovation, and discuss potential frameworks to manage the innovations.</p>			
<b>到達目標：</b>			
A：知識・理解：技術経営に関わる基本的な概念および理論を理解し、説明できるようになる			
B：専門的スキル：企業や産業が直面する課題に対し、技術経営の視点や概念、理論的枠組みを適用して、分析できるようになる			
C：汎用的スキル：現実の経営課題について、自ら問いを立て、調査し、考察し、学術的に取りまとめられるようになる			
D：態度・志向性：現実の経営問題に対する感度を高め、理論的に筋の通った理解や考察ができるようになる			
<b>授業計画：</b>			
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他
ガイダンス		○	テキスト第1章
イノベーションのプロセス		○	テキスト第2章
イノベーションのパターン（前半）		○	テキスト第3章
イノベーションのパターン（後半）		○	テキスト第3章
企業の競争力への影響①		○	テキスト第4章
企業の競争力への影響②		○	テキスト第5章

研究・技術開発のマネジメント①：技術ロードマップ	○		テキスト第6章
研究・技術開発のマネジメント②：業界標準	○		テキスト第7章
製品アーキテクチャのマネジメント（前半）	○		テキスト第8章
製品アーキテクチャのマネジメント（後半）	○		テキスト第8章
新製品開発のマネジメント①：製品開発プロセス	○		テキスト第9章
新製品開発のマネジメント②：組織マネジメント	○		テキスト第10章
企業間関係のマネジメント	○		テキスト第11章
ビジネスモデルのマネジメント（前半）	○		テキスト第12章
ビジネスモデルのマネジメント（後半）	○		テキスト第12章

**授業以外での学習にあたって：**

テキスト：近能善範、高井文子（2010）『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』新世社

参考書：延岡健太郎（2006）『MOT [技術経営] 入門』日本経済新聞社

**授業資料：**

**成績評価：**

評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート	○	◎	◎	◎	
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度	○	○	○	○	
作品					
出席					
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					

**成績評価基準に関わる補足事項：**

学習相談：電子メールでアポイントを取ったうえで相談すること。

連絡先：mokudai@econ.kyushu-u.ac.jp

**その他：**

更新日付：2017/03/31 13:10:14

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：経済数学		講義題目：			
授業科目区分：		講義コード：17171013			
開講学期等：前期	担当教員名：小室 理恵	単位数：2.0		対象 学年等：学部3，4年	
履修条件： 基幹教育で以下の授業を履修をしていることが望ましい。 経済工学科：微分積分学・同演習A B，線形代数学・同演習A B 経済・経営学科：微分積分学，線形代数		キーワード： 常微分方程式，最適制御理論		履修に必要な知識・能力： 上記にあげた科目の学習内容を理解していること。	
<b>授業の概要：</b> 動学マクロ経済学を理解するのに必要な数学を学ぶ。このようなものは様々あるが，主に常微分方程式と最適制御理論を取り上げる予定である。微分積分学と線形代数学で学んだ数学的手法の基礎がどのように応用できるのかを理解するのもこの講義の目的の一つである。よって，これまでに学んだ微分積分学および線形代数をしっかりと理解していることが受講の条件である。また，経済の授業ではなく，数学の授業である。 This is an intermediate course in using mathematical tools in economics.					
<b>到達目標：</b> 知識・理解：常微分方程式，最適制御理論について学び，問題を分析する道具として理解する。					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
第1－4回：常微分方程式 第5－7回：線形の微分方程式系 第8回：中間試験 第9回：線形の微分方程式系（つづき） 第10回：非線形の微分方程式系 第11－14回：最適制御理論		○		何度か課題を課す	
		○		何度か課題を課す	
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 授業の内容を理解した上で課題答案を作成することが必須である。復習により理解が不十分である場合は，オフィスアワーを活用すること。また，課題は採点后に返却するが，同じ間違いをしないように各自見直すこと。					
<b>テキスト：</b>					
<b>参考書：</b> 必要に応じて紹介する。					
<b>授業資料：</b>					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識	B： 専門	C： 汎用	D： 態度	備考（欠格条件・割合）

	・理解	的技 能	的技 能	・志 向性	
学期末試験	◎				40%
小テスト	◎				25% (中間試験)
レポート	◎				35%
発表 (プレゼン・スピーチ)					
授業への貢献度					
作品					
出席	○				
その他 (自由記述 1)					
その他 (自由記述 2)					
その他 (自由記述 3)					
<b>成績評価基準に関する補足事項：</b> 採点した答案を長期にわたって取りに来ない場合は、講義に出席していないとみなす。 中間試験前に締め切りの課題の提出がすべてなされている場合に限り、中間試験の受験を許可する。 中間試験受験かつ課題の提出がすべてなされた場合に限り、定期試験の受験を許可する。 最終評価の目安についての詳細は第 1 回目の授業で説明する。					
<b>学習相談：</b> 課題提出前と試験前にオフィスアワーを実施する。					
<b>その他：</b> この情報は変更の可能性がある。					
<b>更新日付：</b> 2017/04/04 22:10:13					



## 平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：経済工学基本演習		講義題目：日本の地方税と経済理論			
授業科目区分：		講義コード：17171014			
開講学期等：前期	担当教員名：宮崎 毅	単位数：2.0	対象 学年等：学部2年		
履修条件：	キーワード： 地方税、地方交付税、固定資産税、地方法人税	履修に必要な知識・能力：			
<b>授業の概要：</b> 日本の地方財政が悪化している、地方の経済格差が大きいという新聞記事を目にするが、地方財政や地方税の仕組みや現状は必ずしも正確に理解されていない。この授業では、地方税の制度や現状、経済理論を学び、地方税の実態を正しく理解することを目指す。 It is often said that fiscal health of local governments worsens and inequality between local governments broadens recently. The system of local public finance, in particular local taxes, and its current situation are, however, not well understood. This lecture aims to correctly understand Japanese local tax system and its situation from an economics perspective.					
<b>到達目標：</b> ・地方税の制度や経済理論を理解し、正しい制度的背景や理論に基づいて地方税の問題を議論できるようにする。特に、近年地方税改革の論点となっている地方交付税、地方法人税などを学習する。 ・少人数の授業における密度の濃い議論を通して、問題に対する様々な見方に触れながら、議論を進化させていく方法も学ぶ。さらに、発表などを通して、レジュメ作成能力やプレゼン能力を高める。 C：汎用的技能： D：態度・志向性：					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
イントロダクション		○			
「地方主権」と地方税ーポスト三位一体の改革					
地方税制改革の迷走					
地方税の機能					
地方税の機能					
地方税の理論					
地方税の理論					
望ましい地方税とは					
わが国の地方税の実際					
地方交付税					
地方税制度の見直し					
地方法人課税改革					
地方法人課税改革					
財政移転制度の改革					
問題点と議論					
<b>授業以外での学習にあたって：</b> グループ或いは個人による報告と討論形式で進める。報告ではレジュメを用意して担当箇所を発表し、討論者及び全員で討論を行う。最初の単元は教員が説明するが、その中で発表の方法を理解してもらう。					
<b>テキスト：</b> 佐藤主光(2011)『地方税改革の経済学』日本経済新聞出版社。					
<b>参考書：</b> 『地方財政白書』総務省編、各年版。 中井英雄、齋藤慎、堀場勇夫、戸谷裕之『新しい地方財政論』有斐閣アルマ。 林宏昭・橋本恭之『入門 地方財政(第2版)』中央経済社。 林宜嗣『地方財政 新版』有斐閣ブックス。					
<b>授業資料：</b>					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考(欠格条件・割合)

学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）	◎				
授業への貢献度	○				
作品					
出席	◎				
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他：履修人数が多い場合には、履修者を制限することもある。その際には、初回授業に出席した学生を優先するが、それでも絞り切れない場合は、何らかの方法で選考を行う。					
更新日付：2017/03/31 15:11:04					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：経済工学基本演習		講義題目：情報技術革新，経済成長，そして人間社会	
授業科目区分：		講義コード：17171015	
開講学期等：前期	担当教員名：池下 研一郎	単位数：2.0	対象 学年等：学部2年
履修条件： 履修条件については特に設けない。	キーワード： ムーアの法則，組み合わせ型イノベーション，GDP，格差問題，雇用，政策対応	履修に必要な知識・能力： 入門的な経済学に関する知識，基礎的なプレゼンテーション能力	
<b>授業の概要：</b> 本講義では，いくつかの文献を読み解くことによって，短期間でどのように驚異的な情報技術の革新が生じているのか，それはどのように私たちの生活や雇用を変化させるのか，政府や個人はこの変化に対してどのように対応すべきなのかといった問題について議論し，考察していく。その過程を通して社会科学視点を養っていく。 In this course, we consider a revolutionary process of digital economy. Moreover we analyze how the digital economy transforms our lives and employment and how we and our children should prepare for this change by using some basic concepts of economics. Through this process, we learn how to study social science more effectively.			
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：現代社会においてどのように情報技術革新が生じているのかを理解し，それを説明できる。 B：専門的技術：入門的な経済学の知識を用いて，情報技術革新の影響を考察し，説明できる。 C：汎用的技術：学習内容をプレゼンなどを通じて効果的に説明できる。 D：態度・志向性：社会科学的話題や議論に興味を持ち，自分で関心を持ったテーマについて調べることができる。			
<b>授業計画：</b>			
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他
ガイダンス		○	
機械とスキル			学生によるプレゼンテーションと議論 調査とプレゼン準備
ムーアの法則			学生によるプレゼンテーションと議論 調査とプレゼン準備
デジタル化の大波			学生によるプレゼンテーションと議論 調査とプレゼン準備
組み合わせ型イノベーション			学生によるプレゼンテーションと議論 調査とプレゼン準備
人工知能とデジタルネットワーク			学生によるプレゼンテーションと議論 調査とプレゼン準備
セカンド・マシン・エイジの豊かさ			学生によるプレゼンテーションと議論 調査とプレゼン準備
GDPの限界			学生によるプレゼンテーションと議論 調査とプレゼン準備
技術と格差			学生によるプレゼンテーションと議論 調査とプレゼン準備
個人への提言			学生によるプレゼンテーションと議論 調査とプレゼン準備
政策提言			学生によるプレゼンテーションと議論 調査とプレゼン準備
授業の総括		○	

<b>授業以外での学習にあたって：</b> グループに分かれてのプレゼンを行うために、プレゼンの準備を行う必要がある。また単に文献を読むだけでなく、関連する内容について調査が必要になる場合がある。					
<b>テキスト：</b> エリック・プリニョルフソン，アンドリュー・マカフィー著，村井章子訳，『ザ・セカンド・マシン・エイジ』，日経BP社，2015年。					
<b>参考書：</b> 第1回目の講義で適宜紹介する。					
<b>授業資料：</b> プレゼンを行うグループが，プレゼン資料を準備する。そのほか補足資料については教員が随時準備する。					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート	◎	◎	○		30%
発表（プレゼン・スピーチ）	○	○	◎	○	40%
授業への貢献度				◎	30%
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b>					
<b>学習相談：</b> オフィスアワーは毎週金曜日の10：00～12：30とします。それ以外の時間帯においても余裕があれば対応いたします（事前にメールにてご連絡いただければ対応しやすいです）。					
<b>その他：</b> 単に教科書の内容を理解するにとどまらず，情報技術革新というテーマを土台に，現状を理解し未来を予測するといったことを行いたい。意欲のある学生の参加を希望します。					
<b>更新日付：</b> 2017/04/07 12:39:56					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：会計学 I		講義題目：簿記会計の基礎			
授業科目区分：		講義コード：17171016			
開講学期等：前期	担当教員名：大下 丈平	単位数：2.0		対象 学年等：学部3，4年	
履修条件： 特になし	キーワード： 簿記、会計、利益、損益計算、商業簿記、生産、工業簿記			履修に必要な知識・能力： 特になし	
<b>授業の概要：</b> 会計学への入門として、簿記会計の基礎を学習する。					
<b>到達目標：</b> 知識・理解：企業経営の計数的な基礎としての簿記会計の一連の手続きを学ぶ 専門的技能：商業簿記の基礎：企業経営の計数的な基礎ツールの運用 態度：コツコツと粘り強く鉛筆と電卓をもって練習問題をこなし、簿記会計の一連の手続き習得していく D：態度・志向性：					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
イントロダクション		○		毎回、予習・復習を行う必要がある。特に、伝統的に洗練された過去の検定試験などの簿記会計の計算演習をまじめに解答しておく必要がある。	
コントロールと会計		○			
複式簿記の原理		○			
仕訳と転記：仕訳帳と元帳		○			
商業簿記と工業簿記		○			
決算		○			
これまでの復習と小テスト		○			
現金と預金		○			
繰越商品・仕入・売上		○			
売掛金と買掛金：その他の債権・債務		○			
手形の取引と会計処理		○			
有価証券と固定資産		○			
先倒損失と貸倒引当金		○			
収益と費用		○			
教場試験		○			
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 授業の予習・復習は言うに及ばず、自主的により会計の高度の理論問題や現実的な視点からの会計の応用問題へ挑戦して行ってください。					
<b>テキスト：</b> 渡部裕亘・片山覚・北山敬子編著『検定簿記講義：商業簿記3級』中央経済社、2014年。					
<b>参考書：</b> 随時に紹介いたします。					
<b>授業資料：</b> 随時に配布いたします。					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識・理解	B： 専門的技能	C： 汎用的技能	D： 態度・志向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	◎	◎	◎		
小テスト	◎	◎	◎		
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度	○	○	○		
作品					

出席	○	○	○		
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：会計学では、講義を聞いて理解した気になっても、実際にやってみるとできないことが多い。その意味で、予習・復習を徹底して行う必要がある。					
学習相談：基本的にメールで事前にアポイントメントをとってください。					
その他：学生の不正行為に対しては、厳正に対処します。					
更新日付：2017/03/17 14:22:14					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：西洋経済史		講義題目：市場社会の成立と発展—現代の世界経済を見据えて—	
授業科目区分：		講義コード：17171017	
開講学期等：前期	担当教員名：藤井 美男	単位数：2.0	対象 学年等：学部3，4年
履修条件： 基本科目「経済史Ⅱ」を履修済であることが望ましい。	キーワード： 世界経済史、市場経済の史的構造 転換	履修に必要な知識・能力： 世界史の基礎知識があり、基本科目「経済史Ⅱ」を履修済であることが望ましい。講義資料をウェブで配信することがあるため、そのための備えが必要である。	
<p><b>授業の概要：</b>                  経済史は、19世紀に西欧で確立した学問分野であり、必然的に「西洋」経済史として発展し、とりわけ16世紀以降の西欧諸国による経済的・政治的世界支配＝資本主義化を様々な角度から見て、理論化しようとしてきた。その時の考察空間は当然「西洋文明社会」に置かれることとなった。                  しかしながら、21世紀に入って西洋経済史が前提としていた政治や経済の区切りが、かつてほど明確でなくなることによって、いわば「世界史」の位置づけが再検討されるようになってきた。今や西洋経済史も「世界経済史」の部分として捉え直す必要が叫ばれてきているのである。                  本講義は、19世紀初頭から現在に至る世界経済の歩みを、覇権国の変遷および構造転換局面の位相という形で考察していく。                  Since its establishment as a science in the 19th century, The Economic History has developed as The European Economic History during the 20th century. The principal target of the researches were, initially and inevitably, the European Society and its civilization. From the beginning of the 21st century on, however, we see the necessity to review The European Economic History as a part of The World Economic History because the old frame work cannot explain the new difficulties that arose in the 21st century world. The main purpose of this course is to offer you some opportunities to be able to understand what The World Economic History is and to consider by yourself on what stage of the human history you are standing.</p>			
<p><b>到達目標：</b>                  A：知識・理解：以下の諸点について、西洋経済史の史実、用語などを十分に説明できる。                  ・産業革命 ・世界市場の成立 ・資本主義の構造転換 ・現代資本主義の特質                  B：専門的技能：                  C：汎用的技能：近代西洋経済史の史実、用語などを文脈に沿って的確に説明できるとともに、自己の見解を述べることができる。                  D：態度・志向性：近代西洋経済の史的現象について深い洞察を行い、現代的問題関心を深めることができる。</p>			
<b>授業計画：</b>			
	進度・内容・行動目標	講義	演習・その他
第1回・第2回	世界経済の捉え方	○	
第1回・第2回	世界経済の捉え方	○	
第3回～第5回	自由主義局面	○	
第3回～第5回	自由主義局面	○	
第3回～第5回	自由主義局面	○	
第6回～第8回	構造転換の諸局面	○	
第6回～第8回	構造転換の諸局面	○	
第6回～第8回	構造転換の諸局面	○	
第9回	中間試験	○	
第10回～第12回	パクス・アメリカーナの時代	○	
第10回～第12回	パクス・アメリカーナの時代	○	
第10回～第12回	パクス・アメリカーナの時代	○	
第13回～第15回	新自由主義局面	○	
第13回～第15回	新自由主義局面	○	
第13回～第15回	新自由主義局面	○	
<p><b>授業以外での学習にあたって：</b>教科書を主として参考図書的に利用しながら、講義はパワーポイント画像を中心と</p>			

して進める。必要な箇所では、他に有用な文献や視聴覚資料を受講者の理解を助ける手段に活用する。後者の内容も試験の範囲とするので、十分に留意すること。

**テキスト：**石見徹（著）『世界経済史—覇権国と経済体制—』（東洋経済新報社）

**参考書：**長岡新吉（他著）『世界経済史入門』（ミネルヴァ書房）／馬場哲他・山本通（他著）『エレメンタル欧米経済史』（晃洋書房）／奥西孝至・鳩澤歩（他著）『西洋経済史』（有斐閣）

**授業資料：**資料のダウンロードサイト [http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~fujii/Office\\_F\(main\).htm](http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~fujii/Office_F(main).htm)

**成績評価：**

評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	◎		◎	◎	
小テスト	○		○	○	
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					

**成績評価基準に関わる補足事項：**単位認定に際しては、定期試験の結果を重視する(80～90%)。またそれ以外に、出席の状況や講義中行なう臨時試験あるいはレポート等の点数も加味することがある(10～20%)。

**学習相談：**オフィスアワーは随時。ただし、電子メールを通じて事前に予約すること(fujii@econ.kyushu-u.ac.jp)。

**その他：**第9回を簡単な中間試験とする。なお、最終回で教場試験とすることがある。

講義の詳細かつ具体的な仕方については、初回の講義時に行う。

なお、本講義はEUIJ九州の『学部EU研究ディプロマプログラム（学部EU-DPs）』科目（経済モジュール）としても開講する。

**【EU-DPs 科目分類】**

(B) 歴史・思想・文化など、EUに関連するものを扱う。

「本科目はEU研究ディプロマプログラム（EU-DPs）に開放されています。<http://eu.kyushu-u.ac.jp/indexjp.html> 1

**更新日付：**2017/04/19 10:34:20





授業への貢献度	○	○	○		
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：小テスト、期末テストをもとに成績評価を行う。					
学習相談：毎週火曜日の2限目（第3週を除く）にオフィスアワーを設ける。					
その他：					
更新日付：2017/03/13 17:44:06					

## 平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：会計学 I		講義題目：			
授業科目区分：		講義コード：17171019			
開講学期等：前期	担当教員名：足立 俊輔	単位数：2.0	対象 学年等：学部3, 4年		
履修条件： 電卓を毎時間持参すること	キーワード： 簿記、会計、仕訳、試算表、精算表	履修に必要な知識・能力： 特になし			
<b>授業の概要：</b> 企業は利益をあげるために様々な活動を行っていますが、そうした様々な企業活動を測定・評価するのが簿記・会計です。具体的には、「複式簿記」と呼ばれるものを用いて企業活動は仕訳され、仕訳された企業活動は貸借対照表や損益計算書といった財務諸表に記載され一般に公開されています。本科目では、こうした複式簿記を用いて作成される財務諸表の基本構造が理解できるように講義を進めていきます。 A company does various activities to make profits and accounting is used to measure and evaluate such a various activities. Especially, double-entry bookkeeping is used to make financial statements such as balance sheet and income statement. This lecture's object is to understand a basic mechanism of double-entry bookkeeping in Japan.					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：簿記・会計の仕組みを理解する。 B：専門的スキル：仕訳を正確に把握し、日商簿記検定3級の過去問題を解くことができる。試算表・精算表を正確に読み取り、貸借対照表・損益計算書の作成の流れが理解できる。 C：汎用的スキル：企業のIR情報から、貸借対照表と損益計算書の簡単な財務分析ができるようになる。 D：態度・志向性：簿記・会計、特に仕訳に対する基本を身につける。					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
ガイダンス、簿記の意味・目的・種類、簿記の基礎概念		○			
簿記の基礎概念		○			
取引、勘定と仕訳		○			
現金預金取引		○			
商品売買		○			
売掛金と買掛金		○			
その他の債権と債務（1）		○			
その他の債権と債務（2）		○			
手形－振出・受入・引受・取立・支払		○			
有価証券、固定資産		○			
収益と費用、資本金と引出金、税金		○			
決算整理仕訳		○			
まとめ（試算表 作成問題）		○			
まとめ（精算表 作成問題）		○			
まとめ（精算表 作成問題）		○			
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 日商簿記検定の勉強もあわせてしておけば、資格取得にもつながります。					
<b>テキスト：</b> 滝澤ななみ（2016）『みんなが欲しかった簿記の教科書（第4版）』TAC出版					
<b>参考書：</b> 特になし					
<b>授業資料：</b> プリントを毎時間配布しますので、それによって講義を進めていきます。					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識・理解	B： 専門的スキル	C： 汎用的スキル	D： 態度・志向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	◎	◎	○	◎	
小テスト					

レポート	○	○	○	○	
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席	○				
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/03/21 13:16:30					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：経済・経営学基本演習		講義題目：重大事件から読む近代日本経済史			
授業科目区分：		講義コード：17171020			
開講学期等：前期	担当教員名：齋藤 和平	単位数：2.0		対象 学年等：学部2年	
履修条件： 特になし。		キーワード： 経済史，経営史		履修に必要な知識・能力： 日本史についての理解度は問わないが，輪読書の内容を理解する読解力が必要。	
<b>授業の概要：</b> 本授業では，近代日本経済史上において時代の節目となったとされるいくつかの事件に焦点を当て，近代日本経済史の流れを概観していく。取上げるトピックは，「ペリー来航」，「二・二六事件」，「ドル・ショックと石油危機」など歴史に詳しくない人でも一度は耳にしたことはあるであろう比較的有名なものから，「維新の税制改革」，「別子暴動事件」などややマイナーなテーマまで多岐にわたる。そして，その事件の歴史的意義や当時の社会・経済に与えた影響を，履修者全員によるディスカッションを通して議論していく。その上で，今日の社会・経済システムと歴史上の出来事とは不可分であることを示し，学生とともに日本経済史を学ぶ意義を考えていきたい。 The purpose of this class is to study some important matters in Japanese Economic history. You will study and discuss about the impact of these important topics in Japanese history. Moreover, you will discuss the importance of studying Economic history to understand a social-economic system of current Japan.					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解： B：専門的技術： C：汎用的技術： D：態度・志向性：					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
ガイダンス，輪読報告者割り当て					
輪読：第1章 黒船襲来 ー開港の意義					
輪読：第2章 維新の税制改革 ー中央集権国家の形成					
輪読：第3章 明治一四年の政変 ー民権と国権					
輪読：第4章 足尾鉍毒事件 ー産業化の光と影(1)					
輪読：第5章 別子暴動事件 ー産業化の光と影(2)					
輪読：第6章 大正政変 ー大正のデモクラシー					
輪読：第7章 米騒動 ー現代社会への転換					
輪読：第8章 昭和恐慌 ー古典的資本主義経済の終焉					
輪読：第9章 二・二六事件 ー戦争への岐路					
輪読：第10章 敗戦 ー民主化と非軍事化					
輪読：第11章 ドッジ・ライン ー安定と成長の枠組み					
輪読：第12章 保守合同と五五年体制 ー高成長の開始					
輪読：第13章 新日本製鐵の成立 ー大企業体制の確立					
輪読：第14章 ドル・ショックと石油危機 ー安定成長への転換と日本的経営の優位					
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 履修者は，授業までに輪読書の該当章を熟読しておくこと。また，報告者はプレゼンの準備（レジュメ，スライドの作成，論点の提示）を行う。					
<b>テキスト：</b> 武田晴人『新版 日本経済の事件簿 ー開国からバブル崩壊まで』日本経済評論社，2009年。					
<b>参考書：</b> 必要なときは，適宜指示する。					
<b>授業資料：</b>					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専 門 的 技 能	C： 汎 用 的 技 能	D： 態 度 ・ 志 向 性	備考（欠格条件・割合）

学期末試験					
小テスト					
レポート	○				期末課題として課す。
発表（プレゼン・スピーチ）	◎				
授業への貢献度	◎				
作品					
出席	○				
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：出席（30%），報告内容と毎回の発言（40%），レポート（30%）					
学習相談：随時受け付ける。メールにて，事前にアポイントを取ること。 アドレス：skazuhei@econ.kyushu-u.ac.jp					
その他：履修希望者で初回の授業を欠席した者は，教員にメールを送り履修の許可を得た上で，2回目以降の授業に参加すること。					
更新日付：2017/04/05 15:12:30					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：経済・経営学基本演習		講義題目：	
授業科目区分：		講義コード：17171021	
開講学期等：前期	担当教員名：内田 大輔	単位数：2.0	対象 学年等：学部2年
履修条件： 経営学などのビジネスを扱う学問に関心があること。	キーワード： 市場, ビジネス, 経営学	履修に必要な知識・能力： 経営学などのビジネスを扱う学問に関心があること。	
<b>授業の概要：</b> 私たちは、日々いたるところで、「市場」と関わっています。例えば、魚屋で秋刀魚を買ったり、フリマで洋服を売ったり、カフェで働いたりすることはどれも市場を利用してなされる活動ですし、ほとんどのビジネスは多かれ少なかれ市場を通じて行われています。一方で、多くの人は、それが私たちの生活においてどのような役割を担っているのかを気にかけることはないでしょう。この意味で、市場は私たちにとって身近であるけれども馴染みの薄い存在といえるかもしれません。本演習では、この近くて遠い存在である市場をとりあげ、そのメカニズムを体系的に学ぶことを通じて、ビジネスについて考えていきたいと思えます。 その手がかりとして、本演習では、ジョン・マクミランによって書かれた『市場を創る：バザールからネット取引まで』という本を受講者と輪読します。本書は、築地の魚市場、MLBやNBAなどのプロスポーツ、音楽配信、汚職といった一見お互いに関係ないようにみえる様々な事例を紡ぎながら、現代社会において市場が果たしている機能を検討しています。本書より得られる知見の多くは、経営学やマーケティングといったビジネスを扱う学問領域と関わっており、この意味で、本書は、市場をキーワードにビジネスを考える機会を提供しているといえるでしょう。本演習では、本書をじっくり精読することを通じて、ビジネスにまつわる理論を理解し、それがどのように現実で観察される現象を説明できるのかを受講者と議論していきたいと思えます。そして、ゼミで新たな知見を得た後に、いつもと同じ世界がちよっと違ったふうに見えるようになることを目指します。 In everyday life, we use "markets." When we buy pacific sauries in a fish store, when we sell clothes in a flea market, and when we work for a cafe, we use markets. Yet, although we know we use markets, we pay less attention to how markets function. Given that markets have an essential part of today's our economy, it is useful to understand how markets function and how markets makes us better (or worse). In this seminar, through reading "Reinventing the Bazaar: A Natural History of Markets (written by John McMillan)," we attempt to understand the role of markets. Since insights from this book are closely related with arguments in business area (e.g., management and marketing), we discuss business from the perspective of markets. I think that these activities enable participants to see what is special in the ordinary world.			
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：市場およびビジネスに関わる理論を理解し、実際にそれを用いて現象を分析する能力を身につける。 B：専門的技術： C：汎用的技術：専門的な書籍を正確に読み、適確なレジュメを作成することを通じて、新しい知見を獲得する能力を身につける。 D：態度・志向性：ゼミナール形式の中で、友人や教員との相互作用から新たな知見を得る能力を身につける。			
<b>授業計画：</b>			
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他
ガイダンス			演習
市場の定義 (第1章)			演習
市場の生成 (第2・3章)			演習
市場を機能させる5つの要素：情報と信頼 (第4・5章)			演習
レポート課題①			演習
市場を機能させる5つの要素：競争 (第6・7章)			演習
市場を機能させる5つの要素：財産権 (第8・9章)			演習
市場を機能させる5つの要素：外部性 (第10章)			演習
レポート課題②			演習
国家と市場 (第11・12章)			演習
レポート課題③			演習
企業と市場 (第13・14章)			演習
成長と市場 (第15・16章)			演習
レポート課題④			演習
市場の力とその限界 (第17章)			演習

<b>授業以外での学習にあたって：</b> 毎回の講義において，課題を提示しますので，該当箇所の予習が必要になります。授業では，課題への準備で見つけた疑問点や論点を中心に議論を進めていきます。随時，それまでに読んだ範囲の復習を行います。					
<b>テキスト：</b> ジョン・マクミラン（2007）『市場を創る：バザールからネット取引まで』NTT出版。 <b>※演習選択について考える際には，各自事前に目を通しておくとよいと思います。</b>					
<b>参考書：</b>					
<b>授業資料：</b>					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート	◎		○	○	
発表（プレゼン・スピーチ）	◎		○	◎	
授業への貢献度	◎		◎	◎	
作品					
出席	◎		◎	◎	
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b>					
<b>学習相談：</b> オフィスアワー：随時。事前にメール（アドレス：duchida☆econ.kyushu-u.ac.jp）でご連絡ください（☆を@に置き換えてください）。					
<b>その他：</b>					
<b>更新日付：</b> 2017/03/30 11:21:35					



平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：企業経済学		講義題目：企業投資と企業統治の経済分析	
授業科目区分：		講義コード：17171022	
開講学期等：前期	担当教員名：葉 聡明	単位数：2.0	対象 学年等：学部3，4年
履修条件： 初級のミクロ経済、統計学、会計学を履修したことが望ましい。	キーワード： 企業価値、投資、企業統治、モラルハザード	履修に必要な知識・能力： スプレッドシートソフト（エクセル）の基本的な操作ができること。	
<b>授業の概要：</b> この授業は上場企業における投資活動や統治機能を対象に経済分析することが主な内容である。すなわち、企業価値を向上させるための投資にどのような基準が必要であるか、また、そのために企業統治はどのように機能するのかについて経済分析を行い、その課題を考える。前半では分析のツール（例えば、意思決定理論、リスクシェアリング、モラルハザードなど）を説明したうえで、後半では具体的な起業投資と統治に関する問題（例えば、投資、取締役会、報酬、コーポレートコントロールなど）に応用する。現実的に起きている企業統治に関する諸課題や改革を考えることに役立てることを期待する。 In this course we study corporate investment and governance issues associated with the modern publicly held corporations from the perspective of economic analysis. The first part of the course provides basic analytical tools such as decision theory, cost of capital, investment criteria, risk-sharing, and incentive problems. The latter part applies these concepts and models to specific issues, including corporate investment decisions, board monitoring, performance pay, takeovers. It is expected that students can successfully apply these economic reasoning to explaining and assessing real-world corporate behaviors.			
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：企業投資や統治に関する主要な知識や概念を理解すること。 B：専門的スキル：企業投資や統治に関する主要な理論・経済モデルを習得すること。 C：汎用的スキル：グループディスカッション等を通してコミュニケーション能力の向上を図ること。 D：態度・志向性：現実社会の企業における投資や統治の動きに関心を持ち、それに経済分析を加える習慣を身につけること。			
<b>授業計画：</b>			
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他
概論		○	
意思決定に関する理論			
企業価値の最大化に関する理論		○	
企業投資に関する評価方法		○	
不確実性における意思決定と企業価値の最大化		○	
ポートフォリオ理論		○	
財務資産価格決定理論（CAPM）		○	
資本コスト（WACC）		○	
中間試験			
企業買収（M&A）		○	
企業買収（M&A）			Case Study
リスクシェアリング		○	
Bounded Rationality、インセンティブ問題		○	
コーポレートガバナンス：取締役		○	
コーポレートガバナンス：報酬制度		○	
金融危機にみるモラルハザード（倫理的欠如）			Case Study
<b>授業以外での学習にあたって：</b>			
テキスト：なし			
参考書：より詳しい内容を知りたい場合は以下の参考資料をすすめる。 Chew, 1997, Studies in International Corporate Finance and Governance Systems (Oxford). Fabozzi, Neave, Zhou, 2011, Financial Economics (Wiley) Hirshleifer, 1970, Investment, Interest and Capital (Prentice Hall). Milgrom			
授業資料：PowerPoint資料あり、各自事前にダウンロードすること。			

成績評価：					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	◎				30%
小テスト	◎	◎			20%
レポート			◎	◎	20%
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1） 中間試験	◎				30%
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：Office Hour					
その他：					
更新日付：2017/04/10 01:31:52					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：現代日本経済史		講義題目：			
授業科目区分：		講義コード：17171023			
開講学期等：前期	担当教員名：北澤 満	単位数：2.0	対象 学年等：学部3, 4年		
履修条件： 経済史Iを履修済みであることが望ましい。	キーワード： 経済史、産業史	履修に必要な知識・能力：			
<b>授業の概要</b> ： 第二次大戦期から高度成長期までを対象に、現代日本経済史を概観する。講義の際には、以下の2つのことに重点をおく予定である。第一に、経済史観の多様性を強調する。例えば、「現代」という用語を一つとっても、論者によってそれが指す意味内容は大幅に異なることを理解してもらいたい。第二に、可能な限り具体的な企業・人物に焦点をあて、解説を加える。このため、時代の流れが把握しづらくなるかもしれないが、これは小レポート、および復習によって補ってもらおうつもりである。 This course introduces Japanese economic history to students taking this course.					
<b>到達目標</b> ： A：知識・理解：現代日本経済史の概略について理解している。 B：専門的技術： C：汎用的技術： D：態度・志向性：					
<b>授業計画</b> ：					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
イントロダクション					
戦時統制経済					
戦後改革					
経済復興					
高度経済成長のメカニズム					
エネルギー革命					
公害					
企業集団					
高度経済成長の終焉					
<b>授業以外での学習にあたって</b> ：参考書を随時指示するので、これによること。					
<b>テキスト</b> ：なし。					
<b>参考書</b> ：橋本寿朗他『現代日本経済』（第3版） 中西聡編『日本経済の歴史』					
<b>授業資料</b> ：レジュメを配布する。					
<b>成績評価</b> ：					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 術	C： 汎用 的技 術	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	◎	◎	○	○	
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					

出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：定期試験100%					
学習相談：オフィスアワーを利用すること。オフィスアワー時については、事前連絡の必要なし。					
その他：					
更新日付：2017/04/03 16:41:58					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：生命保険の機能と特徴		講義題目：			
授業科目区分：		講義コード：17171024			
開講学期等：前期	担当教員名：橋本 由紀	単位数：2.0	対象 学年等：学部3，4年		
履修条件：	キーワード：	履修に必要な知識・能力：			
<b>授業の概要：</b> 住友生命保険相互会社の提供する講義であり、同社の役職員が、理論と実務の両面から解説を行う。生命保険（事業）の社会における機能や、保険商品と関係法令、保険数理と保険料、資産運用等の生命保険を特徴づける要素について解説を行うとともに、これからの生命保険（事業）について展望する。 This course is provided by the Sumitomo Life Insurance Company. We have lectures by experts of the company on a wide range of insurance topics.					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：生命保険（事業）の機能と特徴について、理論と実務の両面から理解を深める。 B：専門的技術： C：汎用的技術： D：態度・志向性：					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
生命保険および生命保険事業の概要①		○			
保険のニーズ・保険商品①		○			
保険のニーズ・保険商品②		○			
保険のニーズ・保険商品③		○			
保険関係法令・規制・保険約款①		○			
保険関係法令・規制・保険約款②		○			
保険関係法令・規制・保険約款③		○			
生命保険および生命保険事業の概要②		○			
保険の基本原理 保険数理と保険料①		○			
保険の基本原理 保険数理と保険料②		○			
保険の基本原理 保険数理と保険料③		○			
保険の基本原理 保険数理と保険料④		○			
生保事業の現状と課題		○			
金融市場と資産運用①		○			
金融市場と資産運用②		○			
<b>授業以外での学習にあたって：</b>					
<b>テキスト：</b>					
<b>参考書：</b>					
授業資料：講師にて用意する。					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専 門 的 技 能	C： 汎 用 的 技 能	D： 態 度 ・ 志 向 性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	◎				
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					

作品					
出席		○			
その他（自由記述1）	その他（自由記述1）				
その他（自由記述2）	その他（自由記述2）				
その他（自由記述3）	その他（自由記述3）				
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/04/04 20:56:28					



参考書：市販のExcelの解説書					
授業資料：					
成績評価：					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専 門 的 技 能	C： 汎 用 的 技 能	D： 態 度 ・ 志 向 性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	◎				基準点に達しないと単位修得不可
小テスト					
レポート	◎				
発表（プレゼン・スピーチ					
授業への貢献度					
作品					
出席	○				
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：他の授業と同様、単位修得のためには3分の2の出席が必要である。					
学習相談：メールにより学習相談を行う。					
その他：					
更新日付：2017/04/03 11:56:45					



平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：情報処理 I		講義題目：経済学のための情報処理入門			
授業科目区分：		講義コード：17171026			
開講学期等：前期	担当教員名：浦川 邦夫	単位数：2.0	対象 学年等：学部2年		
履修条件： 特になし。		キーワード： エクセル、情報処理、統計処理		履修に必要な知識・能力： 情報処理能力。論理的思考能力。	
<b>授業の概要：</b> 本演習では、代表的な表計算ソフトであるExcelを使用する上での技術を高める。また、経済関連の統計を収集・加工し、基礎的な統計分析を行う作業を通じて、経済の動向についての知識・関心を深める。					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：エクセルで頻繁に使用する機能や各種の関数を学ぶ。 B：専門的技能：推定、検定などの基本的な統計処理の手法を理解する。 C：汎用的技能：必要な情報を収集し、分析する能力を高める。 D：態度・志向性：情報に主体的にアクセスし、その内容について論理的に評価する。					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
第1回	Excelの解説 (基本操作)				
第2回	データの分析と集計				
第3回	単回帰分析				
第4回	データベースの作成と利用				
第5回	様々な関数の使用法				
第6回	国民所得統計				
第7回	度数分布と正規分布				
第8回	二項分布と超幾何分布				
第9回	推定				
第10回	検定				
第11回	非線形回帰				
第12回	総合演習 I				
第13回	人口・出生統計				
第14回	心理統計				
第15回	総合演習				
授業以外での学習にあたって：					
テキスト：					
参考書：山下隆之・石橋太郎・伊東暁人・上藤一郎・黄愛珍・鈴木拓也(2014)『はじめよう経済学のための情報処理[第4版]Excelによるデータ処理とシミュレーション』日本評論社					
授業資料：授業中に配布する。					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考 (欠格条件・割合)
学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表 (プレゼン・スピーチ)					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他 (自由記述1)					
その他 (自由記述2)					
その他 (自由記述3)					

**成績評価基準に関わる補足事項：**毎週、授業の内容に関連した課題プリント1枚を配布するので、次回までに仕上げて提出すること。

課題プリントの提出によって出欠の確認を行う。重要な回の課題は採点して返却する。

課題は、授業時の提出が望ましいが、授業への出席がどうしても困難な場合は、前日までにurakawa@econ.kyushu-u.ac.jpへ提出することも一応は可とする。(その場合は、件名に「自分の名前・学籍番号・何回目の課題であるか」を必ず明記すること。)

**学習相談：**下記の時間帯・場所において、適宜学習相談を行う。

木曜日12時-13時。経済学部棟508号室。

事前にアポイントメントをとることが望ましい。

連絡先：urakawa@econ.kyushu-u.ac.jp

**その他：**

**更新日付：**2017/03/13 18:06:49

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：企業会計		講義題目：財務会計の理論と制度			
授業科目区分：		講義コード：17171027			
開講学期等：前期	担当教員名：大石 桂一	単位数：2.0	対象 学年等：学部3，4年		
履修条件：		キーワード：	履修に必要な知識・能力：		
		財務諸表、財務会計、会計政策	簿記の基礎知識が必要である。		
<p><b>授業の概要：</b>          私たちは企業の活動そのものすべてを見ることはできない。したがって、企業に関して何らかの意思決定を行う際には、その企業の財政状態なり業績なりを「情報」化する必要がある。その1つの手段が会計であり、そうした情報を企業の外部に伝達するのが財務会計である。本講義では、財務諸表に関する基礎知識を習得した上で、会計政策をキーワードに、現代の財務会計をめぐる諸問題を考察していく。</p> <p>We cannot see all the activities of the company. Therefore, when we make decisions, it is necessary to convert the financial condition and performance of the company into "information". Accounting is one of the tool to do so, and financial accounting is to convey such information to the outsiders of the company. In this lecture, after acquiring the basic knowledge on financial statements, students will study various problems related to modern financial accounting with the accounting policy as a key word.</p>					
<p><b>到達目標：</b>          A：知識・理解：財務会計の用語、理論、制度を理解し、説明できるようになる。          B：専門的技能：高度な会計処理を理解できるようになる。          C：汎用的技能：財務諸表の情報を十分に利用できるようになる。          D：態度・志向性：現代の会計問題に関心を深める。</p>					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
イントロダクション		○			
事実の多面性と会計計算の相対性		○			
制度会計の基礎(1)		○			
制度会計の基礎(2)		○			
効率的資本市場と会計情報		○			
負債契約と会計政策		○			
会計方法選択の理論と実証		○			
政治コストと会計政策		○			
不正な経理操作		○			
ビッグ・バス		○			
連結集団の会計政策(1)		○			
連結集団の会計政策(2)		○			
税金と会計政策		○			
会計基準の経済的帰結		○			
まとめ		○			
<p><b>授業以外での学習にあたって：</b>          テキスト：講義資料を配付する。          参考書：適宜指示する。          授業資料：授業の資料はEラーニングシステムMoodleから入手すること。</p>					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専 門 的 技 能	C： 汎 用 的 技 能	D： 態 度 ・ 志 向 性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	◎	◎	○	○	80%
小テスト					
レポート	◎	◎	○	○	20%
発表（プレゼン・スピーチ）					

授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：随時相談に応じる。メールにてアポイントを取ること。					
その他：					
更新日付：2017/03/30 12:52:10					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：貿易投資分析		講義題目：世界経済の構造変化 リーマン・ショックを境とした構造変化の解説	
授業科目区分：		講義コード：17171028	
開講学期等：前期	担当教員名：石田 修	単位数：2.0	対象 学年等：学部3，4年
履修条件：	キーワード： 多国籍企業 グローバル生産システム フラグメンテーション 企業の異質性 企業の成長 グローバル・インバランス 不平等 タックスヘイブン 金融化 新自由主義 ケインズ ハイエク シュムペーター ペンローズ	履修に必要な知識・能力： 国際経済 I および II で学習したことを確認しておくこと。とりわけ、マクロ経済では、ストックとフロー、ネットとグロスの概念の明確化。国際収支表の構造。国際金融のトリレンマ。ミクロでは、産業内貿易、フラグメンテーション、企業の異質性。	
<p><b>授業の概要</b>：</p> <p>リーマンショックによる金融危機・経済危機以前の世界経済とその後の世界経済を対比して、世界経済の構造を解りやすく解説します。授業は3つの側面から多面的・多層的に説明します。</p> <p>1. &lt;マクロ経済の側面&gt;からは、グローバル・インバランスの形成とその背後にある資金フロー（ネットとグロスで見た）の変化、証券化・CDSなどの金融イノベーションが推し進めた金融化がもたらした弊害、そして富の所有格差拡大を確認します。そして、グローバル生産システムを拡大させるマクロ経済環境を明確にします。</p> <p>2. &lt;ミクロ経済の側面&gt;からは、貿易構造の変化として中間財貿易の拡大と産業内貿易の拡大を確認し、この変化がグローバル生産システム形成の証拠であること示します。また、変化を反映した貿易理論として、「企業の異質性」について説明します。</p> <p>3. &lt;メゾの側面&gt;として、多国籍企業が形成するグローバルな企業関係であるグローバル・バリューチェーンの構造を多様な側面から確認し、世界経済の構造変化を明らかにします。</p> <p>くわえて、国や地域にの構造にも注目します。たとえば、米国と中国の関係を中心としたグローバルインバランス、EU域内のインバランスとEU諸国がグローバル・インバランスに間接的に影響した資本取引、EUの通貨統合・金融自由化と財政政策の不備、日本の世界経済における</p> <p>It is important to understand a structural change of the world economy in constructed with globalization process before the Lehman shock and the economic stagnation after that in this lecture. We consider form three aspects.</p> <p>At the macro-economic level. we analyze the global imbalances, financializaion, inequality after changing the economic policy and institutions of developed countries. At the micro-economic level, we make clear the process of increased intermediate goods trade and intra-industry trade. At the meso-level, we consider the structure of global value chains and the function of network. From these three aspects, we make clear structural change of the world economy.</p>			
<p><b>到達目標</b>：</p> <p>A：知識・理解：講義におけるミクロ・メゾ・マクロという3つの側面からの考察の基本的知識の習得とその理解。</p> <p>B：専門的技能：世界経済を分析するさいの理論的フレームワークの活用と応用。そよび、理論の批判的取り組み。</p> <p>C：汎用的技能：経済の多面的見方とそれを総合する能力。</p> <p>D：態度・志向性：授業での問いかけにたいする、積極的な返答。</p> <p>講義での疑問点への質問。</p>			
<b>授業計画</b> ：			
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他
講義の目的 単位の認定方法 国際経済学 II と II を基礎とした応用経済としての貿易投資分析		○	
経済学の第2に危機と新自由主義の興隆： グローバルゼーションとは何かを考える		○	
アメリカの政策転換・制度転換そして中国の「新自由主義」		○	
バブルによる需要拡大とグローバルインバランス：グローバル生産システムの形成・拡大要因①		○	
金融化と産業資本主義の崩壊とアンバンドリングの進行： グローバル生産システムの形成・拡大要因②		○	
直接投資パッケージのアンバンドリングとアウトソーシング		○	

グの活用：ローバル生産システムの形成・拡大要因③			
ブラザ合意とアジアの生産システムの形成：2つの経済メカニズム・制度変化の相互作用としての生産システム	○		
グローバル生産システムの形：指標の提示と実証分析	○		
貿易構造の変化：産業内貿易分析と企業の異質性分析そしてその限界	○		
グローバル・バリューチェーン・分析の意義と限界	○		
ガバナンス分析・コスト原理分析、企業の成長、ネットワークの機能そして制度	○		
グローバル・生産システムとは：制度分析を含んだ生産ネットワーク	○		
リーマンショック・金融危機とグローバル生産システムの変容	○		
アジアの生産システムとヨーロッパの生産システムの相違：グローバルインバランスとEU域内インバランスと対比して	○		
世界経済の構造変化をどのように理解すべきか	○		

**授業以外での学習にあたって：**指定したテキストを事前・事後に読み・学習すること

**テキスト：**石田修 『グローバリゼーションと貿易構造』 文眞堂

**参考書：** トマ・ピケティ 『21世紀の資本』 みすず書房 九州大学の電子書籍で利用できます。  
志賀 櫻 『タックス・ハイブーン——逃げていく税金』 岩波新書  
バリー・アイケングリーン 『グローバル・インバランス』 東洋経済新報社。  
また、以下の本も講義の内容と関係します  
ダニ・ロドリック 『グローバリゼーション・パラドクス』 白水社  
ヴォルフガング・シュトレック 『時間かせぎの資本主義』 みすず書房

**授業資料：**必要な新聞記事・雑誌記事等の情報は講義で指摘します。

また、必要な場合は資料を配付します。

授業資料は、講義当日以外には配布しませんので注意してください。

また、以下のURLを参照のこと

<http://www.oecd-ilibrary.org/sites/9789264189560-sum-ja/index.html?itemId=/content/summary/9789264189560-sum-ja&mimeType=text/html>

**成績評価：**

評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	◎	◎	◎	◎	
小テスト					
レポート	◎			◎	
発表（プレゼン・スピーチ					
授業への貢献度				◎	
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					

**成績評価基準に関わる補足事項：**最終試験では、分かりやすい答案を心がけてください。図や表を用いたり、アンダーラインや色使いで強調するなど、プレゼン効果の高い答案を求め、その点も評価の対象とします。

**学習相談：**講義中に質問したり、講義の後に質問してください。また、研究室に訪問する場合は、事前にメール [ishida@econ.kyush-u.ac.jp](mailto:ishida@econ.kyush-u.ac.jp) へ連絡してアポをとってください。

**その他：**

**更新日付：**2017/04/02 00:57:47

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：産業構造		講義題目：日中産業発展比較	
授業科目区分：		講義コード：17171029	
開講学期等：前期	担当教員名：堀井 伸浩	単位数：2.0	対象 学年等：学部3, 4年
履修条件： 特になし	キーワード： 日本の産業、中国の産業、産業経済論、中国経済論	履修に必要な知識・能力： 特に求めない	
<p><b>授業の概要：</b></p> <p>本講義は、産業経済論について基礎的な理論を説明し、実際の産業の事例をどのように分析できるかを説明する。産業経済論は大別すれば、産業構造論と産業組織論に区分することができる。産業構造論はマクロ的に様々な産業部門全体を包括して捉え、経済発展に伴い、産業構造がどのように変容してきたかを動的に分析する見方である。他方、産業組織論はミクロ的に各産業の市場構造を分析し、その条件の下で価格がどのように決まり、企業がどのような振る舞いをするかを静的に分析する見方である。実際の産業分析においては、まずは産業構造論に基づいて歴史的なパースペクティブから産業発展段階を把握し、念頭に置きながら、産業組織論を援用して産業の詳細な状況について分析を行うアプローチが有用である。</p> <p>本講義では、産業分析の基底となる産業構造論について解説を行い、具体的に日本と中国の経済発展と産業発展の来歴をマクロ的な指標に基づき回顧しながら理論の適合性を吟味する。その上で、両国が抱えている現代的な課題について政策の妥当性についても検討しながら解決策を議論する。</p> <p>Industrial economics has two types of approach. One is focusing on industrial structure (industrial development), and another is on industrial organization. The former approach is macro or semi-macro, whose interest is on the dynamic transformation of industrial structure due to economic development. The latter is micro, focusing on how price is set and companies act, reflecting market conditions. In analysis on some industry, it is useful to recognize the development stage of the industry in the country from the historical perspective, and to apply for industrial organization theory to understand the detail of the industry.</p> <p>In this class, industrial structure is mainly discussed, taking economic and industrial development of Japan and China as case studies. The theory is studied by referring to macro statistics and the challenges both countries are facing are pointed out, and recommendations are discussed in consideration of the effectiveness of policies.</p>			
<p><b>到達目標：</b></p> <p>A：知識・理解：産業構造論の基本的視点と現実の課題についてその動向と背景を十分に説明できる</p> <p>B：専門的技能：日本と中国の産業発展に関する知識を習得し、基本的な視点を正確に説明し、自らの見解を述べる事が出来る</p> <p>C：汎用的技能：日本と中国の産業に関わる最新動向とその背景を文脈に沿って的確に説明できるとともに、自己の見解を述べる事が出来る</p> <p>D：態度・志向性：日本と中国の産業に関わる最新動向とその背景について深い洞察を行い、問題関心を深める事が出来る</p>			
<b>授業計画：</b>			
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他
オリエンテーション		○	
経済発展と産業構造の変化－ペティ＝クラークの法則と農業の地位低下		○	
日本の農政の是非－食料安全保障で正当化できるか？ 中国農業問題の構図		○	
日本製造業の対外進出による国際分業の進展－空洞化論は本当か？		○	
国際分業構造の変容－岐路に立つ日本		○	
日本の課題：イノベーションのジレンマと世界のイノベーション構造の変化		○	
中国は「中所得国の罠」に陥るのか？労賃の高騰とルイスの転換点論争		○	
中国のイノベーション：国家資本主義とイノベーション		○	
イノベーションと知的所有権保護：パクリはイノベーションを阻害するか？		○	
モノづくりの産業構造を抜本的に変える？最近の潮流		○	
日本の「失われた20年」をもたらしたもの：サービス経済化の失敗		○	
サービス経済化促進に向けた中国の取り組み		○	

情報通信技術（ICT）の進化がサービス産業にもたらす影響	○				
まとめ	○				
教場試験					
<b>授業以外での学習にあたって：</b>					
<b>テキスト：</b> テキストは指定しない、毎回講義資料を配布する。					
<b>参考書：</b> 適宜紹介する。					
<b>授業資料：</b> 毎回講義資料を紙ベースで配布する。					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b> 出席・小テスト（30%）、期末試験（70%）で評価。					
<b>学習相談：</b> オフィスアワーは月曜12：00-13：00であるが、事前にメールにて相談の希望を寄せてくれれば別の日程でも調整可能。					
<b>その他：</b>					
<b>更新日付：</b> 2017/04/11 12:32:58					





参考書：市販のExcelの解説書					
授業資料：					
成績評価：					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専 門 的 技 能	C： 汎 用 的 技 能	D： 態 度 ・ 志 向 性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート	◎				基準点に達しないと単位修得不可
発表（プレゼン・スピーチ					
授業への貢献度					
作品					
出席	◎				
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：他の授業と同様、単位修得のためには3分の2の出席が必要である。					
学習相談：初回の授業でオフィスアワーの日時を決定する。					
その他：					
更新日付：2017/04/03 16:11:52					



参考書：山下隆之・石橋太郎・伊東暁人・上藤一郎・黄愛珍・鈴木拓也(2014)『はじめよう経済学のための情報処理[第4版]Excelによるデータ処理とシミュレーション』日本評論社					
授業資料：moodleにて配布					
成績評価：					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート	◎				基準点に達しないと単位修得不可
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席	○				
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：単位修得のためには3分の2の出席が必要である。					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/04/03 11:52:35					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：経済・経営学基本演習		講義題目：ボードゲームの理論：「モノポリー」の経済学	
授業科目区分：		講義コード：17171032	
開講学期等：前期	担当教員名：鷲崎 俊太郎	単位数：2.0	対象 学年等：学部2年
履修条件： 初回の授業に出席して、履修を認められた者	キーワード： 独占・寡占、金融資産、不動産、公共事業、1920年代、1930年代、アメリカ経済史、両大戦間期	履修に必要な知識・能力： 戦略的知識と勝負運	
<b>授業の概要：</b> 「モノポリー」を通じて、経済学の理論的枠組を意識するとともに、それをビジネス書および経済学の入門書の講読を通じて体系的に把握し、（ゲーム上で）戦略的に使用できることを目標とする。 「モノポリー」とは、1935年という大恐慌時代にアメリカで誕生したボードゲームである。商品化される前は、経済学の教授や大学院生が税金の理論（所得税・物品税・固定資産税など）を説明するために考案した代物であった。そのせいか、資本主義をモデルとしつつも、市場の失敗をふんだんに取り入れたゲームとなり、発売以来の70年間に、世界中で2億セットが販売されたヒット商品として名高い。 履修者には、「モノポリー」のルールを正確に把握し、勝者となるべき戦略を形成してもらおうと同時に、このゲームの背景にある経済学的要素をアカデミックに理解してもらおうことを期待している。 The purpose of this class is to recognize a framework of economic model through MONOPOLY(C). Students need to know a exact rule of MONOPOLY(C) and to understand the essence of economics academically behind this game.			
<b>到達目標：</b> A：知識・理解： B：専門的技能： C：汎用的技能： D：態度・志向性：			
<b>授業計画：</b>			
進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
イントロダクション、履修希望者多数の場合はドラフトルールの把握と「モノポリー」の試行			
テキスト輪読：フィリップ・E・オルバーンズ（千葉敏生訳）『投資とお金の大事なことはモノポリーに学べ！』日本実業出版社、2013年 ・第1章 お金…モノポリーが教える「お金」の教訓 ・第2章 ボード…自分の立ち位置をよく知り、先を読む ・第3章 ルール…ルールの習得が成功への第一歩			
テキスト輪読：オルバーンズ『投資とお金の大事なことはモノポリーに学べ！』 ・第4章 ゲーム…基礎を学び、応用力を付ける ・ゲームの始まり～サイコロの目の確率			
テキスト輪読：オルバーンズ『投資とお金の大事なことはモノポリーに学べ！』 ・第4章 ゲーム…基礎を学び、応用力を付ける ・ゲーム中盤～資産は分散すべきか？集中すべきか？			
テキスト輪読：オルバーンズ『投資とお金の大事なことはモノポリーに学べ！』 ・第5章 コマ…自分自身をよく知る ・第6章 サイコロ…運と確率の法則を知る ・第7章 権利書…成長を目指して、現金を投資する			
テキスト輪読：オルバーンズ『投資とお金の大事なことはモノポリーに学べ！』 ・オルバーンズ『投資とお金の大事なことはモノポリーに学べ！』 ・第8章 建物…最適投資で収入を増やす ・第9章 カード…想定されることに備える ・第10章 プレイヤー…交渉の極意と説得のスキル			
テキスト輪読：オルバーンズ『投資とお金の大事なことはモノポリーに学べ！』 ・第11章 時間…チャンスを逃さないゲームプランを立			

てる ・第12章 楽しみ…目標達成を祝う					
ヴィジュアル・レクチャー (DVD鑑賞) ・2014年度モノポリー日本選手権 決勝戦 on You Tube					
ヴィジュアル・レクチャー (DVD鑑賞) ・映像の世紀(第3集)「それはマンハッタンから始まった」					
・創作「モノポリー」発表会					
・実践!「モノポリー」					
・実践!「モノポリー」					
<b>授業以外での学習にあたって:</b> ・英語のルールブックを翻訳する, ・輪読時にレジュメ, パワーポイントを作成し, 各章の内容に関するプレゼンテーションを行う。 ・グループワークとして, 「モノポリー」地方版を創作するための準備を行う。					
<b>テキスト:</b> ・フィリップ・E・オルバーンズ(千葉敏生訳)『投資とお金の大事なことはモノポリーに学べ!』日本実業出版社, 2013年(各自で購入)					
<b>参考書:</b> ・百田郁夫『世界チャンピオンが教えるモノポリー』ネスコ, 1990年 ・A. アクセルロッド(大地舜訳)『モノポリーで学ぶお金持ちの法則』ダイヤモンド社, 2004年					
<b>授業資料:</b> ・2014年度モノポリー日本選手権決勝戦 (You Tubeにアップロード) <a href="https://www.youtube.com/watch?v=qNlIsqIhBCs">https://www.youtube.com/watch?v=qNlIsqIhBCs</a>					
<b>成績評価:</b>					
評価方法・観点	A: 知識 ・理 解	B: 専門 的技 能	C: 汎用 的技 能	D: 態度 ・志 向性	備考(欠格条件・割合)
学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表(プレゼン・スピーチ)					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他(自由記述1) その他(自由記述1)					
その他(自由記述2) その他(自由記述2)					
その他(自由記述3) その他(自由記述3)					
<b>成績評価基準に関わる補足事項:</b>					
<b>学習相談:</b> 随時, 研究室(箱崎・経済601号室)にてオフィスアワーを開催する。 事前に, メールでアポイントメントを取ってほしい。 (メールアドレス: shuntaro@econ.kyushu-u.ac.jp)					
<b>その他:</b> スケジュールや詳細などは, 下記のサイトにアップロードする。 <a href="http://www.washizaki.org/basic_seminar/index.html">http://www.washizaki.org/basic_seminar/index.html</a>					
<b>更新日付:</b> 2017/04/04 14:14:19					



	知識 ・理 解	専門 的技 能	汎用 的技 能	態度 ・志 向性	
学期末試験	◎				
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席				○	
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/04/03 09:51:56					





小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）	◎	◎	◎	◎	
授業への貢献度	○	○	○	○	
作品					
出席	○	○	○	○	
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：平常点を基にして成績評価を行う。					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/04/09 10:56:16					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：世界経済		講義題目：世界経済の構造変化と東アジア経済			
授業科目区分：		講義コード：17171035			
開講学期等：前期	担当教員名：清水 一史	単位数：2.0	対象 学年等：学部3，4年		
履修条件： 経済の基礎科目や国際経済学を履修しておいてほしい。	キーワード： 世界経済、国際経済、国民国家、東アジア、ASEAN、RCEP、TPP、貿易、投資、経済統合、FTA、経済発展、工業化	履修に必要な知識・能力： 経済学の基礎知識。国際経済学の基礎知識。政治経済の基礎知識。歴史の基礎知識。			
<b>授業の概要：</b> グローバル化し構造変化を続ける現代世界経済を、現実、歴史、理論の面から総合的に分析する。すなわち、現代世界経済における貿易や投資の現実、第二次世界大戦後の国際経済体制と国際貿易や投資の進展、地域経済統合の展開など世界経済の構造変化を解説する。また、貿易の理論や資本移動の理論等を解説することにより、世界経済を総合的に分析する。なお、ASEAN（東南アジア諸国連合）や東アジアの経済統合についても、詳しく解説したい。					
<b>到達目標：</b> 知識・理解：世界経済や東アジア経済について基礎的知識を獲得する。 専門的技能：世界経済や東アジア経済について自らの見解を持つ。 汎用的技能：世界経済や東アジア経済について説明することが出来る。 態度・志向性：毎回出席し 毎回出席し予習・復習を行う。					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
ガイダンス					
世界経済論の課題と方法①		○			
世界経済論の課題と方法②		○			
第二次世界大戦後の国際的相互依存の拡大①		○			
第二次世界大戦後の国際的相互依存の拡大②		○			
第二次世界大戦後の国際的相互依存の拡大③		○			
第二次世界大戦後の国際的相互依存の拡大④		○			
第二次世界大戦後の国際的相互依存の拡大⑤		○			
東アジア経済の構造変化と経済統合①		○			
東アジア経済の構造変化と経済統合②		○			
東アジア経済の構造変化と経済統合③		○			
東アジア経済の構造変化と経済統合④		○			
東アジア経済の構造変化と経済統合⑤		○			
東アジア経済の構造変化と経済統合⑥		○			
まとめ：世界経済の課題と日本の役割		○			
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 世界経済や東アジア経済に関する情報や資料を、常に収集しておく。 世界経済や東アジア経済に関する本や、政治経済や歴史に関する本を、自ら読んでおく。					
<b>テキスト：</b> 石川幸一・清水一史・助川成也編著『ASEAN経済共同体の創設と日本』文眞堂、2016年。					
<b>参考書：</b> 石川幸一・馬田啓一・清水一史編『検証 アジア経済』文眞堂、2017年。 馬田啓一・浦田秀次郎・木村福成編『TPPの期待と課題』文眞堂、2016年。 石川幸一・朽木昭文・清水一史編『現代ASEAN経済論』文眞堂、2015年。 石川幸一・清水一史・助川成也編著『ASEAN経済共同体と日本』文眞堂、2013年。 山澤逸平・馬田啓一・国際貿易投資研究会編『アジア太平洋の新通商秩序』勁草書房、2013年。 清水一史・田村慶子・横山豪司編著『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年。 『東アジア					
<b>授業資料：</b> 適宜、配布する。					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識	B： 専門	C： 汎用	D： 態度	備考（欠格条件・割合）

	・理解	的技 能	的技 能	・志 向性	
学期末試験	◎				
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：オフィスアワー：随時。事前にメールで連絡して下さい。shimizu@econ.kyushu-u.ac.jp					
その他：					
更新日付：2017/04/04 17:57:25					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：国際会計		講義題目：多国籍企業の会計			
授業科目区分：		講義コード：17171036			
開講学期等：前期	担当教員名：潮崎 智美	単位数：2.0	対象 学年等：学部3, 4年		
履修条件： 会計学Ⅰおよび会計学Ⅱを履修済みであることが望ましい	キーワード： 国際会計基準 (IFRS)、会計制度 ・実務の国際的相違	履修に必要な知識・能力： 現在世界に生じている未解決の諸問題に積極的に取り組もうとする意欲			
<b>授業の概要：</b> グローバル化の進行する社会のなかでも、会計基準のグローバル化は他の領域に先んじて進行しており、会計のグローバル・スタンダードが世界的に普及している状況にあります。 本講義では、経済的・政治的・社会的環境の影響を受けて形成されている各国の会計の状況、その国際的相違、ならびにその相違を減少させる取り組みについて学習し、会計を通じて見えるグローバル化の諸問題について考えます。					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解： B：専門的技能： C：汎用的技能： D：態度・志向性：					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
オリエンテーション		○			
国際会計と国際ビジネス		○			
国際会計の種類、文化、発展		○			
財務会計の国際比較Ⅰ		○			
財務会計の国際比較Ⅱ		○			
財務諸表の国際比較分析		○			
透明性と情報開示		○			
—中間試験—					
会計基準の国際的統合化		○			
企業結合、のれんおよび無形資産		○			
セグメント報告		○			
外貨の会計		○			
コーポレート・ガバナンスとグローバル経営		○			
国際監査における諸問題		○			
—定期試験—					
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 参考書に挙げた英文文献を用いて、英語で同時に学習することを推奨します。 <b>テキスト：</b> 参考書をベースとした授業資料を用いて講義します。					
<b>参考書：</b> Radebaugh, L., S. J. Gray and E. L. Black (2006) International Accounting and Multinational Enterprises, Sixth Edition, John Wiley & Sons, Inc. (小津稚加子監訳 [2007] 『多国籍企業の会計』中央経済社)					
<b>授業資料：</b> 授業資料は九州大学e-Learning System Moodleにアップします。					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考 (欠格条件・割合)
学期末試験	○	○	○		
小テスト	○				
レポート					
発表 (プレゼン・スピーチ)					
授業への貢献度				○	

作品					
出席					
その他（自由記述1） 中間試験	○	○	○		
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b> 平素の成績（小テストおよび授業態度など）、中間試験、定期試験により評価します。					
<b>学習相談：</b> メールでアポイントメントを取ったあと、研究室に来ること。 shiosaki@econ.kyushu-u.ac.jp					
<b>その他：</b> 本科目はEU研究ディプロマプログラム（EU-DPs）に開放されています。 <a href="http://eu.kyushu-u.ac.jp/educationjp.html">http://eu.kyushu-u.ac.jp/educationjp.html</a> 本科目では、EUそのものについては取り上げませんが、EUを理解するために、EUが置かれている現代世界的な課題について講義を行います。					
<b>更新日付：</b> 2017/04/10 03:36:38					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：地域政策		講義題目：自治体地域政策と地方財政			
授業科目区分：		講義コード：17171037			
開講学期等：前期	担当教員名：八木 信一	単位数：2.0	対象 学年等：学部3，4年		
履修条件： とくにないが、地域や地方自治体について興味関心が少しでもあるほうが望ましい。		キーワード： 地方財政、自治体地域政策、地方自治、地方分権、地域ガバナンス		履修に必要な知識・能力： 財政や社会保障など、公共政策に関わる他の授業の知識があったほうが（または同時並行的に履修したほうが）、より円滑に授業を理解できる。	
<b>授業の概要：</b> 本授業では、地方財政とそれに関する自治体地域政策について、理論、制度、歴史、事例の4つの側面から包括的に理解することを目的とする。 This class treats a theme of local public finance and related topics of public policies by local governments. Especially, the purpose of this class is to understand theory, institution, history and case study of above-mentioned theme comprehensively.					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：地方財政の理論、歴史、および制度について理解することができる。 B：技能：地方財政や自治体地域政策に関する諸情報を、moodleなどを通して主体的に収集および分析することができる。 C：態度：地方財政、および地域のなかでもとくに地方が置かれている現状について、関心を持つことができる。					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
地方財政とは何か		○		授業の予習と復習	
地方財政のアウトプットとインプット①：アウトプット総論		○		授業の予習と復習	
地方財政のアウトプットとインプット②：インプット総論		○		授業の予習と復習	
地域システムのなかの地方財政		○		授業の予習と復習	
地方財政のインプット各論①：地方税		○		授業の予習と復習	
地方財政のインプット各論②：政府間補助金（その1）		○		授業の予習と復習	
地方財政のインプット各論②：政府間補助金（その2）		○		授業の予習と復習	
地方財政のインプット各論③：地方債		○		授業の予習と復習	
地方財政の歴史①：集権的分散システムの形成過程		○		授業の予習と復習	
地方財政の歴史②：シャウブ勧告の構想と挫折		○		授業の予習と復習	
地方財政のグレーゾーン：地方公営企業と第三セクター		○		授業の予習と復習	
地域エネルギーの政策とガバナンス①：原子力発電所の事例		○		授業の予習と復習	
地域エネルギーの政策とガバナンス②：再生可能エネルギーの事例		○		授業の予習と復習	
自治の質量と地方財政：地域自治組織と地域運営組織		○		授業の予習と復習	
予備日					
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 期末試験直前の短時間の勉強だけでは対応できないような、厚みのある内容で授業は構成されているので、授業の出席はもちろんのこと、予習と復習もきちんと行うこと。					
<b>テキスト：</b> 重森暁・植田和弘編（2013）『Basic地方財政論』有斐閣。 なお、期末試験は持ち込み不可なので、上記のテキストの購入は任意とする。					
<b>参考書：</b> 神野直彦・小西砂千夫（2014）『日本の地方財政』有斐閣。 沼尾波子ほか（2017）『地方財政を学ぶ』有斐閣（5月刊行予定）。					
<b>授業資料：</b> 毎回の授業資料はMoodleを通して配信する。授業中には配付しないので、各自で配信されたものを事前に確認のうえで持参すること。（なお、持参形式は問わないが、板書も行うことがあるので、書き込めるかたちで持参することが望ましい。）					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A：	B：	C：	D：	備考（欠格条件・割合）

	知識 ・理 解	専門 的技 能	汎用 的技 能	態度 ・志 向性	
学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b> 期末試験（持込不可、100点満点）にて行うことを基本とするが、リアクションペーパーの提出者に対してはボーダー救済や加点を行う予定である。詳しくは、第1回授業資料を参照のこと。					
<b>学習相談：</b> 授業終了後に適宜行う。また、これ以外の時間については、事前にアポイントメントをとったうえで、研究室に来室すること。					
<b>その他：</b> 第1回授業は4月14日（金）に開講する。授業資料の掲載連絡や毎回の開講連絡をTwitter（@yatsukiclasqdai）で行っている。なお、フォローは自由であるがそれが成績評価に影響することはない。また、学生へのリフォローは行っていないことを、予め伝えておく。					
<b>更新日付：</b> 2017/03/29 12:46:30					





作品					
出席				◎	40%
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b>					
<b>学習相談：</b> まず、授業の前後で適宜相談に応じる。そのうえで、別途面談が必要な場合は、時間を設定の上研究室にて対応する。					
<b>その他：</b>					
<b>更新日付：</b> 2017/04/04 20:18:00					



小テスト					
レポート	○	○			30%
発表（プレゼン・スピーチ）	◎	◎	◎	◎	40%
授業への貢献度				◎	30%
作品					
出席					
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b>					
<b>学習相談：</b> 随時メールにて受け付けます。学習の内容だけでなく、報告のやり方、資料の作り方がわからないなど、不安な方は早めに相談してください。					
<b>その他：</b> 単に知識を吸収して終わるのではなく、「その知識をわかりやすく伝える」、「知識を使ってじぶんの考えを作る」、「仲間とのディベートから新しい考えを生み出す」といったことに主眼をおきます。					
<b>更新日付：</b> 2017/03/27 08:47:30					



成績評価基準に関わる補足事項：
学習相談：
その他：
更新日付：2017/04/06 16:09:51

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：比較制度		講義題目：制度経済学の基礎と応用 Foundation and Application of Institutional Economics	
授業科目区分：		講義コード：17171041	
開講学期等：前期集中	担当教員名：磯谷 明德	単位数：2.0	対象 学年等：学部3，4年
履修条件： 特になし。	キーワード： 制度経済学、社会経済システムの制度分析、多様性と進化、制度的補完性、制度階層性、制度動学 Institutional economics, Institutional analysis of socio-economic systems, Diversity and evolution, Institutional complementarity, Institutional hierarchy, Institutional dynamics	履修に必要な知識・能力：	
<p><b>授業の概要</b>：</p> <p>「制度が重要である」という認識は、20世紀末からの現代経済学における多くの研究者たちによって共有されてきたものである。この共通の認識の下、研究者たちによる制度の「再」発見を通じて、制度経済学は新たな再生を遂げた。この再生から、新制度派経済学や現代制度派経済学、比較制度分析、企業と組織の経済学、制度と進化の経済理論など、多様なアプローチが登場した。</p> <p>本講義では、20世紀末からの制度経済学の多様な展開から得られる知見を踏まえた上で、制度経済学の基礎的枠組みを、「貨幣」、「労働」、「動学」という3つの視点から理解し学習することを目的とする。</p> <p>The conception that institutions matter has been shared by many researchers in the field of modern economics since the late 20th century. Under this common conception, institutions were 're'discovered by many researchers, and institutional economics made a newly resurgence. From this resurgence, many approaches to the institution, such as New Institutional Economics (NIE), Modern Institutional Economics, Comparative Institutional Economics (CIA), Economics of Firm Organizations and Economics of Institutions and Evolution, have emerged.</p> <p>In light of the insights which were obtained from the various development in the revival of institutional economics since the late 20th century, this class aims at understanding and studying the fundamental framework of institutional economics from the three viewpoints of 'money', 'labour', and 'dynamics'.</p>			
<p><b>到達目標</b>：</p> <p>制度経済学の基本的枠組みとその応用：現代経済の諸問題の理解とその対処のための政策立案にとって、制度が重要であることを理解する。</p> <p>現代経済学の多様性：新古典派経済学とは異なる現代経済学のメニューは多様であることを理解する。</p> <p>制度動学の理論的枠組みの理解：新古典派マクロ経済学とは異なるマクロ経済動学である制度動学、特にポスト・ケインジアンマクロ経済学の理論的枠組みを学習する。</p>			
<b>授業計画</b> ：			
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他
・イントロダクション		○	
・社会経済システムへの制度論アプローチ① (制度経済学の諸潮流)			
社会経済システムへの制度論アプローチ② (制度とは何か/制度経済学の基本視点)		○	
市場への制度論アプローチ① (制度としての貨幣・市場/市場システムの制度的特徴)		○	
市場への制度論アプローチ② (寡占市場と価格の硬直性/価格調整と数量調整)		○	
貨幣的生産の制度分析① (有効需要論の貨幣的基礎/貨幣需要と流動性選好)		○	
貨幣的生産の制度分析② (内生的貨幣供給/金融システムの不安定性)		○	
労働市場と賃金・雇用① (2つの労働市場像/賃金と雇用の決定)		○	
労働市場と賃金・雇用②		○	
			授業時間外学習

(雇用システムの制度的多様性)					
企業への制度論アプローチ① (新古典派経済学の企業像/企業組織への2つのアプローチ)	○				
企業への制度論アプローチ② (株式会社と企業統治/雇用システムと企業統治の制度的補完性)	○				
制度動学：短期分析①	○				
制度動学：短期分析②	○				
制度動学：長期分析①	○				
制度動学：長期分析②	○				
教場試験					
授業以外での学習にあたって：					
テキスト：・ 植村博恭・磯谷明德・海老塚明『新版 社会経済システムの制度分析』名古屋大学出版会、2007年。 ・ 宇仁宏幸・坂口明義・遠山弘徳・鍋島直樹『入門 社会経済学 [第2版]』ナカニシヤ出版、2010年。					
参考書：・ ベルナルド・シャバンス『入門 制度経済学』ナカニシヤ出版、2007年。 ・ Boyer, R., Uemura, H. and Isogai, A. (eds.) Diversity and Transformations of Asian Capitalisms, Routledge, 2012. (Paperback edition, August 2013) ・ 植村博恭・山田鋭夫・宇仁宏幸・磯谷明德編『転換期のアジア資本主義』藤原書店、2014年。 ・ 磯谷明德「制度経済学」					
授業資料：適宜、配布する。 なお、講義資料については、集中講義第1日目の第1回時に指示する。					
成績評価：					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	◎	◎	◎		
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席	◎	◎	◎		
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：毎回の講義終了時に受け付ける。					
その他：本科目はEU研究ディプロマプログラム（EU-DPs）に開放されています。 <a href="http://eu.kyushu-u.ac.jp/educationjp.html">http://eu.kyushu-u.ac.jp/educationjp.html</a> 本科目では、EUそのものについては取り上げませんが、EUを理解するために、EUが置かれている現代世界的な課題について講義を行います。					
更新日付：2017/04/04 00:05:44					



平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：証券市場		講義題目：証券市場からみた戦後日本経済史			
授業科目区分：		講義コード：17171042			
開講学期等：前期集中	担当教員名：伊豆 久	単位数：2.0	対象 学年等：学部3，4年		
履修条件： 特になし。	キーワード： 証券、金融、株式、国債、社債、 デリバティブ、銀行、株式の持ち 合い、高度成長、低成長、バブル	履修に必要な知識・能力： 証券市場に関する知識などは必要あ りませんが、これを機に証券市場に ついて勉強してみようという気持 ちは必要です。			
<b>授業の概要：</b> 有価証券とは何かを簡単に説明したのち、株式、国債、社債、金利スワップ、株価指数先物などの市場が、戦後日本経済の展開のなかで具体的にどのような役割を果たしたのかを考える。 This lecture covers securities markets and explains their historical developments in Japan.					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：証券市場の基礎的知識を習得する。 B：専門的技能：戦後日本経済史における証券市場の役割を把握できる。 C：汎用的技能：資金循環の変化に応じた証券市場の役割の変化を理解できる。 D：態度・志向性：証券市場の普遍的役割と特定の経済状況との組み合わせを理解し、現代の金融経済にアプローチできる。					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
ガイダンス		○			
有価証券とは何か		○			
高度成長期の額面発行増資その1		○			
高度成長期の額面発行増資その2		○			
高度成長期の社債市場		○			
株式の持ち合い		○			
低成長経済と国債の大量発行		○			
金融の自由化と国際化		○			
金利スワップ興長銀		○			
バブル経済の原因		○			
株価指数先物と外資系証券会社		○			
持ち合い崩れのインパクト		○			
4社体制の崩壊とネット証券		○			
現在の証券市場		○			
試験					
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 金融や証券に関する、最近のニュース等に積極的に接し、授業内容と比較しつつ、その意味を自分で考えるようにしてほしい。					
<b>テキスト：</b> 特に定めない。					
<b>参考書：</b> 二上季代司・代田純編『証券市場論』有斐閣、2011年。 川合一郎著作集第3巻『株式価格形成の理論』有斐閣、1981年。 奥村 宏『新版 法人資本主義』現代教養文庫、1991年。 鈴木淑夫『現代日本金融論』東洋経済新報社、1974年。 他、随時、授業中に指示します。					
<b>授業資料：</b> 授業中にレジュメを配布する予定です。					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専 門 的 技 能	C： 汎 用 的 技 能	D： 態 度 ・ 志 向 性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	○	◎	◎	○	
小テスト					

レポートレポート					
発表（プレゼン・スピーチ発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度授業への貢献度					
作品作品					
出席出席					
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：不明な点は、遠慮なく、授業中または授業の前後、あるいはメールで質問すること。					
その他：					
更新日付：2017/03/16 18:05:18					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：経済工学特別演習		講義題目：経済学入門																																																																																											
授業科目区分：		講義コード：17171043																																																																																											
開講学期等：前期集中	担当教員名：木成 勇介	単位数：2.0	対象 学年等：学部3年																																																																																										
履修条件： 特になし	キーワード： 経済学入門、マクロ経済学入門、 ミクロ経済学入門、国際経済学入門	履修に必要な知識・能力： 特になし																																																																																											
<b>授業の概要：</b> 私たちは、衣食住のすべてを自分の力だけで満たすことはできない。しかし、「市場」を通じた交換によって、必要なものを国内ばかりか外国からも手に入れることができる。この一見当たり前に見える現象を効率的に行う「市場メカニズム」とは、どのような原理で動いているのか、また、それを経済社会全体としてどのように把握し理解すればよいかなど、ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学の基本概念を学びながら経済学の大枠について理解を深める。 You usually cannot get everything you need by yourself. Market, however, enables you to obtain them by exchanging goods and service with others. You can get them even from overseas. You might take it for granted, but you probably do not know how the market works and how it makes us possible to understand various phenomena around us. This course gives you basic concepts to understand economic and social phenomena as well as introduces what Economics is.																																																																																													
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：経済学とはどのような学問かを理解する B：専門的技術：経済学の基本的な用語の使い方に慣れる C：汎用的技術：ミクロ経済学やマクロ経済学など今後の学習のための基礎を築く D：態度・志向性：																																																																																													
<b>授業計画：</b> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:50%;">進度・内容・行動目標</th> <th style="width:10%;">講義</th> <th style="width:10%;">演習・その他</th> <th style="width:30%;">授業時間外学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>イントロダクション</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>経済学の十大原理</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>経済学者らしく</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>相互依存と交易</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>需要と供給</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>需要・供給・政策</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>消費者と生産者</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>外部性</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>中間試験</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>国民所得の測定</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>生計費の測定</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>生産と成長</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>貯蓄・投資・金融</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>総需要と総供給</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>復習</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>						進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習	イントロダクション				経済学の十大原理				経済学者らしく				相互依存と交易				需要と供給				需要・供給・政策				消費者と生産者				外部性				中間試験				国民所得の測定				生計費の測定				生産と成長				貯蓄・投資・金融				総需要と総供給				復習																											
進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習																																																																																										
イントロダクション																																																																																													
経済学の十大原理																																																																																													
経済学者らしく																																																																																													
相互依存と交易																																																																																													
需要と供給																																																																																													
需要・供給・政策																																																																																													
消費者と生産者																																																																																													
外部性																																																																																													
中間試験																																																																																													
国民所得の測定																																																																																													
生計費の測定																																																																																													
生産と成長																																																																																													
貯蓄・投資・金融																																																																																													
総需要と総供給																																																																																													
復習																																																																																													
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 講義後には必ずテキストの該当箇所を読むこと。また、講義で扱わなかった箇所もきちんと読むこと。																																																																																													
<b>テキスト：</b> N. グレゴリー・マンキュー「マンキュー入門経済学」東洋経済新報社 (必ずしも毎回の講義に持参する必要はないが、講義後には必ず該当箇所を読むこと。また、講義で扱わなかった箇所もきちんと読むこと)																																																																																													
<b>参考書：</b> 講義中に適宜紹介する																																																																																													
<b>授業資料：</b> 講義中に適宜配布する。																																																																																													
<b>成績評価：</b> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:40%;">評価方法・観点</th> <th style="width:10%;">A： 知識 ・理</th> <th style="width:10%;">B： 専門的技</th> <th style="width:10%;">C： 汎用的技</th> <th style="width:10%;">D： 態度 ・志</th> <th style="width:20%;">備考 (欠格条件・割合)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価方法・観点</td> <td>A： 知識 ・理</td> <td>B： 専門的技</td> <td>C： 汎用的技</td> <td>D： 態度 ・志</td> <td>備考 (欠格条件・割合)</td> </tr> </tbody> </table>						評価方法・観点	A： 知識 ・理	B： 専門的技	C： 汎用的技	D： 態度 ・志	備考 (欠格条件・割合)	評価方法・観点	A： 知識 ・理	B： 専門的技	C： 汎用的技	D： 態度 ・志	備考 (欠格条件・割合)																																																																												
評価方法・観点	A： 知識 ・理	B： 専門的技	C： 汎用的技	D： 態度 ・志	備考 (欠格条件・割合)																																																																																								
評価方法・観点	A： 知識 ・理	B： 専門的技	C： 汎用的技	D： 態度 ・志	備考 (欠格条件・割合)																																																																																								

	解	能	能	向性	
学期末試験	◎	◎	◎		70%
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1） 中間試験	◎	◎	◎		30%
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b>					
<b>学習相談：</b> 講義中の質問は随時受け付ける。講義についていけないと感じたときはできるだけ早く相談すること。					
<b>その他：</b>					
<b>更新日付：</b> 2017/03/14 11:38:54					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：産業政策		講義題目：市場への政府介入と情報通信政策			
授業科目区分：		講義コード：17171044			
開講学期等：前期集中	担当教員名：実積 寿也	単位数：2.0		対象 学年等：学部3，4年	
履修条件： 特になし		キーワード： 市場の失敗、規制、規制緩和、ネットワーク効果、自然独占、情報通信政策		履修に必要な知識・能力： ミクロ経済学の基本を理解していること。	
<b>授業の概要：</b> 政府が産業振興、産業再編、企業育成などを目的に市場メカニズムに介入する「産業政策」をめぐる経済理論を概観し、現実の政策展開を客観的に分析する知見の獲得を目指す。 講義の後半においては、情報通信市場を題材に実際の政府の介入がどのように行われてきたのかについて経済的観点から解説し、分析を加える。 In this class, we learn the theory of governmental intervention into the market dynamism that aims to promote industrial development, reorganize the industrial structure, and incubate new businesses. Also, we focus on the telecom market and evaluate the performance of Japanese ICT policies.					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：産業政策について体系的に理解できる。 B：専門的技能：産業政策を経済理論的に分析できる。 C：汎用的技能：産業政策をめぐる情報を整理し、経済理論を応用しながら自分の意見をまとめる。 D：態度・志向性：産業政策に関連する事象に関心を持ち、客観的に分析する態度を身につける。					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
オリエンテーション		○			
産業政策とは					
市場メカニズムと政府の役割		○			
産業構造に関する政策		○			
産業育成、転換、調整		○			
産業組織に関する政策		○			
戦略的貿易政策		○			
前半のまとめ		○			
通信産業の現状		○			
ネットワーク効果		○			
自然独占性と伝統的規制		○			
規制コストと規制緩和		○			
競争導入と通信ネットワークの整備		○			
ネット産業の経済学		○			
後半のまとめ		○			
産業政策		○			
<b>授業以外での学習にあたって：</b>					
テキスト：『通信産業の経済学2.0』（九州大学出版会）					
参考書：適宜指定する。					
授業資料：講義で使用するスライドについては一部を除いてMoodleから事前にダウンロード可能である。					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専 門 的 技 能	C： 汎 用 的 技 能	D： 態 度 ・ 志 向 性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	◎	◎	◎	◎	
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					

授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：講義中に出席をとり、それを成績評価に加味する可能性がある。 定期試験については指定のテキストのみ持込を認める。					
学習相談：					
その他： ゲストスピーカーを招く場合があり、その場合は講義予定に若干の変更を加える。					
更新日付：2017/03/17 19:38:22					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：数理計画		講義題目：数理計画			
授業科目区分：		講義コード：17171045			
開講学期等：前期	担当教員名：小野 廣隆	単位数：2.0	対象 学年等：学部3，4年		
履修条件： 線形代数・微分積分A,Bの単位を取得していること。	キーワード： 数理計画，最適化，オペレーションズ・リサーチ	履修に必要な知識・能力：			
<b>授業の概要：</b> 数理計画法はオペレーションズ・リサーチなどの分野において発展してきた問題解決手法であり、経済分野でも頻りに現れるテーマである。この授業では、様々な数理計画問題、およびそれらに対する解法を学ぶ。具体的には線形計画、ネットワーク計画、非線形計画などの代表的な数理計画手法について講義する。またゲーム理論と数理計画の関連についても触れる。 Mathematical Programming is a typical problem solving approach, which has been developed in the field of Operations Research, and plays an important role in Economics. In this lecture, we learn several mathematical programming models and algorithms to solve them. They are: linear programming, network programming, non-linear programming. We also learn a relation between mathematical programming and game theory.					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：数理計画問題・双対問題等の概念を理解している。 B：専門的技能：線形計画問題に対するアルゴリズムを理解し、小規模な問題であれば手計算により適用できる。 C：汎用的技能：生産計画・栄養問題等の典型的な最適化問題を、数理計画問題として定式化できる。 D：態度・志向性：世の中にいたるところに現れる問題を最適化の視点でとらえることができる。					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
数理計画モデルについて		○			
線形計画その1		○			
線形計画その2：シンプレックス法		○			
線形計画その3：シンプレックスタブロー		○			
線形計画その4：双対性・感度解析その他の話題		○			
線形計画その5：その他の話題		○			
ネットワーク計画その1：最短路問題		○			
ネットワーク計画その2：最大流問題		○			
ゲーム理論と線形計画その1		○			
ゲーム理論と線形計画その2		○			
予備		○			
予備		○			
<b>授業以外での学習にあたって：</b>					
テキスト：福島雅夫：新版 数理計画入門，朝倉書店 <a href="https://www.amazon.co.jp/dp/4254280041">https://www.amazon.co.jp/dp/4254280041</a>					
参考書：Vasek Chvatal: Linear programming. W. H. Freeman and Company, New York, 1983. <a href="https://www.amazon.co.jp/dp/0716715872">https://www.amazon.co.jp/dp/0716715872</a>					
授業資料：moodle で公開予定					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	◎	◎	◎	◎	
小テスト	◎	◎	◎	◎	

レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/03/28 20:25:32					





発表（プレゼン・スピーチ	◎	○	○	◎	
授業への貢献度					
作品					
出席	◎			◎	
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：随時対応					
その他：					
更新日付：2017/04/20 16:41:53					



履修者による発表・討論					
履修者による発表・討論					
まとめ	○				
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 割り当てられた発表担当の部分については、過去の学生によれば、最低限、3週間ほど前から毎日少しずつでも読み込む必要があるとのことである（1週間前から着手した学生は全く歯が立たず、酷い報告となったケースが何度かある）。また中国語の文章をそのまま日本語に訳して報告するのではなく、書かれてある内容をきちんと理解し、それを自らの経済学の知識に咀嚼、昇華して（必要に応じて日本との比較などを追加しながら）報告することが求められる。中国語の文章を読む経験に乏しいことがほとんどであるはずなので、文意の取れない文章がある場合、オフィスアワーを利用して教員に質問することを認めるので積極的に活用してほしい。					
<b>テキスト：</b> テキストはオリエンテーションで紹介し、履修者の数を確認した上で一括して発注する。					
<b>参考書：</b> 特になし。					
<b>授業資料：</b> 必要に応じて配布する。					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）	◎	◎	◎	◎	
授業への貢献度	◎	◎	◎	◎	
作品					
出席				○	
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b> 発表50%、出席20%、授業での質問やコメントなど貢献度30%という比率で評価する。					
<b>学習相談：</b> テキストの中国語読解を含めて随時受け付けます。但し、メールなどで事前予約すること。					
<b>その他：</b> 全体の目標 中国語で書かれた経済関連文献を読み下し、短時間で内容を把握する能力を育成する。 個別の目標 中国経済の最新動向に関する知見を得るとともに、中国経済研究の初歩的な分析視点を理解する。					
<b>更新日付：</b> 2017/03/20 16:16:52					



成績評価：					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	◎				
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）	◎				
授業への貢献度	○				
作品					
出席	◎				
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：授業終了後に受け付ける。					
その他：					
更新日付：2017/03/31 14:56:45					



発表（プレゼン・スピーチ）	○	○	○	○	
授業への貢献度	○	○	○	○	
作品					
出席				○	
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b> 平素の成績による。					
<b>学習相談：</b> メールでアポイントを取った上で、来室のこと。 shiosaki@econ.kyushu-u.ac.jp 経済学部棟503					
<b>その他：</b> 本科目はEU研究ディプロマプログラム（EU-DPs）に開放されています。 <a href="http://eu.kyushu-u.ac.jp/educationjp.html">http://eu.kyushu-u.ac.jp/educationjp.html</a> 本科目では、EUそのものについては取り上げませんが、EUを理解するために、EUが置かれている現代世界的な課題について講義を行います。					
<b>更新日付：</b> 2017/03/29 20:07:35					





レポート	◎				
発表（プレゼン・スピーチ）	◎				
授業への貢献度	◎				
作品					
出席	◎				
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：随時受け付けるがアポイントメントをとることが望ましい。					
その他： 4月13日の第1回目授業でテストを行うので、履修希望者は必ず出席すること。なお、テストの際には辞書の使用を認めない。					
更新日付：2017/04/10 13:01:42					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：外国書講読（英語経済）①		講義題目：英語で読むthe apparel sector and apparel workers in developing countries.	
授業科目区分：		講義コード：17171126	
開講学期等：前期	担当教員名：水野 敦子	単位数：2.0	対象 学年等：学部2，3，4年
履修条件： 第1回の授業に必ず出席すること。希望者が多数の場合は選抜試験を行う。選抜試験の際は電子辞書の使用を認めるので、第1回の授業から持参すること。	キーワード： 工業化、開発途上国、衣類産業、雇用、貧困削減	履修に必要な知識・能力： 特になし	
<p><b>授業の概要：</b>          本授業では、開発途上国の工業化に重要な役割を果たす繊維・衣類産業に関するテキストを輪読する。受講者は幾つかの班に分かれて輪読の担当箇所を決める。報告の際は、各班で作成したレジュメを受講者に配布するとともに、仮訳（一部）を担当教員に提出する。報告の際の議論を踏まえて仮訳に修正を加えたものをレポートとして提出する。</p> <p>In this class, we will learn about the global textile and apparel sector which is critically important as an early phase in industrialization for many developing countries and as a provider of employment opportunities to thousands of low-income workers, many of them women.</p>			
<p><b>到達目標：</b>          A：知識・理解：開発途上国における縫製業の成長を通じた工業化および貧困削減に関する知識を身につけることができる          B：専門的スキル：縫製品の貿易自由化がその生産国の産業と雇用に及ぼしたインパクトについて考察することを通して経済学の課題と可能性を把握することができる          C：汎用的スキル：英語で書かれた（経済学に關係する）基礎的文献を円滑に読むことができる          D：態度・志向性：縫製業の世界的動向と生産国への影響に関する学習を通して、世界経済や開発途上国に対する興味と関心をより強く持つことができる</p>			
<b>授業計画：</b>			
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他
ガイダンス、受講者選抜試験		○	
テキスト Overview			
テキスト Introduction		○	
報告分担当決定			テキストの予習
テキスト chap. 2			演習
テキスト chap. 3			演習
テキスト chap. 4			演習
テキスト chap. 5			演習
テキスト chap. 6			演習
テキスト Chap. 7			演習
中間まとめ			
テキスト Chap. 8			演習
テキスト Chap. 9			演習
テキスト Chap. 11			演習
テキスト Chap. 14			演習
テキスト Chap. 16			演習
予備日			
授業以外での学習にあたって：テキストの事前予習をしっかりと行っておくこと。			
<p>テキスト：Lopez-Acevedo, Gladys; Robertson, Raymond. 2012. Sewing Success? Employment, Wages, and Poverty following the End of the Multi-Fibre Arrangement. Washington, DC: World Bank.  <a href="https://openknowledge.worldbank.org/handle/10986/13137">https://openknowledge.worldbank.org/handle/10986/13137</a> よりダウンロード可。          必ず、入手の上、毎回持</p>			

**参考書：**指定しない。  
貿易自由化が開発途上国の輸出志向型工業化と貧困削減に及ぼす影響については、山田辰史（2010）『グローバル競争に打ち勝つ低所得国』IDE-JETROアジア経済研究所が参考になる。

**授業資料：**適宜配布する。

**成績評価：**

評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート	◎	◎	◎	○	25%
発表（プレゼン・スピーチ）	◎	◎	◎	○	25%
授業への貢献度	○	○	○	○	10%
作品					
出席				◎	40%
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					

**成績評価基準に関わる補足事項：**

**学習相談：**授業の前後で応じる。それ以外の場合は、事前にアポイントメントをとったうえで研究室に来室すること。

**その他：**第1回の授業（4月13日）で受講者が多数の場合は、受講希望者全員に対して選抜試験を行い、受講を認める。なお、選抜試験においては辞書の使用を認める。  
選抜においては、「少人数の学部専攻教育科目」として英語経済を開講する趣旨から、英語経済の単位を取得していない生徒を優先する。

**更新日付：**2017/04/12 18:52:47



	解	能	能	向性	
学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）	◎	◎	◎	○	50%
授業への貢献度	◎	◎	◎	○	30%
作品					
出席	○	○	○	◎	20%
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b> 規定の出席回数を満たしていることを条件として、平常点にて評価を行う。					
<b>学習相談：</b> 授業終了後に対応する（ただし、次の時限は経済・経営学演習なので、長時間の対応はできない）。それ以外の時間については、事前にメールでアポイントメントをとったうえで、研究室に来室すること。					
<b>その他：</b> 「少人数の学部専攻教育科目」として英語経済を開講するので、下記の内容で履修制限を設ける。 まず、以下の3つのいずれかに該当する場合は、本授業の履修を認めない。 ①2016年度後期までのGPAが、新2年生については3.2未満、新3年生については2.8未満、新4年生以上については2.5未満の者。 ②2016年度後期までに、担当教員の英語経済を受講した者。 ③英語経済の取得単位の総数が、2016年度後期までで6単位以上の者。 以上の制限のうち、①はこれまでの学習成果も重					
<b>更新日付：</b> 2017/03/28 15:50:35					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：外国書講読（仏語経済）①		講義題目：フランスのマネジメント・コントロールと管理会計を学ぶ	
授業科目区分：		講義コード：17171136	
開講学期等：前期	担当教員名：大下 丈平	単位数：2.0	対象 学年等：学部2，3，4年
履修条件： 基礎的な初級フランス語文法を習得していることが望ましい	キーワード： マネジメント・コントロール、管理会計、パラドックス、フランス、社会責任戦略コントロール、ダノン	履修に必要な知識・能力： 語学力、経済・経営・会計の入門的な知識、言語習得に対する忍耐力	
<b>授業の概要：</b> フランスのモケ教授の研究を通して、最新のフランスのマネジメント・コントロール論と管理会計論を学びます。受講生は、本書の講読によって、フランスのマネジメント・コントロール論のみならず、ビジネス・フランス語の基礎を学ぶことができるでしょう。また、受講生のレベルに応じて適切な文法書を購入してもらい、それを解説しながら、併せて講義を進めることも考えられます。 In this class, we will learn the theory of management control and management accounting through current works of Professor A.C. Moquet. Students, in reading of the book, will be able to learn the basics of French business language, as well as that of French control theory. In addition to that, we can purchase the proper grammar book depending on the level of the students, and in explaining it, we can continue our class.			
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：基本的なフランス語文法 B：専門的技能：最低限、経営・会計の基礎が必要 C：汎用的技能： D：態度・志向性：ともかく出席すること、そして徹底した予習をおこなうこと			
<b>授業計画：</b>			
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他
オリエンテーション			
以下、指定したテキストを、指定された担当者が報告する形で、輪読していきます。			
同上			
同上			
同上			
同上			
同上			
同上			
同上			
同上			
同上			
同上			
まとめ 総復習			
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 担当部分の徹底した予習が求められます。			
<b>テキスト：</b> 以下のテキストの関連個所のコピーを事前に配布しますので、受講を希望する人は必ず事前に大下の研究室まで取りに来てください。研究室は、経済の建物の5階にあります。部屋番号は511号です。よろしくお願いいたします。 Anne-Chatherine Moquet, Le Control societal, Vivert, 2010.			
<b>参考書：</b> 参考図書については、担当者が関わっている以下のものを掲げておきます。 ①大下丈平著『フランス管理会計論—工業会計・分析会計・管理会計—』同文館，1996年。 ②アンリ・ブッカン著『ブッカン フランス管理会計』（大下丈平・丸田起大訳）同文館，2000年。 ③大下丈平著『現代フランス管理会計：会計、コントロール、ガバナンス』中央経済社、2009年など。			

<b>授業資料：</b> 講読に必要な補助的な資料は、随時コピーして配布します。					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート	◎	◎	○	◎	
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度	◎	◎	◎	◎	
作品					
出席				◎	
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b> 成績評価にあたって、出席を重視します。それに加えて、できるだけとは別に、予習をどれだけ真面目にやっているかを重視します。					
<b>学習相談：</b> 随時、行います。事前にメールでアポイントを取ってください。					
<b>その他：</b> （C）「EUそのものについては扱わないが、EUを理解するために現代世界が直面している自然や社会に関する諸課題を扱う」科目です。 「本科目はEU研究ディプロマプログラム（EU-DPs）に開放されています。 <a href="http://eu.kyushu-u.ac.jp/educationjp.html">http://eu.kyushu-u.ac.jp/educationjp.html</a> 本科目では、EUそのものについては取り上げませんが、EUを理解するために、EUが置かれている現代世界的な課題について講義を行います。					
<b>更新日付：</b> 2017/03/31 13:16:26					





授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/04/04 17:44:25					



小テスト					
レポート	○				
発表（プレゼン・スピーチ）	◎				
授業への貢献度	◎				
作品					
出席	◎				
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b>					
学習相談：オフィスアワー等を利用すること。オフィスアワー時には、連絡の必要はない。それ以外は、メールでアポイントをとること。					
<b>その他：</b>					
更新日付：2017/04/04 17:01:58					



レポート	◎				
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席				○	
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：随時。事前にメールで連絡することが望ましい。 (メールアドレス：furukawa@econ.kyushu-u.ac.jp)					
その他：					
更新日付：2017/04/03 09:52:22					



小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/03/14 14:58:19					





学習相談：
その他：
更新日付：



作品					
出席					
その他（自由記述1）	その他（自由記述1）				
その他（自由記述2）	その他（自由記述2）				
その他（自由記述3）	その他（自由記述3）				
成績評価基準に関わる補足事項：レポート（20%）、期末試験（80%）					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/04/07 17:17:23					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：経済・経営学基本演習		講義題目：財務分析による株式投資			
授業科目区分：		講義コード：17172007			
開講学期等：後期	担当教員名：大坪 稔	単位数：2.0	対象 学年等：学部2年		
履修条件： 企業経営や株式市場に関心があること	キーワード： 財務分析、株価、株式市場、企業経営	履修に必要な知識・能力： エクセルやパワーポイントを使いますので、必要最低限の知識が必要となります			
<b>授業の概要：</b> 本講義は、売上高や利益、資産などの財務数値をもとに算出される様々な財務指標について学習すると同時に、これらを使った株式投資(財務指標と株価の関係)について学習する。学習の過程において、資料の調べ方、レジュメ(ハンドアウト)の作り方、パワーポイントを使った効果的なプレゼンテーションについても学習する。 Students will learn a variety of financial ratios constituted by accounting data such as sales, profit, and assets. In addition, they will learn the relationship between the ratios and the stock price. In the learning process, they will learn how to get data, make handouts, and have a good presentation.					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：株式市場や企業経営、財務数値に関する基礎的知識を習得し、それらの関係について理解すること B：専門的技術： C：汎用的技能：エクセルやパワーポイントの使い方、効果的なプレゼンテーションについて学習します。 D：態度・志向性：企業経営や株式投資により関心を持つようになること					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
受講者の決定					
受講者及び教員の自己紹介					
文献の調べ方、レポートの書き方の学習①		○		レポートの作成	
文献の調べ方、レポートの書き方の学習②					
テキストの報告①				グループごとに報告の準備	
テキストの報告②				グループごとに報告の準備	
テキストの報告③				グループごとに報告の準備	
テキストの報告④				グループごとに報告の準備	
テキストの報告⑤				グループごとに報告の準備	
テキストの報告⑥				グループごとに報告の準備	
財務分析および株式投資に関する講義①		○			
財務分析および株式投資に関する講義②		○			
財務分析および株式投資に関する講義③		○			
グループごとのプレゼンテーション①				グループごとにプレゼンテーションの準備	
グループごとのプレゼンテーション②				グループごとにプレゼンテーションの準備	
<b>授業以外での学習にあたって：</b>					
テキスト：未定ではあるが、企業経営か株式市場のいずれかに関連のあるテキストを使用する予定					
<b>参考書：</b>					
<b>授業資料：</b>					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識・理解	B： 専門的技術	C： 汎用的技能	D： 態度・志向性	備考(欠格条件・割合)
学期末試験					
小テスト					

レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：毎回、出席を確認しますので、必ず出席すること					
学習相談：講義の直後に対応します					
その他：					
更新日付：2017/03/24 15:07:36					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：数理統計学		講義題目：	
授業科目区分：		講義コード：17172008	
開講学期等：後期	担当教員名：大西 俊郎	単位数：2.0	対象 学年等：学部2年
履修条件： 線形代数・同演習AB，微分積分学・同演習ABを履修していること	キーワード： 確率変数，確率分布，推定，検定	履修に必要な知識・能力： 微分積分学と線形代数学の知識，特に重積分の変数変換の公式，直交行列の性質を理解していることが必要である。	
<b>授業の概要</b> ： 統計学はデータから効果的に情報を得る手法を科学する学問分野である。 この授業では，統計学の基礎概念および統計的手法の数理的な基礎を学ぶ。 具体的には，微分積分学・同演習ABおよび線形代数学・同演習ABで学んだことを応用して，次の項目をマスターする。 (1) 確率分布の確率密度関数の導出 ・多変量正規分布 ・カイ2乗分布 ・t分布 ・F分布 (2) Studentの定理の証明および応用 Statistical science discusses how to extract information from data efficiently. We learn basic concepts in statistics and mathematical foundation of statistical methods in this lecture. Specifically, as an application of calculus and linear algebra, the following items are learned. (1) Derivation of probability density functions of probability distributions * Multivariate normal distribution * Chi-square distribution * Student's t-distribution * F-distribution (2) Proof of Student's theorem and its application			
<b>到達目標</b> ： A：知識・理解：統計学の数理的基礎を理解する。代表的な統計的手法である推定・検定を理解する。			
<b>授業計画</b> ：			
進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
ガイダンス 教科書 1.1, 1.2, 1.3 確率の公理，確率の性質，離散分布，連続分布	○		
教科書 1.4, 1.5 条件付き確率，離散確率変数，連続確率変数	○		
教科書 2.1, 2.2 離散確率変数の平均，連続確率変数の平均，平均の性質，分散と共分散	○		
第3回のつづき	○		
教科書 3.1, 3.2 独立な離散確率変数，独立な連続確率変数，独立同一分布に従う確率変数，独立確率変数の積の平均，独立確率の和の分散，標本平均の平均と分散	○		
教科書 4.1 二項分布，二項分布の再生性，ポアソン分布の再生性，独立な連続確率変数の和の密度，正規分布の再生性	○		
中間試験その1 教科書 4.3, 7.1 ガンマ分布，正規分布とガンマ分布の関係，ベータ分布，ガンマ分布の再生性，ガンマ分布とベータ分布の関係，カイ2乗分布	○	最初に中間試験その1を30分間で行い，残りの時間に講義を行	

					う.	
第7回のつづき 教科書 8.1, 8.2 F-分布, F-分布の度, t-分布, t-分布の密度	○					
第8回のつづき 教科書 7.1 Student の定理	○					
第9回のつづき 教科書 6.2, 6.3 平均の区間推定と仮設検定 (分散既知の場合)	○					
中間試験その2 教科書 7.1, 8.1, 8.3 分散の区間推定と仮設検定, 分散の比の区間推定と仮設検定, 平均の区間推定と仮設検定 (分散未知の場合)	○				最初に中間試験その1を30分間で行い, 残りの時間に講義を行う.	
第12回のつづき 教科書 5.1, 5.2, 5.3 少数の法則, 大数の弱法則, 中心極限定理	○					
教科書 6.1 標本平均, 偏差平方和, 不偏分散, 偏差平方和の性質, 標本平均と不偏分散の性質, 点推定, 一致推定量と不偏推定量	○					
期末試験					試験時間は30分間.	
<b>授業以外での学習にあたって:</b> 毎回の授業で練習問題を数題出題するので授業の復習として解くこと						
<b>テキスト:</b> 吉田伸生「確率の基礎から統計へ」遊星社 2012年						
<b>参考書:</b> 高校の教科書も復習することが望ましい.						
<b>授業資料:</b>						
<b>成績評価:</b>						
評価方法・観点	A: 知識 ・理 解	B: 専門 的技 能	C: 汎用 的技 能	D: 態度 ・志 向性	備考 (欠格条件・割合)	
学期末試験	◎					
小テスト						
レポート						
発表 (プレゼン・スピーチ)						
授業への貢献度						
作品						
出席	○					
その他 (自由記述1) 中間試験その1	◎					
その他 (自由記述2) 中間試験その2	◎					
その他 (自由記述3)						
<b>成績評価基準に関わる補足事項:</b>						
<b>学習相談:</b> 授業後など随時受けつける						
<b>その他:</b>						
<b>更新日付:</b> 2017/05/30 18:30:03						



平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：情報経済		講義題目：情報経済			
授業科目区分：		講義コード：17172009			
開講学期等：後期	担当教員名：篠崎 彰彦	単位数：2.0	対象 学年等：学部3, 4年		
履修条件： 受講人数が多数の場合の受講制限では、卒業要件（必修科目）を勘案し、経済学部経済・経営学科（経済分析系・産業分析系）所属の学生を優先する。		キーワード： 情報経済、Information Economy、情報化社会、生産性論争		履修に必要な知識・能力： 基本科目レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学の知識。	
<b>授業の概要：</b> この科目では、情報技術革新の経済的影響について、ミクロ経済学、マクロ経済学、企業経済学を応用し、その実態を総合的に理解していくための基礎的な枠組みを解説する。 具体的には、情報経済（Information Economy）という概念が生まれてきた背景を「情報経済学」「情報化社会論」「生産性論争」の変遷を通して概説し、「産業構造論」や「産業組織論」とのかかわりをみていく。また、情報経済の基本概念を応用して現実の動向について考えていく。 This class provides an analytical framework of the information economy. For this purpose we review basic concept of information economics, historical arguments on information society, productivity paradox with the investment in information technology, and restructuring industrial organization as well as institutional reforms.					
<b>到達目標：</b> 情報経済学の基礎と応用：ノーベル経済学賞を受賞したアカロフやスティグラーの理論を学ぶ 情報化社会論の変遷と応用：情報化の観点から産業構造の高度化や経済発展を理解する 情報化と生産性問題の理解：生産性論争の起源と背景、議論の変遷と結末について理解する 情報化が企業と市場に及ぼす影響の理解：企業と市場の境界、制度としての市場の特性を情報技術革新の観点から理解する					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
ガイダンス：情報経済への道のり（1回）		○			
情報経済学の基礎（2～3回程度）		○			
情報化社会論の基礎（2～3回程度）		○			
生産性論争とニュー・エコノミー（2～3回程度）		○			
産業組織とネットワークの経済性（2～3回程度）		○			
技術革新と制度変化（1回）		○			
上記の項目について、各2～3回程度の講義を積み重ねていく。					
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 毎回の授業でノートをしっかりとること。また、日頃から新聞やニュースを通じて情報化と経済社会に関する時事問題に触れ、授業で学んだ内容の復習として、現実問題に応用し、考察する習慣が望まれる。					
<b>テキスト：</b> 『インフォメーション・エコノミー』NTT出版（2014年）。					
<b>参考書：</b>					
<b>授業資料：</b> 必要に応じて、適宜配布する。					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識	B： 専門	C： 汎用	D： 態度	備考（欠格条件・割合）

	・理解	的技 能	的技 能	・志 向性	
学期末試験	◎	◎	◎	◎	100%
小テスト	○	○	○	○	原則期末試験による評価であるが、 受講状況によって実施する場合がある
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b> ・学期末に期末試験を行う。持ち込みは一切不可とする。 ・受講者数と講義進捗状況により、不定期に中間試験を実施する場合がある。					
<b>学習相談：</b> 講義の前後（特に火曜日のお昼休み）に学習相談を受け付ける。					
<b>その他：</b> 講義中は、他の受講生に迷惑となる行為をしないこと（大学生としての良識に期待する）。					
<b>更新日付：</b> 2017/03/30 15:41:29					



その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：小テストは回数未定・不定期でおこなう。					
学習相談：maruta@econ.kyushu-u.ac.jpまでアポを取ること。 講義前後の休み時間にも対応する。					
その他：講義中に計算問題を解くので、自分で使いやすい電卓を毎回持参すること。 期末試験ではスマホの計算機は使用できない。					
更新日付：2017/04/01 10:25:30					



作品					
出席	◎				
その他（自由記述1）	その他（自由記述1）				
その他（自由記述2）	その他（自由記述2）				
その他（自由記述3）	その他（自由記述3）				
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：授業終了後に受け付ける。					
その他：					
更新日付：2017/03/31 15:16:48					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：経済・経営学基本演習		講義題目：地域経済論			
授業科目区分：		講義コード：17172012			
開講学期等：後期	担当教員名：與倉 豊	単位数：2.0	対象 学年等：学部2年		
履修条件： 履修人数は15人程度を想定しており、 初回授業時に選抜試験を行う。	キーワード： グローバル化，ローカル化，地域 経済	履修に必要な知識・能力：			
<b>授業の概要：</b> 地域経済に関連するテキストの輪読と議論を通じて、地域発展や地域経済振興をめぐる諸問題の原因や課題を考察できるようになることが本講義の目的となる。また、新聞記事やテレビなどから得られる経済ニュースと授業の内容とを関連づけながら、地域経済や地域社会にとってそれらがどのような意味をもつのか自ら考える力を身につけることを目標とする。 In this class, students will learn how to discuss and consider the issues facing current regional economy and regional society through reading textbook related to regional economics.					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：身の回りの経済学的現象に関する基礎的知識を獲得する。 B：専門的技能：地域経済に関する専門的知識をもとに、現在の地域経済の課題を自ら考察することができる。 C：汎用的技能：ディスカッションで自らの意見を述べるとともに、参加者からの質問にも的確に答える。 D：態度・志向性：地域経済の課題について関心を深める。					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
イントロダクション		○			
履修生による報告と、教員による解説.					
履修生による報告と、教員による解説.					
履修生による報告と、教員による解説.					
履修生による報告と、教員による解説.					
履修生による報告と、教員による解説.					
履修生による報告と、教員による解説.					
履修生による報告と、教員による解説.					
履修生による報告と、教員による解説.					
履修生による報告と、教員による解説.					
履修生による報告と、教員による解説.					
履修生による報告と、教員による解説.					
履修生による報告と、教員による解説.					
まとめ					
<b>授業以外での学習にあたって：</b>					
<b>テキスト：</b> 輪読テキストは初回で指示するが、以下のいずれかを用いる予定である。 (1) 岡田知弘・川瀬光義・鈴木誠・富樫幸一，2016年，『国際化時代の地域経済学 第4版』（有斐閣アルマ） . (2) 渡辺幸男・小川正博・黒瀬直宏・向山雅夫，2013年，『21世紀中小企業論』（有斐閣アルマ）. (3) 松原宏編，2014年，『地域経済論入門』，古今書院.					
<b>参考書：</b> 授業中に適宜指示する。					
<b>授業資料：</b>					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専 門 的 技 能	C： 汎 用 的 技 能	D： 態 度 ・ 志 向 性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート	◎				

発表（プレゼン・スピーチ	◎				
授業への貢献度	◎				
作品					
出席	◎				
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：随時受け付けるがアポイントメントをとることが望ましい。					
その他： 第1回目授業でテストを行うので、履修希望者は必ず出席すること。					
更新日付：2017/05/15 21:39:03					





学習相談：
その他：
更新日付：



授業への貢献度	○	○	○		
作品					
出席	○	○	○		
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談： 授業終了後に質問を受け付けます。					
その他：					
更新日付：2017/03/31 17:02:03					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：財政		講義題目：財政学	
授業科目区分：		講義コード：17172015	
開講学期等：後期	担当教員名：宮崎 毅	単位数：2.0	対象 学年等：学部3，4年
履修条件：	キーワード： 財政、ミクロ経済学、マクロ経済学、公共財、公共投資、社会保障、所得税、消費税	履修に必要な知識・能力： 基礎的なミクロ経済学とマクロ経済学の知識を前提とするが、授業の中でこれらの知識は適宜復習する。	
<b>授業の概要：</b> 消費税増税、社会保障制度の改革、財政赤字の拡大など、近年公的部門の活動を取り巻く環境が急激に変化している。本講義では、公共財の理論、日本の財政と財政政策、社会保障、税制など、財政に関するトピック全般を扱う。 制度と数字で財政の現状を説明した上で、財政の経済理論を解説する。授業中に、日本の累積赤字の問題や社会保障制度の改革、公共事業の削減、政権交代と財政支出など、財政学に関連するトピックも紹介し、財政学が身近であることを実感してもらうとともに財政への関心を高めてもらう。本講義では、財政の制度や日本の財政状況の知識を身につけた上で、財政の経済理論分析を理解することを目指す。 Institutional background surrounding the public sector, such as an increase in consumption tax, a reform of social security, and expansion of fiscal deficits, has rapidly changed. This lecture deals with a wide variety of topics on public finance including public goods theory, public finance and fiscal policy in Japan, social security, taxation, and so on. In classes, concrete public finance issues will be introduced to show students how public finance issues are related to their life and raise their interests on public finance. The objective of this lecture is that students acquire knowledge about public finance and fiscal system in Japan and understand theoretical analysis of public finance.			
<b>到達目標：</b> ・財政学の経済理論と日本の財政について、学部レベルの知識を身につける。 ・財政学を理解した上で、経済学のツールを用いて自分の頭で財政問題を議論できるようにする。 C：汎用的技能： D：態度・志向性：			
<b>授業計画：</b>			
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他
財政学とは：財政学の内容や考え方の紹介		○	
ミクロ経済学の復習：市場均衡と社会的厚生		○	
公共財の供給 (1)：外部性		○	
公共財の供給 (2)：公共財		○	
日本の財政 (1)：日本の財政の現状、予算制度		○	
財政赤字 (1)：日本の財政赤字		○	
財政赤字 (2)：公債の経済理論		○	
社会保障 (1)：日本の社会保障の現状、日本の年金制度		○	
社会保障 (2)：社会保障の経済理論 (賦課方式と積立方式、給付と労働供給)		○	
税制 (1)：日本の税制、課税の原則		○	
税制 (2)：租税の帰着 (従価税と従量税、価格弾力性の効果)		○	
税制 (3)：日本の所得税、所得税の経済理論 (労働所得税、最適課税)		○	
税制 (4)：日本の法人税、法人税の経済理論		○	
税制 (5)：日本の消費税、消費税の経済理論		○	
復習		○	
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 学期末試験と中間試験を行うほか、レポート課題を出題する。試験やレポートの範囲、期日などは講義の中でアナウンスする。			
<b>テキスト：</b> 教科書は用いないが、参照すべき文献を講義の中で示す。			

**参考書：**井堀利宏『基礎コース公共経済学』新生社。

林宜嗣『基礎コース 財政学』新生社。

『図説日本の財政』東洋経済新報社、各年版。

畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣。

**授業資料：**講義形式（穴あきのパワーポイントを使用）。各自でWeb学習システムから資料をダウンロードし、講義に持参する形式にする。

**成績評価：**

評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	◎				
小テスト	○				
レポート	○				
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					

**成績評価基準に関わる補足事項：**

**学習相談：**

**その他：**・私語、携帯電話の使用は一切禁止。

**更新日付：**2017/03/31 11:03:27

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：国際マーケティング		講義題目：現代マーケティングの理論と実践	
授業科目区分：		講義コード：17172016	
開講学期等：後期	担当教員名：岩下 仁	単位数：2.0	対象 学年等：学部3，4年
履修条件：	キーワード： マーケティング、製品開発、サービスマーケティング、グローバルマーケティング、ブランド・マネジメント	履修に必要な知識・能力：	
<b>授業の概要：</b> 授業内容は、マーケティングがどのようなものなのかを学ぶことにある。従って、マーケティングの理論がどのように展開されているか、身近な事例を取り上げながら、講義を進めていく。 その際には、製品戦略、サービス・マーケティング、ブランド戦略、そしてグローバル・マーケティングなど、本講義と隣接する科目との関係にふれる事でバランスのとれた内容とする予定である。 また、学生から一定の要望があった場合、マーケティングに携わるビジネス・パーソンをゲスト・スピーカーとして呼び出す。			
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：マーケティング論とその周辺科目（製品戦略、サービス・マーケティング、ブランド戦略、グローバル・マーケティング）について、身近な事例をとりあげながら、マーケティングの基本的な理論や枠組みを習得することを目標としている。 B：専門的スキル：同上 C：態度・志向性：自ら考える受講態度を望みます。			
<b>授業計画：</b>			
進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
イントロダクション、本講義の全体像と流れ	○		
マーケティングの基本的枠組み①（現代マーケティングとは何か、コンセプト、ニーズなど）	○		
マーケティングの基本的枠組み②（マーケティングのSTP、顧客満足とは何か）	○		
マーケティングの基本的枠組み③（5つ目のPとしてのパッケージ）	○		
製品戦略①（製品開発のプロセス、近年のアイデア思考法）	○		
製品戦略②（PLCと計画的陳腐化）	○		
マーケティングにおけるデザイン戦略	○		
サービス・マーケティング①（サービス・マーケティングの基本的な考え方）	○		
サービス・マーケティング②（サービス・マーケティングの新たな視点）	○		
ブランド論①（ブランドの基本的な考え方、ブランドの要素）	○		
ブランド論②（ブランド資産とは何か）	○		
ブランド論③（ブランドをどのように拡張するのか）	○		
グローバル・マーケティング①	○		
グローバル・マーケティング②	○		
ゲストスピーカー	○		
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 講義前に、web上にアップした資料に目を通しておくと、理解がより深まると思います。			
<b>テキスト：</b> 使用する教材については、講義前にweb上にアップします。			
<b>参考書：</b> 『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版			
<b>授業資料：</b> 使用する教材については、講義前にweb上にアップします。			

成績評価：					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	◎	◎	◎		
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度	○	○			
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：火曜日3限後に、僕の研究室にて、学習相談が可能です。					
その他：HPやアドレス等については、以下をご参照ください。 <a href="http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K005000/index.html">http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K005000/index.html</a>					
更新日付：2017/03/13 20:42:43					



平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：経営学Ⅱ		講義題目：企業経営の基礎			
授業科目区分：		講義コード：17172017			
開講学期等：後期	担当教員名：大坪 稔	単位数：2.0	対象 学年等：学部2年		
履修条件： 経営学Ⅰを同時に履修することが望ましい	キーワード： 企業形態、コーポレート・ガバナンス、企業組織、リストラクチャリング	履修に必要な知識・能力： 企業経営に関心があること 会計学に関して最低限の知識があること			
<b>授業の概要：</b> 本講義は、経営学に関する最も基礎的な知識や考え方の習得を主要な目的としている。現代の大企業が採用している株式会社のしくみやそのメリット・デメリットについて学習すると同時に、日本企業に特徴的であるといわれる(いわれた)様々な経営手法についても学習する。 Students will learn the most fundamental ideas and methodologies relating to corporate management in this course. For example, they will learn the structure of the stock company modern large firms adopt and the merits and demerits. In addition, they will learn management characteristics of Japanese firms such as lifetime employments and seniority promotion system.					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：・株式会社の仕組みについて体系的に理解すること ・現代社会における企業(活動)の意義について理解すること B：専門的技能：なし C：汎用的技能：日本の代表的な企業の経営について理解できるようになること D：態度・志向性：・現代企業に関心を持ち、情報の収集・分析ができるようになること					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
企業と私たちの関係		○		事前配布資料による予習	
企業の目的		○		事前配布資料による予習	
企業の法的形態		○		事前配布資料による予習	
株式会社における株主の役割		○		事前配布資料による予習	
経営者報酬とインセンティブ		○		事前配布資料による予習	
日本企業における株主・資金調達		○		事前配布資料による予習	
企業の組織構造		○		事前配布資料による予習	
下請けと中間組織		○		事前配布資料による予習	
企業結合形態(1)		○		事前配布資料による予習	
企業結合形態(2)		○		事前配布資料による予習	
バブルと企業経営		○		事前配布資料による予習	
M&Aの歴史		○		事前配布資料による予習	
M&Aの種類とその意義		○		事前配布資料による予習	
リストラクチャリング		○		事前配布資料による予習	
倒産の意義		○		事前配布資料による予習	
<b>授業以外での学習にあたって：</b> moodleより配布資料を入手し、講義内容について事前に一読しておくことが望ましい 講義終了後、講義で紹介した参考文献を読むことが望ましい 上記の授業計画には記載していないものの、外部講師による講義を1回程度予定している					
<b>テキスト：</b> なし					
<b>参考書：</b> 岩井克人・佐藤孝弘『M&A国富論』プレジデント社、2008年 高橋伸夫『コア・テキスト 経営学入門』新世社、2007年 岩井克人『会社はこれからどうなるのか』平凡社、2003年 吉村典久『日本の企業統治』NTT出版、2007年 東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学』有斐閣ブックス、2003年					
<b>授業資料：</b> moodleより事前に配布資料を入手しておくこと					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識	B： 専門	C： 汎用	D： 態度	備考 (欠格条件・割合)

	・理 解	的技 能	的技 能	・志 向性	
学期末試験	◎	◎	◎	◎	
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：講義終了後					
その他：					
更新日付：2017/03/24 15:16:37					



成績評価：					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
<p><b>学習相談：</b>随時，研究室（箱崎・経済601号室）にてオフィスアワーを開催する。 事前に，メールでアポイントメントを取ってほしい。 （メールアドレス：shuntaro@econ.kyushu-u.ac.jp）</p>					
<p><b>その他：</b>・2006～2009年度入学者用カリキュラムの基本科目「経済史」（4単位）取得のために，本講義を受講する学生については，「経済史I」と「経済史II」の両方の講義に出席の上，学期末に実施する定期試験を受験すること。「経済史I」「経済史II」の担当者が，それぞれ50点満点で採点した後，単位授与について合議して決める。</p> <p>・最初の授業で講義の進行方法について説明するので，履修希望者は必ず出席してほしい。本講義のシラバスおよび履修課題などのアナウンスは，全てWebやSNS（予定）を通じて行う。詳しくは，htt</p>					
更新日付：2017/04/04 14:17:57					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：国際経済学 I		講義題目：国際貿易論	
授業科目区分：		講義コード：17172019	
開講学期等：後期	担当教員名：石田 修	単位数：2.0	対象 学年等：学部2年
履修条件：	キーワード： 国際貿易理論、貿易政策、リカード・モデル、H-O-Sモデル、不完全競争モデル、企業の異質性、関税政策	履修に必要な知識・能力：	
<b>授業の概要：</b> ミクロ経済学の応用科目である国際貿易理論とマクロ経済学の応用科目である国際マクロ経済学を学習する。本講義は、国際経済関連の義の基礎を習得することができる。さらに、現代の世界経済を理解する手助けとする。			
<b>到達目標：</b> A：知識・理解： B：専門的スキル： C：汎用的スキル： D：態度・志向性：			
<b>授業計画：</b>			
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他
国際貿易論の課題		○	
ミクロ経済学と貿易理論			
リカード・モデル1		○	
比較生産費			
リカード・モデル2		○	
交易条件			
リカード・モデル3		○	
為替レート			
H-O-S・モデル1		○	
要素賦存			
H-O-S・モデル2		○	
HOSの諸定理			
不完全競争と国際貿易1		○	
マーシャルの外部経済			
不完全競争と国際貿易2		○	
独占			
不完全競争と国際貿易3		○	
寡占			
新貿易理論		○	
企業の異質性			
貿易政策1		○	
部分均衡モデル			
貿易政策2		○	
一般均衡モデル			
貿易政策3		○	
不完全競争モデル			
独占			
貿易政策4		○	
不完全競争モデル			
寡占			
まとめ		○	
<b>授業以外での学習にあたって：</b>			

テキスト：テキストを作成、印刷します。					
参考書：					
授業資料：					
成績評価：					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/05/17 14:42:21					



授業以外での学習にあたって：					
テキスト：上川 孝夫, 藤田 誠一編著(2012), 『現代国際金融論 第4版』有斐閣ブックス。					
参考書：講義の進行の中で順次紹介する。					
授業資料：パワーポイントのプリントアウト版を配布する。 必要に応じて関連資料も配布する。					
成績評価：					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	◎				
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：試験(100%)により評価する。					
学習相談：授業終了後受け付ける。 より時間を要する相談は、メールで事前にアポイントをとること。					
その他：					
更新日付：2017/04/08 22:41:13					





作品					
出席					
その他（自由記述1）	その他（自由記述1）				
その他（自由記述2）	その他（自由記述2）				
その他（自由記述3）	その他（自由記述3）				
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/03/14 14:59:14					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：情報処理Ⅱ		講義題目：情報処理Ⅱ			
授業科目区分：		講義コード：17172022			
開講学期等：後期	担当教員名：江藤 宏	単位数：2.0		対象 学年等：学部2年	
履修条件：		キーワード： プログラミング 経済データ処理		履修に必要な知識・能力： パソコンの基本的な操作を理解していることを前提として授業を進める。	
<p><b>授業の概要：</b>                  経済・経営分野でデータを処理するための基本的なプログラムの考え方や手法、およびプログラムの作成から実行に至るまでのコンピュータの操作を実習形式で学習する。様々な形式のデータを処理するためのプログラムの手法を学び、計算手順あるいは処理手順を考える能力を涵養する。また、プログラムの作成を通じてコンピュータの基本操作を習得する。                  This course learns thinking ways for programs, methods to process data in economics and management fields, and computer operations to write and execute programs by practical training. It includes programing methods to process various types of data so as to cultivate the ability of thinking calculation steps. In addition, it acquires basic operations of computers thorough programing.</p>					
<p><b>到達目標：</b>                  A：知識・理解：プログラムの考え方や手法を習得し、プログラムの作成と実行ができる。                  B：専門的技術：                  C：汎用的技術：                  D：態度・志向性：</p>					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
ガイダンス及びプログラムの作成から実行まで		○	演習	授業に合わせて授業時間外に実習を進めること	
プログラムの基礎 変数と型、入出力、様々な計算式		○	演習		
課題1：実行順序の制御。		○	演習		
課題2：繰り返し		○	演習		
課題3：配列を用いたデータ処理		○	演習		
<b>授業以外での学習にあたって：</b>					
<b>テキスト：</b>					
<b>参考書：</b>					
<b>授業資料：</b>					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専 門 的 技 能	C： 汎 用 的 技 能	D： 態 度 ・ 志 向 性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					

レポート	◎	◎			
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席				○	
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：単位修得のためには3分の2の出席が必要					
学習相談：随時。事前にメールで連絡することが望ましい。 (メールアドレス：h-eto@econ.kyushu-u.ac.jp)					
その他：					
更新日付：2017/03/31 15:58:39					



その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：15回目に行われる定期試験で、成績評価を行います。					
学習相談：講義の内容については、各回の講義終了直後に講師に伺うこと それ以外の相談は、大坪研究室(otsubo@econ.kyushu-u.ac.jp)へ連絡してください。					
その他： 毎回、最前線の現場で活躍する講師の話を知る貴重な機会なので、欠かさず出席すること					
更新日付：2017/03/24 15:14:46					



学習相談：
その他：
更新日付：





学習相談：
その他：
更新日付：



学習相談：
その他：
更新日付：

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：政治経済学 I		講義題目：資本主義・国家・環境			
授業科目区分：		講義コード：17172027			
開講学期等：後期	担当教員名：八木 信一	単位数：2.0		対象 学年等：学部2年	
履修条件： 「経済学入門」、「ミクロ経済学」、および「マクロ経済学」について履修済か、本授業と並行して履修していることを求める。		キーワード： 資本主義、制度、動態、多様性、国家、公共政策、環境		履修に必要な知識・能力： 履修条件で掲げた経済学の基本的な知識をもとに、現代資本主義にかかわる様々な問題に対して、本授業を通して「理論と実際の往復運動」ができる能力が備わっていること（もしくは備えるよう努力していること）。	
<b>授業の概要</b> ： 本授業では、経済学の多様性に関する理解を踏まえたうえで、現代資本主義の動態、国家と公共政策、および環境について講義する。 In this class, we would treat the theme of dynamics of modern capitalism, state and public policy, and environment based on understanding of diversity of economics.					
<b>到達目標</b> ： A：知識・理解：経済学の多様性とそれに基づいた資本主義に関わる制度について理解ができる。 B：技能：上記の内容に関連した文献を自ら把握し、および理解することができる。 C：態度：授業で取り上げた内容を踏まえて、現代の社会経済問題と関わらせた関心を示すことができる。					
<b>授業計画</b> ：					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
政治経済学の見取り図		○		授業資料の予習・復習	
資本主義のかたちとしてのフォーディズム		○		授業資料の予習・復習	
資本主義の多様性		○		授業資料の予習・復習	
日本型資本主義		○		授業資料の予習・復習	
これからの資本主義		○		授業資料の予習・復習	
国家と財政		○		授業資料の予習・復習	
比較福祉国家論		○		授業資料の予習・復習	
ポスト福祉国家論		○		授業資料の予習・復習	
マクロ経済政策の政治性		○		授業資料の予習・復習	
公害の政治経済学		○		授業資料の予習・復習	
社会的費用と制度		○		授業資料の予習・復習	
グッズとバズの経済学		○		授業資料の予習・復習	
エコロジーとコモンズの経済学		○		授業資料の予習・復習	
サステナビリティの経済学		○		授業資料の予習・復習	
予備日					
<b>授業以外での学習にあたって</b> ：とくに経済・経営学科の受講生は必修科目の1つなので、授業の予習・復習をしっかり行うこと。					
<b>テキスト</b> ：水野教員（金曜1限）の政治経済学Ⅱとの共通テキストとして、以下のものを指定する。 若森章孝ほか（2007）『入門・政治経済学』ミネルヴァ書房。 本授業では、上記のテキストの一部を参考にした内容構成であり、また期末試験は持ち込み不可で行うので、テキストの購入は任意とする。					
<b>参考書</b> ：八木紀一郎ほか（2003）『図解雑学 資本主義のしくみ』ナツメ社。 新川敏光ほか（2004）『比較政治経済学』有斐閣。					
<b>授業資料</b> ：毎回の授業資料はMoodleを通して配信する。授業中には配付しないので、各自で配信されたものを事前に確認のうえで持参すること。（なお、持参形式は問わないが、板書も行うことがあるので、書き込めるかたちで持参することが望ましい。）					
<b>成績評価</b> ：					
評価方法・観点	A：	B：	C：	D：	備考（欠格条件・割合）

	知識 ・理 解	専門 的技 能	汎用 的技 能	態度 ・志 向性	
学期末試験	◎	◎	◎		
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
<p><b>成績評価基準に関する補足事項：</b>成績評価は、2016年度入学者とそれ以前の入学者とは異なるので、注意すること。</p> <p>（2016年度入学者） 政治経済学Ⅰと政治経済学Ⅱは、それぞれで成績を評価する。なお、2つとも履修しなければ必修科目としては認定されないので、注意すること。</p> <p>（2015年度以前入学者） 昨年度までの政治経済学と同様に、政治経済学Ⅰと政治経済学Ⅱの成績を合算して評価する。</p> <p><b>学習相談：</b>授業終了後に適宜対応する。またこれ以外の時間については、事前にメールでアポイントメントをとったうえで、研究室に来室すること。</p> <p><b>その他：</b>授業資料の掲載連絡や毎回の開講連絡をTwitter (@yatsukiclasqdai) で行っている。なお、フォローは自由であるがそれが成績評価に影響することはない。また、学生へのリフォローは行っていないことを、予め伝えておく。</p> <p><b>更新日付：</b>2017/03/23 12:39:29</p>					



②学期末試験60%

※授業への貢献度および授業態度（授業への関わり方や発言内容）により、上記割合によって算定された点数に加減する場合がある。

学習相談：メールで連絡のうえ、来室。

shiosaki@econ.kyushu-u.ac.jp

研究室503号室

その他：

更新日付：2017/04/10 03:54:39



平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：会計学Ⅱ		講義題目：財務会計の基礎	
授業科目区分：		講義コード：17172029	
開講学期等：後期	担当教員名：大石 桂一	単位数：2.0	対象 学年等：学部2年
履修条件：	キーワード： 財務諸表、財務会計、会計基準	履修に必要な知識・能力： 簿記の基礎知識が必要である。	

**授業の概要：**  
 会計は「ビジネスの言語」と呼ばれることから分かるように、企業活動を洞察する上で汎用性の高いツールである。ビジネスの世界に生きる人間にとって、財務諸表を通じて提供される会計情報を使いこなす能力は不可欠であると言える。そこで本講義では、基本となる財務諸表を作成するためのルールとその基礎にある理論を学び、会計情報の利用の仕方について学習する。  
 Accounting is called the "language of business". This fact means that accounting is a highly useful tool to gain insight into the business activities. For the business person, the ability to use the accounting information provided through the financial statements is essential. In this lecture, students will learn the accounting rules and theory as the basis for preparing financial statements, and how to use accounting information.

**到達目標：**  
 A：知識・理解：財務会計の用語、理論、制度を理解し、説明できるようになる。  
 B：専門的技能：仕訳や会計処理を理解できるようになる。  
 C：汎用的技能：財務諸表の情報を利用できるようになる。  
 D：態度・志向性：現代の会計問題に関心を深める。

**授業計画：**

進度・内容・行動目標	講義	演習・その他	授業時間外学習
イントロダクション	○		
財務会計の基礎	○		
財務諸表の仕組み	○		
財務諸表の体系	○		
利益計算の意味	○		
収益と費用の会計	○		
棚卸資産の会計	○		
固定資産の会計	○		
金融資産の会計	○		
負債の会計	○		
純資産の会計	○		
企業結合と連結の会計	○		
財務諸表の分析	○		
利益構造の分析	○		
まとめ	○		

**授業以外での学習にあたって：**

テキスト：田中建二『財務会計入門（第4版）』中央経済社、2015年。

参考書：適宜指示する。

授業資料：授業の資料はEラーニングシステムMoodleから入手すること。

**成績評価：**

評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専 門 的 技 能	C： 汎 用 的 技 能	D： 態 度 ・ 志 向 性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	◎	◎	○	○	80%
小テスト					
レポート	◎	◎	○	○	20%
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					

作品					
出席					
その他（自由記述1）	その他（自由記述1）				
その他（自由記述2）	その他（自由記述2）				
その他（自由記述3）	その他（自由記述3）				
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：随時相談に応じる。メールにてアポイントを取ること。					
その他：					
更新日付：2017/03/30 12:52:43					



その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：中間試験30%、定期試験70%					
学習相談：講義中の質問は随時受け付ける。講義についていけないと感じたときはできるだけ早く相談すること。					
その他：					
更新日付：2017/03/14 11:33:11					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：ミクロ経済学		講義題目：初・中級ミクロ経済学			
授業科目区分：		講義コード：17172031			
開講学期等：後期	担当教員名：佐藤 茂春	単位数：4.0	対象 学年等：学部2年		
履修条件：	キーワード： 消費者行動，企業行動，市場均衡，ゲーム理論，不完全競争，情報の非対称性	履修に必要な知識・能力： 高等学校数学IIBまでの知識（とくに微積分，確率）			
<b>授業の概要：</b> 初級～中級レベルのミクロ経済学を解説する。一部，インタラクティブなプログラムを取り入れ，受講者の理解を深める。公務員試験などに対応するため，受講者には数学的な分析力が必要とされるが，簡単な解説は講義中に行う。					
<b>到達目標：</b> 知識・理解： 専門的技能： 汎用的技能： 態度・指向性：					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
ミクロ経済学とは		○			
消費者行動1		○			
消費者行動2		○			
企業行動1		○			
企業行動2		○			
部分均衡		○			
一般均衡		○			
前半の確認		○			
独占市場		○			
ゲーム理論		○			
寡占市場		○			
不確実性の経済学		○			
情報とゲーム		○			
情報の非対称性と契約理論		○			
行動経済学・まとめ		○			
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 教科書の該当範囲を予習しておくこと 講義後、練習問題等を解いて、わからない点を明確にしておくこと わからない点は調べたり、授業の際に質問するなどして次回の講義までに解消しておくこと					
<b>テキスト：</b> 奥野正寛(2008)『ミクロ経済学』，東京大学出版会					
<b>参考書：</b> 小川光・家森信善(2016)『ミクロ経済学の基礎』，中央経済社 神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』，日本評論社 その他の文献は講義中に適宜、紹介します					
<b>授業資料：</b> オンラインで配付する予定です					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識・理解	B： 専門的技能	C： 汎用的技能	D： 態度・志向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	◎	◎	◎	○	50%
小テスト	◎	○	○	○	40%
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					

授業への貢献度	○			◎	10%
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：講義に関する最新情報はweb(Moodle)などで告知します。相談や質問は授業の前後とwebで受け付けます。閲覧方法などは初回の講義で説明します。					
その他：					
更新日付：2017/04/05 19:00:42					



	・理解	的技 能	的技 能	・志 向性	
学期末試験	◎	◎	◎		
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関する補足事項：</b> 成績評価は、2016年度入学者とそれ以前の入学者とは異なるので、注意すること。 （2016年度入学者） 政治経済学Ⅰと政治経済学Ⅱは、それぞれで成績を評価する。なお、2つとも履修しなければ必修科目としては認定されないの、注意すること。 （2015年度以前入学者） 昨年度までの政治経済学と同様に、政治経済学Ⅰと政治経済学Ⅱの成績を合算して評価する。					
<b>学習相談：</b> リアクションペーパーで質問、相談を受け付ける。また、授業終了後に適宜対応する。					
<b>その他：</b>					
<b>更新日付：</b> 2017/03/31 19:39:12					



平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：国際経済学Ⅱ		講義題目：国際マクロ経済学			
授業科目区分：		講義コード：17172033			
開講学期等：後期	担当教員名：石田 修	単位数：2.0	対象 学年等：学部2年		
履修条件：	キーワード：	履修に必要な知識・能力：			
		国際マクロ経済学、国際収支、為替市場、為替レート、国際経済政策、			
<b>授業の概要：</b> マクロ経済学の応用科目である国際マクロ経済学を学習する。パワーポイントを用いて講義する。毎回復習をすること。					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解： B：専門的スキル： C：汎用的スキル： D：態度・志向性：					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
国際マクロの課題					
為替レートの決定国1					
為替レートの決定国2					
為替レートの決定国3					
為替レートの決定国4					
為替レートの決定国5					
国際収支の決定1					
国際収支の決定2					
国際収支の決定3					
国際収支の決定4					
国民所得と国際収支1					
国民所得と国際収支2					
国民所得と国際収支3					
国民所得と国際収支4					
まとめ					
<b>授業以外での学習にあたって：</b>					
<b>テキスト：</b>					
<b>参考書：</b>					
<b>授業資料：</b>					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識・理解	B： 専門的スキル	C： 汎用的スキル	D： 態度・志向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1）					

その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/05/17 14:46:56					



学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：授業終了後に受け付ける。					
その他：					
更新日付：2017/03/31 15:49:33					



	・理解	的技 能	的技 能	・志 向性	
学期末試験学期末試験					
小テスト小テスト					
レポートレポート					
発表（プレゼン・スピーチ発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度授業への貢献度					
作品作品					
出席出席					
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/04/21 12:53:54					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：上級ミクロ経済学		講義題目：初級から中級のゲーム理論			
授業科目区分：		講義コード：17172036			
開講学期等：後期	担当教員名：藤田 敏之	単位数：2.0	対象 学年等：学部3, 4年		
履修条件： 学部1, 2年で学ぶ数学の知識を有することが望ましい。	キーワード：	履修に必要な知識・能力：			
<b>授業の概要：</b> ゲーム理論は人間の合理的意思決定を分析するツールとして極めて有用であり，経済学部の学生にとってこれを習得することは必須であると思われる．本稿では，ゲーム理論の初級から中級レベルまでの一連の内容をすべて紹介する． Game theory is a very useful tool to analyze rational behaviors by humans, and it is quite desirable for the students in undergraduate school of Economics to learn and understand it. In this lecture, we introduce most contents of game theory in basic and intermediate levels.					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
ガイダンス, ゲームとは何か		○			
戦略形ゲーム (1)		○			
戦略形ゲーム (2)		○			
戦略形ゲーム (3)		○			
展開形ゲーム (1)		○			
展開形ゲーム (2)		○			
展開形ゲーム (3)		○			
情報不完備ゲーム (1)		○			
情報不完備ゲーム (2)		○			
情報不完備ゲーム (3)		○			
繰り返しゲーム (1)		○			
繰り返しゲーム (2)		○			
進化ゲーム		○			
まとめ		○			
試験					
<b>授業以外での学習にあたって：</b>					
テキスト：指定しない．教員の作成したスライドにしたがって講義を進める．					
参考書：講義の中で指示する．					
授業資料：以下のURLにアップロードする． <a href="http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~tfujita/kougi.html">http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~tfujita/kougi.html</a>					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	◎				
小テスト					
レポート	○				
発表（プレゼン・スピーチ					
授業への貢献度					
作品					

出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：メールにて随時受け付ける。					
その他：					
更新日付：2017/03/14 12:57:11					



平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：経済史Ⅱ		講義題目：グローバルズムと欧米経済	
授業科目区分：		講義コード：17172037	
開講学期等：後期	担当教員名：藤井 美男	単位数：2.0	対象 学年等：学部2年
履修条件： きちんと出席し、授業に取り組む姿勢を必要とする。	キーワード： 資本主義、世界システム、パクス・ブリタニカ、パクス・アメリカーナ	履修に必要な知識・能力： 世界史の基礎知識を持つことが望ましい。	
<b>授業の概要</b> ： 授業の概要：経済史Ⅱは、資本主義システムによる経済社会の空間的な膨張と構造的変化を探求することを基本テーマとする。欧米側の視点から、資本主義世界システムの展開と構造を明らかにし、その歴史的意義を考察していく。 The main theme of this lecture is to elucidate the historical mechanism of the expansion of capitalism and the structural change of the economic society. By following the lecture, students will be able to understand the historical process of capitalism and its nature as a world system.			
<b>到達目標</b> ： A：知識・理解：経済史の基本的な流れを理解することができる。 B：専門的スキル： C：汎用的スキル：経済史の史実を的確に把握し、自らの見解を述べるすることができる。 D：態度・志向性：経済の史的現象について考察し、現代の問題関心へ接続できる。			
<b>授業計画</b> ：			
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他
第1回 授業の概要説明 1.1 「経済史の対象と課題」		○	
第2回 1.2 「経済史の方法（理論と実証：様々な歴史観）」		○	
第3回～第7回 2.1 「西欧経済とその膨張：中世から近世へ」 2.2 「長期の16世紀：世界システム論へ」		○	
第3回～第7回 2.1 「西欧経済とその膨張：中世から近世へ」 2.2 「長期の16世紀：世界システム論へ」		○	
第3回～第7回 2.1 「西欧経済とその膨張：中世から近世へ」 2.2 「長期の16世紀：世界システム論へ」		○	
第3回～第7回 2.1 「西欧経済とその膨張：中世から近世へ」 2.2 「長期の16世紀：世界システム論へ」		○	
第3回～第7回 2.1 「西欧経済とその膨張：中世から近世へ」 2.2 「長期の16世紀：世界システム論へ」		○	
中間試験（予定）		○	
第9回～第15回 2.3 「市民革命と産業革命」 3.1 「パクス・ブリタニカ」 3.2 「パクス・アメリカーナ」		○	
第9回～第15回 2.3 「市民革命と産業革命」 3.1 「パクス・ブリタニカ」 3.2 「パクス・アメリカーナ」		○	
第9回～第15回 2.3 「市民革命と産業革命」 3.1 「パクス・ブリタニカ」 3.2 「パクス・アメリカーナ」		○	
第9回～第15回 2.3 「市民革命と産業革命」 3.1 「パクス・ブリタニカ」 3.2 「パクス・アメリカーナ」		○	

第9回～第15回 2.3 「市民革命と産業革命」 3.1 「パクス・ブリタニカ」 3.2 「パクス・アメリカーナ」	○				
第9回～第15回 2.3 「市民革命と産業革命」 3.1 「パクス・ブリタニカ」 3.2 「パクス・アメリカーナ」	○				
第9回～第15回 2.3 「市民革命と産業革命」 3.1 「パクス・ブリタニカ」 3.2 「パクス・アメリカーナ」	○				
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 特定のテキストは定めず、パワーポイントによるノート講義とするため、一定の予習と復習を必要とする。					
<b>テキスト：</b> パワーポイント配布資料による。					
<b>参考書：</b> 授業中適宜指示する。					
<b>授業資料：</b> 事前にパワーポイント資料を配信する。ダウンロード先のURLは以下の通り。 <a href="http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~fujii/Office_F(main).htm">http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~fujii/Office_F(main).htm</a>					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	◎		◎	◎	
小テスト	○		○	○	
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席	○		○	○	
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b> 中間ミニテストと定期試験の結果を総合して、成績評価を行う。					
<b>学習相談：</b> オフィスアワーは随時としている。メールにて予約のこと。メールアドレスは以下の通り。 <a href="mailto:fujii@econ.kyushu-u.ac.jp">fujii@econ.kyushu-u.ac.jp</a>					
<b>その他：</b> 本科目はEU研究ディプロマプログラム（EU-DPs）に開放されています。 <a href="http://eu.kyushu-u.ac.jp/indexjp.html">http://eu.kyushu-u.ac.jp/indexjp.html</a> 本科目では、歴史・思想・文化など、EUに関連する内容の講義を行います。 【EU-DPs 科目分類】（B）歴史・思想・文化など、EUに関連するものを扱う。					
<b>更新日付：</b> 2017/04/19 10:34:57					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：上級マクロ経済学		講義題目：動学的マクロ経済学入門			
授業科目区分：		講義コード：17172038			
開講学期等：後期	担当教員名：池下 研一郎	単位数：2.0	対象 学年等：学部3，4年		
履修条件： 特になし。	キーワード： 消費と貯蓄，設備投資，資産市場，労働市場，ソロー・モデル，最適成長モデル，世代重複モデル，財政政策，金融政策，景気循環	履修に必要な知識・能力： 入門的マクロ経済学およびミクロ経済学に関する知識があることが望ましいです。			
<b>授業の概要：</b> 現代のマクロ経済学は，時間を通じた資源配分問題として理解されることが多いです。今までのマクロ経済学の学習を踏まえてより上級の話題について解説します。具体的には2期間モデルを用いた消費・投資行動の分析からスタートし，標準的な経済成長モデルや世代重複モデル，景気循環モデルについて学んでいきます。また動学的な視点から財政政策・金融政策に関する諸問題についても考察していきます。 In this course, we study advanced topics of macroeconomics from the viewpoint of dynamic resource allocation. In particular, we study consumption and investment behavior, standard growth model, and business cycle. Moreover we consider fiscal and monetary policies using dynamic economic models.					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：動学的なマクロ経済モデルの構造について十分理解し，それを説明できる。 B：専門的技能：動学的なマクロ経済モデルの学習を通じて日本経済や世界経済の抱える問題を理解し，分析することができる。 C：汎用的技能：自らの学習・研究内容について課題等を通じて効果的に表現・説明できる。 D：態度・志向性：					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
ガイダンス		○			
消費と貯蓄		○		テキスト等の予習・復習	
企業の設備投資行動		○		テキスト等の予習・復習	
資産市場とバブル		○		テキスト等の予習・復習	
労働市場の分析		○		テキスト等の予習・復習	
ソロー・モデルの基礎		○		テキスト等の予習・復習	
ソロー・モデルのインプリケーション		○		テキスト等の予習・復習	
中間試験					
最適成長モデルの基礎		○		テキスト等の予習・復習	
最適成長モデルのインプリケーション		○		テキスト等の予習・復習	
ローマー・モデル		○		テキスト等の予習・復習	
世代重複モデル		○		テキスト等の予習・復習	
財政政策		○		テキスト等の予習・復習	
金融政策		○		テキスト等の予習・復習	
景気循環		○		テキスト等の予習・復習	
定期試験					
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 本講義では少し高度な内容を取り扱うため，授業以外にも，課題などを通じて十分な学習をすることが求められます。					
<b>テキスト：</b> 二神孝一 著，『動学マクロ経済学—成長理論の発展』，2012年，日本評論社。					
<b>参考書：</b> 斉藤誠・岩本康志・太田聡一・柴田章久 著 『入門マクロ経済学』，有斐閣，2010年。 竹田陽介・小巻泰之 著『マクロ経済学をつかむ』（第3版），有斐閣，2006年。 Jones, C. I., Macroeconomics, 3rd edition, W.W. Norton, 2014.					
<b>授業資料：</b> その他資料については随時配布します。					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）

学期末試験	◎	○	○		40%
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席	○	○	○		20%
その他（自由記述1） 課題	◎	○	○		20%
その他（自由記述2） 中間試験	◎	○	○		20%
その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b>					
学習相談：オフィスアワーは毎週水曜日の10：00～12：30とします。それ以外の時間帯においても余裕があれば対応いたします（事前にメールにてご連絡いただければ対応しやすいです）。					
<b>その他：</b>					
更新日付：2017/04/04 13:40:24					



小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席					
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：出席と報告を含めた平素の成績（90%）、レポート（10%）。					
学習相談：オフィスアワー：随時。事前にメールで連絡して下さい。shimizu@econ.kyushu-u.ac.jp					
その他：					
更新日付：2017/04/04 18:09:49					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：経済学史		講義題目：経済学の史的多様性と現代	
授業科目区分：		講義コード：17172040	
開講学期等：後期	担当教員名：岩下 伸朗	単位数：2.0	対象 学年等：学部3，4年
履修条件： 講義15回中、最低でも10回の出席を求める。	キーワード： 時代背景、市場と主体、再生産と資源配分、均衡と発展、進化論	履修に必要な知識・能力： 初歩的なマイクロ・マクロ理論および経済史（ルネサンス期以降の主として欧米史）の基本的知識。現代的な問題と経済学との関係を思考してみたいという意欲。ものごとを多面的にとらえようする姿勢。	
<b>授業の概要：</b> 近代資本主義社会の形成以降、経済学がどのような歴史的背景のもと、さまざまに発展してきたか、とくにイギリスでの展開を中軸に解説していく。これを「市場経済形成の思想」、「古典派経済学」、「限界革命」、「20世紀以降の経済学」というまとまりの中で整理しつつ論じていく。経済学の歴史の中に現代経済社会での諸問題ならびにそれへの多面的アプローチの存在を確認していく。 The main aim of this lecture is to elucidate the features of economics as in relation with each historical background and context. We particularly focus on ,with some exceptions, the stream of economics in Britain. We will study outline of political economy, Marginal Revolution , Keynes Revolution. and so on.			
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：①偉大な経済学者たちの基本的理論展開の概要を知る。 ②歴史的な経済社会事象と経済学展開の相互依存関係を理解する。 ③経済理論のさまざまな立場の違いと関連の概要を学ぶ。 B：専門的技術： C：汎用的技術：歴史（帰納）と理論（演繹）との関連を考えつつ総合的に思考していくことができる。 D：態度・志向性：歴史的な問題から現代への教訓を読み取る力をつけ、自分なりの判断を下すことができるようになる。			
<b>授業計画：</b>			
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他
1 授業のガイド 経済学史の方法とその類型 学展開の時代背景概要		○	
2 重商主義と重農主義 外国貿易の展開と再生産過程の認識 形成期		○	配布プリントの復習と事前確認
3 アダム・スミスの市民社会認識 『道徳感情論』と『国富論』 市場経済の形成と国家		○	配布プリントの復習と事前確認
4 アダム・スミス『国富論』の世界 メカニズムと資本蓄積 前夜		○	配布プリントの復習と事前確認
5 リカードウとマルサス 『人口論』の世界と古典派経済学 の展開		○	配布プリントの復習と事前確認
6 リカードウの資本蓄積論 古典派経済学の完成と自由貿易論 の法則性		○	配布プリントの復習と事前確認
7 J. S. ミルの経済学 経済的進歩と人間的進歩 主義社会の爛熟期		○	配布プリントの復習と事前確認
8 マルクスの経済学批判 唯物史観と『資本論』の世界 主義の思想		○	配布プリントの復習と事前確認
9 限界革命（ジェボンズ・メンガー・ワルラス） 経済学の源流とその多様性 費社会への展開		○	配布プリントの復習と事前確認
10 マーシャルの生物経済学		○	配布プリントの復習と事前確認

論と有機的成長の衝撃	進化論				認
11 マーシャルからピグーへ 厚生経済学 資本主義の独占化の展開		○			配布プリントの復習と事前確認
12 現代新古典派とケインズ革命 主流派経済学と反主流派の経済学		○			配布プリントの復習と事前確認
13 ケインズの『一般理論』の世界 貨幣的経済学 of 思想		○			配布プリントの復習と事前確認
14 現代経済学への展開① 現代ミクロ・マクロと経済学の歴史		○			配布プリントの復習と事前確認
15 現代経済学への展開② 総括		○			配布プリントの復習と事前確認
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 現在の経済社会で現実生じている事象に常に関心を持ち、新聞やテレビニュースを視聴してもらいたい。それにより、現実の歴史的現象と経済学の諸理論やその背後にある思想を自ら疑問をもって考えてみてもらいたい。					
<b>テキスト：</b> 毎回 j 講義に関連するプリントを配布する。それをテキスト代わりとするので、各自で適宜ファイリングし、毎回の講義時に持参すること。、パワーポイントによるノート講義とするため、一定の予習と復習を必要とする。					
<b>参考書：</b> 授業配布プリントにて、適宜提示する。以下一般的概説書を示しておく。 中村・高編著『市場と反市場の経済思想』ミネルヴァ。中村編著『市場経済の思想像』増補版、九州大学出版会。 馬渡尚憲『経済学史』有斐閣					
<b>授業資料：</b> 配布プリントを毎回配布、授業展開はパワーポイントによるが、パワポファイルの公開は状況を見て判断する。					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識・理解	B： 専門的技術	C： 汎用的技術	D： 態度・志向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	◎				
小テスト	○				
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）					
授業への貢献度					
作品					
出席	○				
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b>					
<b>学習相談：</b> 事前連絡でアポをとってもらうことで、学習内容の相談その他には講義時間の前後に適宜柔軟に対応する。					
<b>その他：</b> 本講義と関連する学会は以下の通り。 適宜参照されたい。 「経済学史学会」 <a href="http://jshet.net/">http://jshet.net/</a> 「進化経済学会」 <a href="http://www.jafee.org/diary.cgi">http://www.jafee.org/diary.cgi</a>					
<b>更新日付：</b> 2017/03/31 18:39:49					





発表（プレゼン・スピーチ	◎	○	◎		
授業への貢献度	○	○	○		
作品					
出席	○	○	◎		
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：					
その他：					
更新日付：2017/04/20 16:46:55					



<p><b>成績評価基準に関わる補足事項：</b>受講者の予習を前提とし、講義中の挙手・指名により、音読・和訳・練習問題の解答などをしてもらおう。 設備次第では、会計英語のリスニングやディクテーションを実施する。 不定期・回数未定で小テストを実施する。</p>
<p><b>学習相談：</b>下記のメールでアポをとること。 問い合わせ先：maruta@econ.kyushu-u.ac.jp</p>
<p><b>その他：</b></p>
<p><b>更新日付：</b>2017/04/01 10:49:20</p>

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：外国書講読（英語経済）①		講義題目：OECD諸国の教育政策			
授業科目区分：		講義コード：17172111			
開講学期等：後期	担当教員名：浦川 邦夫	単位数：2.0	対象 学年等：学部2，3，4年		
履修条件： 教育政策に関心があること。		キーワード： PISA、Higher Education	履修に必要な知識・能力：		
<b>授業の概要：</b> OECD (2016) Education at a Glance, OECD (2015) Ensuring Quality in Cross-Border Higher Education OECD (2014) Pisa 2012 Results, Students and Money: Financial Literacy Skills for the 21st Century などの書籍をもとに、OECD諸国の教育政策、教育環境の特徴について学ぶ。					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：OECD諸国の教育政策の特徴について学ぶ B：専門的スキル：教育政策の評価手法に関する専門的知識を学ぶ。 C：汎用的スキル：各種の問題発見能力を高める D：態度・志向性：OECD諸国の教育政策の特徴を踏まえ、我が国の教育政策の課題について学ぶ					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
.....					
.....					
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 先進国の教育政策に関するニュース・記事を情報収集し、自分の言葉でまとめる作業を継続的に行うことを求める。					
<b>テキスト：</b>					
<b>参考書：</b> OECD (2016) Education at a Glance, OECD (2015) Ensuring Quality in Cross-Border Higher Education OECD (2014) Pisa 2012 Results, Students and Money: Financial Literacy Skills for the 21st Century					
<b>授業資料：</b> 必要に応じて、適宜配布する。					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識 ・理 解	B： 専門 的技 能	C： 汎用 的技 能	D： 態度 ・志 向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験					
小テスト	○				
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）	○			○	

授業への貢献度	◎		○	○	
作品					
出席				◎	
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：					
学習相談：後期火曜日のお昼休み(12:00-13:00)に適宜、学習相談に応じる。					
その他：					
更新日付：2017/03/27 11:57:25					



	解	能	能	向性	
学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）	◎	◎	◎	○	50%
授業への貢献度	◎	◎	○	◎	40%
作品					
出席	○	○	○	◎	10%
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関する補足事項：</b>					
<b>学習相談：</b> 随時メールにて受け付けます。授業内容だけでなく、報告の仕方などについても不安な方は早めに相談してください。					
<b>その他：</b> 本授業では、『洋書』を用いて数式を多用した『数理モデル』を学びます。内容の深い理解が求めます。よって、少人数が望ましいと考え、第一回の授業で受講希望者が多い場合には選抜レポートをおこないます。					
<b>更新日付：</b> 2017/03/27 08:48:12					



平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：外国書講読（仏語経済）①		講義題目：フランス語で読む近代経済史			
授業科目区分：		講義コード：17172121			
開講学期等：後期	担当教員名：藤井 美男	単位数：2.0		対象 学年等：学部2，3，4年	
履修条件： フランス語読解の基礎力があること。 受講に積極的な姿勢を持つこと。		キーワード： フランス語・西洋経済史・商業革命・大航海時代・近代世界システム		履修に必要な知識・能力： フランス語の基本的文法を理解し、 社会科学的な思考力によってフランス語の文章を解釈することができること。	
<b>授業の概要：</b> Le Grand Commerce maritime au XVIIIe siecle 中の論文を講読することを通じて、大航海時代の国際貿易について知識を深めていく。 By reading the texte (one of the articles contained in Le Grand Commerce maritime au XVIIIe siecle), you will be able to understand the situation of the trades executed globally during the 18th century.					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解：以下の諸点について、ヨーロッパの大航海時代を史実と共に説明できる。・大西洋システム・商業革命・東インド貿易 B：専門的スキル：ヨーロッパ近世史に関する基本的知識や用語を、フランス語で理解することができる。 C：汎用的スキル： D：態度・志向性：ヨーロッパ近世の経済あるいは貿易について、深い洞察を行い、現代的問題関心を深めることができる。また、授業への積極的な関与によって、フランス語での理解や表現を練磨することが可能となる。					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
第1回 授業とテキストに関する説明。		○		予習が不可欠である。以下同様。	
第2回 受講生による輪読開始。以降同様。途中小テストを行うことがある。			演習。以下同様。		
授業以外での学習にあたって：予習が不可欠である。					
テキスト：Le Grand Commerce maritime au XVIIIe siecle.					
参考書：適宜授業中に示す。					
授業資料：適宜授業中に示す。					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識・理解	B： 専門的スキル	C： 汎用的スキル	D： 態度・志向性	備考（欠格条件・割合）
学期末試験	◎	◎		◎	
小テスト	○	○		○	
レポート					

発表（プレゼン・スピーチ	○	○		○	
授業への貢献度	○	○		○	
作品					
出席	◎	○		◎	
その他（自由記述1）					
その他（自由記述2）					
その他（自由記述3）					
成績評価基準に関わる補足事項：おおむね、出席80%、定期試験20%で成績評価する。					
学習相談：オフィスアワー・学習相談は随時。メールにて予約をすること。fujii@econ.kyushu-u.ac.jp					
<p>その他：本講義は『学部EU研究ディプロマプログラム（学部EU-DPs）』科目（経済モジュール）としても開講する。</p> <p>【EU-DPs 科目分類】</p> <p>(B) 歴史・思想・文化など、EUに関連するものを扱う。</p> <p>「本科目はEU研究ディプロマプログラム（EU-DPs）に開放されています。<a href="http://eu.kyushu-u.ac.jp/index.jp.html">http://eu.kyushu-u.ac.jp/index.jp.html</a> 本科目では、歴史・思想・文化など、EUに関連する内容の講義を行います。</p>					
更新日付：2017/04/19 10:36:57					

平成29年度 授業計画 (syllabus)

授業科目名：外国書講読（英語経済）①		講義題目：英字新聞から読む横浜居留地貿易			
授業科目区分：		講義コード：17172126			
開講学期等：後期	担当教員名：齋藤 和平	単位数：2.0		対象 学年等：学部2，3，4年	
履修条件：		キーワード： 日本経済史，横浜居留地貿易，商品流通，対外関係		履修に必要な知識・能力： 基礎的な英語の読解力と，日本経済史に関する知識を有している者が望ましい。また，毎回の授業に出席する，継続力が求められる。	
<b>授業の概要：</b> 本講義では，横浜居留地で活動を行う外国人商人向けに発刊された英字新聞である“The Japan Weekly Mail”を利用し，1870～1899年における横浜貿易の実態や居留地貿易のシステムを学ぶ。同新聞には，貿易商品価格や船の発着予定，国際経済情勢など，貿易を行う上で有用な情報が記されている。また経済情報のみならず，対日貿易に対する英国領事館の報告や，日本政治に関するトピック，商取引関係訴訟の判決，日本の書誌情報，日本文化・芸術などの幅広い事柄が掲載されている。この新聞は日本の情報を対外的に発信する役割も担っており，19世紀後半に日本という国が外国からどのように捉えられていたかを同新聞からは知ることができる。 The purpose of this class is to study the open port system in Yokohama by using “The Japan Weekly Mail”. “The Japan Weekly Mail” is an English news paper published in Yokohama for foreign trades. There are many informations, such as prices of trading goods, reports by British Embassy about trade, Japanese culture, in this news paper. You will study and discuss about roles of the open port system in Yokohama and the impacts of this trade in Japanese history.					
<b>到達目標：</b> A：知識・理解： B：専門的技能： C：汎用的技能： D：態度・志向性：					
<b>授業計画：</b>					
進度・内容・行動目標		講義	演習・その他	授業時間外学習	
ガイダンス，報告者割り当て					
輪読：“The Japan Weekly Mail”					
輪読：“The Japan Weekly Mail”					
輪読：“The Japan Weekly Mail”					
輪読：“The Japan Weekly Mail”					
輪読：“The Japan Weekly Mail”					
輪読：“The Japan Weekly Mail”					
輪読：“The Japan Weekly Mail”					
輪読：“The Japan Weekly Mail”					
輪読：“The Japan Weekly Mail”					
輪読：“The Japan Weekly Mail”					
輪読：“The Japan Weekly Mail”					
輪読：“The Japan Weekly Mail”					
輪読：“The Japan Weekly Mail”					
輪読：“The Japan Weekly Mail”					
輪読：“The Japan Weekly Mail”					
<b>授業以外での学習にあたって：</b> 履修者は，授業までに英字新聞の該当箇所を和訳しておくこと。また，報告者はプレゼンの準備（レジュメ，スライドの作成，論点の提示）を行う。					
<b>テキスト：</b> “The japan Weekly Mail”（教員が，初回授業でコピーを配布）。					
<b>参考書：</b> 必要な場合は，適宜指示する。					
<b>授業資料：</b>					
<b>成績評価：</b>					
評価方法・観点	A： 知識	B： 専門	C： 汎用	D： 態度	備考（欠格条件・割合）

	・理解	的技 能	的技 能	・志 向性	
学期末試験					
小テスト					
レポート					
発表（プレゼン・スピーチ）	◎				
授業への貢献度	◎				
作品					
出席	○				
その他（自由記述1） その他（自由記述1）					
その他（自由記述2） その他（自由記述2）					
その他（自由記述3） その他（自由記述3）					
<b>成績評価基準に関わる補足事項：</b>					
<b>学習相談：</b> 随時受け付ける。メールにて、事前にアポイントメントを取ること。					
<b>その他：</b>					
<b>更新日付：</b> 2017/03/31 11:30:09					